

# 講義内容

グローバル・  
メディア・  
スタディーズ学部

2006  
(平成18)  
年度

# 講 義 內 容

## 目 次

I	全 学 共 通 科 目	
	1 宗 教 教 育 科 目 .....	9
	2 教 養 教 育 科 目 .....	19
	(1) 人 文 分 野 .....	19
	(2) 社 会 分 野 .....	50
	(3) 自 然 分 野 .....	73
	3 外 国 語 科 目 .....	97
	4 保 健 体 育 科 目 .....	127
II	專 門 教 育 科 目 .....	135

全		宗教教育科目
	学	
共		
	通	
科		
		保健体育科目
目		専門教育科目



# I 全学共通科目



# 1. 宗教教育科目



## 1. 宗教教育科目

科目名	配当学科	開講区分	単位	担当者名	ページ
仏教と人間	GM1 必	通年	4	袴谷憲昭	9
仏教と人間	GM1 必	通年	4	角田泰隆	9
仏教と人間	GM1 必	通年	4	石井公成	10
自然と宗教	GM 選	通年	4	小川順敬	10
社会と宗教	GM 選	通年	4	池上良正	11
文化と宗教	GM 選	通年	4	長谷部八郎	11
坐禅	GM 選	半期	2	佐藤秀孝 熊本英人	12



宗教教育科目

科目名	担当者名
仏教と人間	袴谷憲昭

講義のねらい

国や政府が資本を投じて創設した assetsなどを民間に譲渡することを privatization という。一方、capitalism のもたらす歪みを軽減するために設けられた regulation を解除することを deregulation という。しかるに privatization も deregulation も自ら責任を取りうる individuals の確立した社会にして初めて可能となるが、あたかもそれが既に実現しているかのように、経団連などを中心に進められたのが「自己責任」の強調による「終身雇用」の解体である。privatization と deregulation で自らの赤字軽減を企ろうとする little government は、その結果もたらされる社会不安を力によって押えるため、国内には警察権の強化を、国外には自衛隊の軍隊化を実現しようとしている。U.S.A. を中心に進められているこのような global な政策を globalism という。これは1980年代以降の PC の普及と共にあったが、本学部は、そのような globalism の一環を media を基本に学問的に確立していこうとする学部のはずである。その学部設立の idea は Buddhism に置かれている。その Buddhism を Buddhology の成果に基づいて講義する。

講義の内容・授業スケジュール

(1) 自己と他者、(2) 信仰と言葉、(3) 北西インド、(4) マガダの地、(5) 北伝の地域、(6) 南伝の地域、(7) インドの古代、(8) 開祖の伝記、(9) 三蔵の成立、(10) 発展の時代、(11) 宗教の定義、(12) 業と輪廻と、(13) 解脱と成仏、(14) 苦行と布施、(15) 無我と五蘊、(16) 縁起の思想、(17) 四諦の教義、(18) 有為と無為、(19) 一音演説法、(20) 小乗と大乘、(21) 空性と唯識、(22) 顕教と密教

履修上の留意点

ときには Russel の Political Ideals をプリントで配布して講読することがあるので気をつけられたい。

成績評価の方法

学年末の定期試験によって評価する。

教科書

袴谷憲昭著『仏教入門』(大蔵出版) 2004年

参考書等

袴谷憲昭著『日本仏教文化史』(大蔵出版) 2005年

科目名	担当者名
仏教と人間	角田泰隆

講義のねらい

宗教とは何か、そして仏教とは何かについて、その基本的事柄について、できるだけわかりやすく講義する。特に、葬式仏教と批判され誤解されている仏教を、正しく認識してもらいたいと思う。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、宗教とは何かについて概説し、世界宗教(キリスト教・イスラム教)と民族宗教(ユダヤ教・ジャイナ教・ヒンドゥー教・儒教・道教・神道ほか)についてそれぞれ講義する。後期は、仏教の歴史及び思想を解説する。

成績評価の方法

定期試験の筆記試験の成績によって評価する。

教科書

なし

科目名	担当者名
仏教と人間	いし 井 公 成 石 井 公 成

講義のねらい	仏教の基本的な教理と歴史、および日本を含めた世界の諸宗教について概観し、仏教の特色と仏教が果たした役割について考えてゆく。
講義の内容・授業スケジュール	仏教の誕生について説明したのち、諸国の様々な宗教を概観し、その後で再度、仏教に戻って仏教の特色について検討してゆく。禪宗については、文学や芸能との関係についても注意する。
履修上の留意点	講義形式ではあるものの、毎回プリントを配布し、学生諸君に少しずつ読んでもらうほか、どんどん質問して答えてもらうため、積極的に参加する意欲が必要である。
成績評価の方法	平常点および年に数回行なう小テストによる。熱心に参加している者については評価する。
教科書	プリントを配布する。
参考書等	一覧のコピーを配布する。

科目名	担当者名
自然と宗教	お 小 川 順 敬 小 川 順 敬

講義のねらい	人間は古来から、自然のいとなみの背後に説明のつかない大きな力を感じ、自然の事物や、自然現象を崇拜の対象としてきたと言われます。それでは、人間は自然の背後にどのような“説明のつかない力”をみたのでしょうか。あるいは、自然を人間とのつながりでどのようにとらえ、考えてきたのでしょうか。 この講義では、宗教と自然との関わりという角度から、これらの問題を考えてゆくことにしたいと思います。
講義の内容・授業スケジュール	まず最初に、宗教現象を考えていくための宗教学、宗教人類学のいくつかの基本的な概念を概説、紹介します。その後、山と宗教、海と宗教、森と宗教、また仏教と自然、キリスト教と自然などのテーマを立て、具体的事例をあげながら人間と自然との宗教的な関わりや諸相を紹介していくことにしたいと思います。また、環境問題に対する仏教やキリスト教、新宗教、あるいは伝統宗教からの発言や取り組みを紹介し、その考え方や今日的評価・議論を概観、紹介する予定です。
成績評価の方法	評価はレポートと年度末の筆記試験（もしくはレポート試験）により行います。夏期休暇前にレポート課題を出します。成績評価の具体的な方法、年度末試験の方針、レポートの内容、出席等は最初の授業で詳しく説明します。
教科書	原則として教科書は用いません。
参考書等	講義の内容に関連する参考書は適宜紹介します。

科 目 名	担 当 者 名
社会と宗教	池 上 良 正 <small>いけがみよしまさ</small>

講義のねらい

宗教学・宗教社会学などの理論的成果をふまえて、「近代社会と宗教」というテーマを中心に講義する。近代という特異な時代が成立する過程において宗教はどのような関わりをもったのか、様々な問題を抱えた近現代社会のなかで宗教はどのような形態で存続し、またどのような意義や役割を担っているのか、といった問題を考える。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、宗教が近代社会の形成に果たした役割についての考察からスタートして、世俗化論、私事化論、グローバル化と宗教などの問題を検討する。後期は、現代世界における宗教の動態的理解をふまえて、近代国家と宗教との関係について考える。近年の「靖国問題」を考える手ごかりなども探してみたい。

成績評価の方法

年度末に筆記試験を行なう。

教 科 書

特に指定しない。

参 考 書 等

授業中に適宜紹介する。

科 目 名	担 当 者 名
文化と宗教	長 谷 部 八 朗 <small>はせべはちろう</small>

講義のねらい

本講義は、我が国の近代以降、各時代状況の中で、宗教が社会とどのようにかわり、近・現代の精神文化の形成に影響を及ぼしたかを、仏教を中心にみていく。具体的には、寺院の中でもいわゆる教会・結社組織に焦点を据え、それらが、仏教と民衆をつなぐ接点として果たしてきた役割を探ってみる。仏教諸宗派の中でも教会・結社活動の盛んであった曹洞宗や日蓮宗を主軸に講述する。

また、そうした教会・結社と新宗教・新新宗教を比較検討し、両者に対する民衆のニーズとそれに対する対応の仕方の類似点および相違点を明らかにしていきたい。

成績評価の方法

開講後に決定する。授業時に1、2回小論文を課し、評価の一部に加える予定である。

教 科 書

使用しない。

参 考 書 等

授業の中で適宜紹介する。

科目名

担当者名

坐禅

さとう しゅうこう くまもと えいじん  
 佐藤 秀孝・熊本 英人

## 講義のねらい

駒澤大学では建学の理念に基づき宗教教育科目が設けられ、その中に「坐禅」の授業があります。本授業は、仏教学部だけではなく広く一般学生に門戸を開き「坐禅」の世界を知ってもらうことを、その目的としています。他大学では経験できない、駒澤ならではの授業が「坐禅」といえるでしょう。坐禅に触れることによって、本学の良さを味わい、学生生活の貴重な体験としてもらいたいと思い、この授業を進めるものです。

今、私たちの回りでは、さまざまな宗教が声高に叫んでいます。反面、多くの人は何を拠り所にしてよいか不安感が募っています。基本的な人生観を学生時代にこそ考え培いたいものです。

坐禅は、決して特殊な精神状態を作るものではありません。姿勢を整え、静けさの中で自己を見つめるのです。初めはぎこちないかもしれませんが、何回か経験するうちに静けさに落ちつきを感じることでしょう。

この授業では、初心者にも無理なく坐禅に親しめることに指導のポイントを置き、経験を積む中で、坐禅の静寂な時間に落ちつきと安らぎが感ぜられるよう実習を進めたいと思っています。併せて、坐禅の世界をより深く体得できるように、禅の歴史とその思想にも触れる時間を設けます。

講義の内容・  
授業スケジュール

半期単位ですので、全体で13回ほどの開講数が予定されます。その流れを以下のように進めます。

1～3「坐禅の作法指導」（坐禅堂に即して基本的知識と、坐るに至るまでの作法を修得）

4～13「坐禅実習」（1回の坐禅実習の時間は、初心者にも無理のない程度です）

（道元禅師の書かれた坐禅の指導書ともいえる『正法眼蔵－坐禅儀』を通して坐禅の本来の姿を学びます）

## 履修上の留意点

実習をその主なる内容としますので出席を重視します。また、まじめに授業を受けられることを要望します。

## 成績評価の方法

出席数、出席態度、レポートを総合して成績評価とします。

## 教科書

適宜、プリントにて配布します。

## 参考書等

『坐禅—講本—』（更生社）2,226円

## 2. 教養教育科目

人文分野

## 2. 教養教育科目

### (1) 人文分野

科目名	配当学科	開講区分	単位	担当者名	ページ
文学〔日本文学「古典」〕	GM 選	通年	4	八島由香	19
文学〔日本文学「古典」〕	GM 選	通年	4	伴野英一	19
文学〔日本文学「古典」〕	GM 選	通年	4	鈴木裕子	20
文学〔日本文学「近代」〕	GM 選	通年	4	川島淳史	20
文学〔日本文学「近代」〕	GM 選	通年	4	小林治	21
文学〔日本のことば〕	GM 選	通年	4	中西亮太	21
文学〔外国文学「アメリカ文学」〕	GM 選	通年	4	田中保	22
文学〔外国文学「中国文学」〕	GM 選	通年	4	佐藤普美子	22
文学〔日本文学「古典」〕 —フレックス B 開講—	GM 選	通年	4	田中伸作	23
文学〔日本文学「近代」〕 —フレックス B 開講—	GM 選	通年	4	中西亮太	23
歴史学〔日本中世史〕	GM 選	通年	4	栗原修	24
歴史学〔東アジア考古学〕	GM 選	通年	4	千葉基次	24
歴史学〔古代オリエント史〕	GM 選	通年	4	大城道則	25
歴史学〔西洋中世史〕	GM 選	通年	4	舟橋倫子	26
歴史学〔日本近世史〕	GM 選	通年	4	小高昭一	26
歴史学〔日本近代史〕	GM 選	通年	4	立川章次	27
歴史学(1)〔日本近代史〕 —フレックス B 開講—	GM 選	通年	4	林彰	27
歴史学(2)〔中国史概観〕 —フレックス B 開講—	GM 選	通年	4	小林惣八	27
歴史学(3)〔アジア史概観〕 —フレックス B 開講—	GM 選	通年	4	小林惣八	28
芸術学(1)〔日本美術〕	GM 選	通年	4	北野良枝	28
芸術学(2)〔西洋美術〕	GM 選	通年	4	矢野陽子	29
芸術学(3)〔音楽〕	GM 選	通年	4	浦本裕子	29
哲学(1)(3)〔西洋思想の源流〕	GM 選	通年	4	河谷淳	30
哲学(2)〔西洋思想の源流〕	GM 選	通年	4	中村友太郎	31
哲学(4)〔近代の人間観と世界観〕	GM 選	通年	4	古田知章	31
哲学(5)〔近代の人間観と世界観〕	GM 選	通年	4	久保陽一	32
哲学(6)〔近代の人間観と世界観〕	GM 選	通年	4	植野公稔	32
哲学(7)〔現代文明と人間〕	GM 選	通年	4	黒崎剛	33
哲学(8)〔現代文明と人間〕	GM 選	通年	4	滝沢正之	33
哲学(9)〔現代文明と人間〕	GM 選	通年	4	久保陽一	34
哲学〔西洋思想の源流〕 —フレックス B 開講—	GM 選	通年	4	滝沢正之	34
哲学〔近代の人間観と世界観〕 —フレックス B 開講—	GM 選	通年	4	伊古田理	35
哲学〔現代文明と人間〕 —フレックス B 開講—	GM 選	通年	4	鈴木聡	35



人文分野

論理学〔科学方法論と現代論理学〕	GM 選	通年	4	鈴木聡	36
論理学〔科学方法論と現代論理学〕	GM 選	通年	4	山口祐弘	37
論理学〔科学方法論と現代論理学〕	GM 選	通年	4	河谷淳	38
論理学〔科学方法論と現代論理学〕	GM 選	通年	4	滝口清栄	38
論理学〔知の技法〕	GM 選	通年	4	伊古田理	39
論理学〔知の技法〕	GM 選	通年	4	植野公稔	40
論理学〔科学方法論と現代論理学〕 —フレックス B 開講—	GM 選	通年	4	伊古田理	40
論理学〔科学方法論と現代論理学〕 —フレックス B 開講—	GM 選	通年	4	麻生享志	41
倫理学(1)〔人間観〕	GM 選	通年	4	古田知章	42
倫理学(2)(7)〔応用倫理学〕	GM 選	通年	4	黒崎剛	43
倫理学(3)〔価値観〕	GM 選	通年	4	滝沢正之	43
倫理学(4)〔応用倫理学〕	GM 選	通年	4	麻生享志	44
倫理学(5)〔制度とモラル〕	GM 選	通年	4	滝口清栄	44
倫理学(6)〔東洋倫理〕	GM 選	通年	4	末木恭彦	45
宗教学(1)〔比較宗教文化〕	GM 選	通年	4	池上良正	46
宗教学(2)〔聖と俗〕	GM 選	通年	4	田中かの子	47
宗教学(3)〔世界観と儀礼〕	GM 選	通年	4	小川順敬	47
宗教学(4)〔日本人の宗教〕	GM 選	通年	4	矢野秀武	48
宗教学(5)〔生活と宗教〕	GM 選	通年	4	菅原壽清	48
宗教学(6)〔民俗宗教の諸相〕	GM 選	通年	4	浅川泰宏	49
宗教学〔比較宗教文化〕 —フレックス B 開講—	GM 選	通年	4	田中かの子	49
教育の思想	GM 2 選	半期	2	〔19年度開講予定〕	
教育と社会	GM 2 選	半期	2	〔19年度開講予定〕	
発達と学習の心理学	GM 2 選	半期	2	〔19年度開講予定〕	
カリキュラムと学習	GM 2 選	半期	2	〔19年度開講予定〕	

(2) 社会分野

科目名	配当学科	開講区分	単位	担当者名	ページ
法学・憲法(1)〔法と社会生活〕	GM 選	通年	4	長谷川日出世	50
法学・憲法(2)〔法と社会生活〕	GM 選	通年	4	和知恵一	51
法学・憲法(3)〔法と社会生活〕	GM 選	通年	4	沼田雅之	52
法学・憲法(4)〔法と社会生活〕	GM 選	通年	4	鶏徳啓登	53
法学・憲法(5)〔法と権利〕	GM 選	通年	4	沼田雅之	54
法学・憲法(6)(9)〔法と国家〕	GM 選	通年	4	佐藤多美夫	55
法学・憲法(7)(8)〔法と国家〕	GM 選	通年	4	新田浩司	56
法学・憲法(10)〔法と国家〕	GM 選	通年	4	織田晃子	57
法学・憲法(11)〔法と権利〕	GM 選	通年	4	茂野隆晴	58
法学・憲法(12)〔法と権利〕	GM 選	夏季集中	4	池田実	59
法学・憲法〔法と権利〕 —フレックス B 開講—	GM 選	通年	4	鶏徳啓登	60
法学・憲法〔法と社会生活〕 —フレックス B 開講—	GM 選	通年	4	長谷川日出世	60
経済学〔現代社会と市場経済〕	GM 選	通年	4	畠中貴	61
経済学〔現代経済と人間〕	GM 選	通年	4	森田成也	62

経済学〔現代経済理解へのガイド〕	GM 選	通年	4	佐藤綾野	63
経済学〔現代経済と人間〕 —フレックス B 開講—	GM 選	通年	4	沼田郷	63
社会学(1)(2)〔現代社会を考える〕	GM 選	通年	4	呉炳三	64
社会学(3)(4)〔現代文化を考える〕	GM 選	通年	4	呉炳三	65
社会学(5)〔社会生活を考える〕	GM 選	通年	4	小畑和	66
社会学(6)〔社会生活を考える〕	GM 選	通年	4	呉炳三	67
社会学〔現代社会を考える〕 —フレックス B 開講—	GM 選	通年	4	呉炳三	68
社会学〔現代文化を考える〕 —フレックス B 開講—	GM 選	通年	4	橋瓜敏	68
政治学〔社会生活とデモクラシー〕	GM 選	通年	4	横田匡紀	69
政治学〔政治システムと政治参加〕	GM 選	通年	4	水戸克典	70
政治学〔国際社会と日本〕	GM 選	通年	4	三船恵美	71
政治学〔政治システムと政治参加〕 —フレックス B 開講—	GM 選	通年	4	真下英二	71
政治学〔国際社会と日本〕 —フレックス B 開講—	GM 選	通年	4	山村恒雄	72

### (3) 自然分野

科目名	配当学科	開講区分	単位	担当者名	ページ
心理学(1)〔ヒューマン・ウォッチング〕	GM 選	通年	4	高橋良博	73
心理学(2)(3)〔ヒューマン・ウォッチング〕	GM 選	通年	4	加藤博己	73
心理学(4)〔ヒューマン・ウォッチング〕	GM 選	通年	4	仲渡江美	74
心理学(5)〔人間関係を考える〕	GM 選	通年	4	高橋良博	74
心理学(6)〔人間関係を考える〕	GM 選	通年	4	鈴木順一	75
心理学(7)〔人間関係を考える〕	GM 選	通年	4	加藤博己	76
心理学(8)〔人間関係を考える〕	GM 選	通年	4	鈴木順一	77
心理学(9)〔心を科学する〕	GM 選	通年	4	高橋良博	77
心理学(10)〔心を科学する〕	GM 選	通年	4	名取志保	78
心理学(11)〔心を科学する〕	GM 選	通年	4	中丸茂	79
心理学(12)〔心を科学する〕	GM 選	夏季集中	4	深堀友覚	80
心理学(1)〔ヒューマン・ウォッチング〕 —フレックス B 開講—	GM 選	通年	4	鈴木順一	81
心理学(2)〔人間関係を考える〕 —フレックス B 開講—	GM 選	通年	4	鈴木順一	82
数学(1)〔微積分学入門〕	GM 選	通年	4	小沢誠	83
数学(2)〔線型代数学入門〕	GM 選	通年	4	小沢誠	83
数学(3)〔現代数学入門〕	GM 選	通年	4	福田賢一	84
生物学〔生態と進化〕	GM 選	通年	4	清水善和	85
生物学〔生物と環境〕	GM 選	通年	4	中村敏枝	86
生物学〔生態と進化〕 —フレックス B 開講—	GM 選	通年	4	清水善和	87
生物学〔生物と環境〕 —フレックス B 開講—	GM 選	通年	4	中村敏枝	88
自然環境論〔生命と環境〕	GM 選	通年	4	中村敏枝	89
自然環境論〔生命と環境〕	GM 選	通年	4	持丸真里	89

自然環境論〔生命と環境〕	GM 選	通年	4	坂野井和代	90
自然環境論〔生物の集団と環境〕	GM 選	通年	4	坂巻義章	90
自然環境論〔宇宙から見た地球環境〕 —フレックス B 開講—	GM 選	通年	4	篠原正雄	91
自然環境論〔生命と環境〕 —フレックス B 開講—	GM 選	通年	4	中村敏枝	92

科目名	担当者名
文学〔日本文学〔古典〕〕	八島由香

講義のねらい	平安後期物語を〈読む〉
講義の内容・授業スケジュール	『源氏物語』の影響を多大に受けながらも、独自のストーリー展開をさせていこうと、趣向をこらしているのが、一般的に「平安後期物語」と称される『狭衣物語』『夜の寝覚』『浜松中納言物語』『とりかへばや物語』『堤中納言物語』といった、『源氏物語』以後の物語です。これらの作品の場面をいくつか取り上げ、実際にその本文に触れながら解説を加えることによって内容・特色を理解し、その上で物語文学における平安後期物語のあり方について考えたい。
履修上の留意点	出席に関して。出席数が年間を通じて講義数の3分の2に達しない場合、単位を認定しません。また、講義開始時間から、15分以上の遅刻は出席としません。15分以内の遅刻は2回で欠席1回と数え、遅刻が前・後期各4回を数えた時点で単位を認定しません。事前に届け出があり、なおかつその理由が認めうる早退に関しては、遅刻同様の扱いとします。
成績評価の方法	出席状況と講義時間内で度々行う小レポートによって評価します。期末レポートや期末テストの実施はいたしません。小レポートは、講義が終了した後、講義内容に関する設問をし、それについて10～15分程度の時間で答えていただくものです。A、B、C、Dの4段階で評価をします。また、時には小レポートで感想・意見を求めることもあります。こちらは評価の対象とはしません。なお、評価をした小レポート並びに感想・意見を求めた小レポートに関しましては、できるかぎりコメントを付けた上で、講義時間内に返却することを考えています。
教科書	大槻修編『平安後期物語撰』（和泉書院）1,545円
参考書等	適宜、教場で指示します。
その他	教科書を用いての講義形式です。必ず教科書を購入して下さい。また、必要に応じてプリントを配布いたします。講義の初回は講義内容や評価方法の説明をするため、2回目の講義から出席をとります。ただし、講義内容や評価方法、並びに履修上の留意点（出席）などの詳しい説明は、以後繰り返して説明しません。なお、受講を希望する4年生は、別に出席に関する説明がありますので、3回目までには必ず出席をして下さい。

科目名	担当者名
文学〔日本文学〔古典〕〕	伴野英一

講義の内容・授業スケジュール	いわゆる文運東漸期前後から、洒落本を中心として近世戯作文芸を概観する。実際に作品を読むことで、文芸における「滑稽」がどのように表現されるのかを考察する。また、当時の風俗など、作品成立の時代的背景についても適宜触れてゆく。
成績評価の方法	出席点と年度末試験を重視する。受講態度も評価に加味する。出席数が年間を通じての講義数の三分の二に達しないものは単位を認定しない。及び、年度末試験の得点が六十点に満たないものも単位を認定しない。また、時に臨みレポートを課し、それも評価する。
教科書	必要に応じてプリントを配布する。
参考書等	その都度、講義中に指示する。

科目名

担当者名

文学〔日本文学「古典」〕

すずき ひろこ  
鈴木 裕子

人  
文  
分  
野

講義のねらい

和歌で読む『源氏物語』

古典の物語において和歌は重要な役割を果たしている。今回は、特に『源氏物語』を取り上げ、作品を読みながら和歌がどのように用いられているか、見ていくことにする。和歌を読み解くことで、作中人物の状況や心情、意思、あるいは無意識の深層まで理解することができるとおもしろい。

講義の内容・授業スケジュール

古典和歌になじみのない人のために、始めは現代語訳の『源氏物語』で和歌がどう扱われているかについて確認する。次に、原文から精選した場面を読みながら、和歌の機能について理解を深めていければよいと考えている。

(前期)・『源氏物語』概説(さまざまな現代語訳)

・第一部の物語世界から(藤壺・中の品の女たち・六条御息所の歌など)

(後期)・第二部の物語世界から(紫の上・女三の宮・明石の一族の歌など)

・第三部の物語世界から(薫・宇治の姉妹・浮舟の歌など)

履修上の留意点

授業はテキストやプリント教材を用いての講義形式が基本となろうが、頻繁に小作文などの課題を出題する。

成績評価の方法

前期・後期にそれぞれ一度ずつ行う試験(論題等は授業時に提示)・授業態度(欠席・遅刻をしないことは前提)・課題などから総合的に行う。授業中の私語や途中退室等をする者には厳しく対処する。

教科書

俵万智『愛する源氏物語』(文藝春秋社)、その他プリント教材。

参考書等

参考書は、授業中に指示する。

科目名

担当者名

文学〔日本文学「近代」〕

かわしま あつし  
川島 淳史

講義のねらい

日本の近代文学はどのように成立し、発展していったのか。明治二十年代から三十年代にかけての時代状況を見据えつつ、近代文学の成立過程を考察していきたい。

講義の内容・授業スケジュール

今年度は日清戦争前後から日露戦争前後にかけての文壇の動向を中心に考察していきたい。この時期、日本は政府の主導により、積極的に近代化を推進し、西洋の思想・技術・文明を摂取して、国民国家を形成していった。しかし、その性急な近代化は他方でさまざまな社会問題を引き起こす原因ともなったのである。そのような時代状況のなかで、文学者たちはそれをどのように見つけ、作品に書きあらわしていったのか。森鷗外、北村透谷、泉鏡花、川上眉山、広津柳浪、樋口一葉、内田魯庵などの作品を通して「日本の近代」の諸問題を検討していきたいと思う。

履修上の留意点

この講義では可能な限り多くの作品を取り上げたいと考えている。当然のことながら、予告された作品は事前に読んでおき、受講する際は必ず携帯しておくこと。また、受講後は各自紹介された文献を探し、レポート作成の準備をしておくことが必要。

成績評価の方法

講義で問題提起した事柄を各自考察し、レポートを作成する。出席状況と三回ないし四回のレポートの内容によって評価する。提出の期日を過ぎてしまった場合は受け取らないので注意すること。

教科書

詳しくは最初の時間に指示する。必要に応じてプリントを配布するが、文庫本などの入手しやすいものは各自で購入してもらう。

参考書等

その都度、講義の中で指示する。

科目名	担当者名
文学〔日本文学〔近代〕〕	こばやし 小 林 治

講義のねらい	優れた文学作品の条件とは何だろうか。一例としてリアリティを挙げても、現実を写してありのままらしく見えるものほど実はリアルではなく、技巧によってそれらしく仮装された規範にすぎないことも多い。このような文学特有の陥穽を見通す視点から、文学について再考することを試みたい。
講義の内容・授業スケジュール	対象に予定している作家は、第二次戦後派の安部公房、また異端の作家として深沢七郎、ルポルタージュ文学の先駆者としての上野英信である。主に教科書と配布プリントを使用する。
履修上の留意点	具体的に上記の作家の作品を読んでいく中で、文学作品という現象を通じて見えてくるものは何か、あるいは文学が表現し得るものは何かを考えていくので、講義を受ける前にあらかじめ対象作品だけは読んでおいていただきたい。作品名の詳細は講義を進めていく中で、時々指示するが、とりあえず下記の作品と教科書で指定する作品は必読である。 安部公房『砂の女』 深沢七郎『檀山節考』 上野英信『追われゆく坑夫たち』
成績評価の方法	定期試験の結果、レポートの内容を総合し、さらに出席状況を加味して評価する。
教科書	安部公房『R62号の発明、鉛の卵』（新潮文庫）552円 安部公房『水中都市・デンドロカカリヤ』（新潮文庫）514円
参考書等	授業時に指示する。

科目名	担当者名
文学〔日本のことば〕	なか にし りょう た 中 西 亮 太

講義のねらい	近代短歌の主要な歌集と歌論を読み、近代短歌史の流れを概観します。短歌は五句三十一音を基本型とする、たいへん短い定型詩です。その短い形を生かすために、歌人は名詞や動詞はもちろんのこと、助詞や助動詞といった「見目立たない〈ことば〉」の要素にまで気を配ります。したがって、読者の側も、短歌を読むときには、一字一音にまで注意を払って読み、味わうことが必要です。例えば〈背のびして唇づけ返す春の夜のこころはあはれみづみづとして〉（中城ふみ子『乳房喪失』）という歌がありますが、この歌の舞台が他の季節でなく〈春〉であることは、歌全体にどのような効果を及ぼしているのでしょうか。この講義ではそのような細かいところにまで光を当てつつ、近代の歌人がどのような表現作法を採り、どのような世界を表現したかを見ていきます。
講義の内容・授業スケジュール	この講義で扱う時代は、明治三十年前後から昭和三十年頃までです。取り上げる歌人は、正岡子規、与謝野鉄幹、与謝野晶子、石川啄木、斎藤茂吉、北原白秋、會津八一、土屋文明、前川佐美雄、斎藤史、塚本邦雄等を予定しています。前期の講義は、明治から大正の前半まで進みます。
履修上の留意点	当然のことではありますが、ただ出席するだけでなく、積極的な姿勢での受講を望みます。授業時間中や時間後の質問を歓迎します。
成績評価の方法	前期末と後期末に、試験を実施します。また、不定期にレポートを課す予定です。
教科書	安森敏雄・末竹淳一郎編『近代短歌と現代短歌』（双文社出版） また、授業中、必要に応じて参考プリントを配布します。
参考書等	授業中に指示します。

科目名	担当者名
文学〔外国文学「アメリカ文学」〕	田中保

講義のねらい	アメリカ文学を概観する授業です。ある程度アメリカ文学史に沿って授業を進めていきますが、今年各時代の歴史と文化を背景にした主な作品を取り扱って、アメリカという国を歴史的、文化的側面から考察していこうと思います。
講義の内容・授業スケジュール	前期は足早にアメリカ文学を概観しながら、主な作品を紹介して行きます。 後期は受講者が各自主な作品の中から関心のある作品を選んで、ひとりで或いはグループ編成をして発表していただく予定です。
履修上の留意点	アメリカ文学作品を実際に読んで、作品を通してアメリカという国を考えてみて下さい。
成績評価の方法	前期・後期のレポート、発表、出席状況等で総合的に評価します。
教科書	テキストは使用しませんが、参考書等は適宜紹介します。 必要に応じてプリントを配布します。
その他	いささかでもアメリカ文学に触れてみたいと思うひとは受講して下さい。

科目名	担当者名
文学〔外国文学「中国文学」〕	佐藤普美子

講義のねらい	90年代以降、政治・経済面で著しい変化を見せている中国では、文学はどのような状況を呈しているのだろうか。文学者たちの多種多様な試みを、具体的作品を通して紹介したい。
講義の内容・授業スケジュール	テキスト（全10章）の各章について2回の講義で解説をします。 毎回授業の最後に、その回の中心テーマについて質問をしますので、自分の考え・感想等を書いて提出していただきます。
成績評価の方法	出席点、前期末・後期末レポートにより、総合的に評価します。
教科書	『「規範」からの離脱—中国同時代作家たちの探求』（山川出版社）1,890円
参考書等	開講後、適宜紹介。

科目名	担当者名
文学〔日本文学〔古典〕〕 —フレックスB開講—	田中伸作

講義のねらい

軍記物語の代表として知られる『平家物語』は、平家一門をとりまく人々のドラマを実に生き生きと描き出している。その内容・叙述において『平家物語』は非常に中世らしい文学作品であると言えるだろう。この作品を読むことで、古典文学に親しみ、中世における文学のあり方を考えることを目的とする。  
また、史実が文学に取り込まれたとき、どのような世界として描かれるのかという歴史文学としての側面も考察したい。

講義の内容・授業スケジュール

『平家物語』の代表的な句を読み、内容と特色を把握する。また、関連する史料を紹介し、時代背景や文化史的な問題も追及する。

成績評価の方法

定期試験の成績による評価。出席状況も重視する。

教科書

『平家物語抄』（おうふう）

科目名	担当者名
文学〔日本文学〔近代〕〕 —フレックスB開講—	中西亮太

講義のねらい

この講義では、明治・大正・昭和の著名歌人の歌集を読み、論じていきます。その過程で、受講者が近代短歌への理解を深めることを目指します。五句三十一文字を基本型とする短歌は、明治以降、庶民がみずからの心やみずからの体験した出来事を表現する文学ジャンルとして親しまれました。また一方で、多くの歌人は、この短い定型詩を近代文学として屹立させるべく、新しい表現世界を切り開いてきました。その両面を、この講義では見ていきます。講義で取り上げる歌を一首紹介しておきます。「野に捨てた黒い手袋も起きあがり指指に黄な花咲かせだす」（斎藤史『魚歌』）

講義の内容・授業スケジュール

取り上げる歌集は、与謝野晶子『みだれ髪』、石川啄木『一握の砂』、北原白秋『桐の花』、斎藤茂吉『赤光』、前川佐美雄『植物祭』、斎藤史『魚歌』、塚本邦雄『水葬物語』、中城ふみ子『乳房喪失』等を予定しています。授業の流れとしては、前期で明治期と大正の前半、後期で大正の後半と昭和期を扱う予定です。

履修上の留意点

当然のことではありますが、ただ出席するだけでなく、積極的な姿勢での受講を望みます。授業時間中や時間後の質問を歓迎します。

成績評価の方法

前期末と後期末に、試験を実施します。

教科書

高野公彦編『現代の短歌』（講談社学術文庫）  
また、授業中、必要に応じて参考プリントを配付します。

参考書等

『短歌シリーズ・人と作品』（桜楓社）  
このシリーズで、後世の研究者が書いた晶子・啄木・白秋・茂吉などの評伝や秀歌鑑賞文を読むことができます。



科目名	担当者名
歴史学〔日本中世史〕	栗原 修

講義のねらい	中世社会の歴史について講義します。とくに、古代→中世、中世→近世へという社会の変化をとらえることをねらいとします。そのなかで、中世とはどのような社会であったのか、その特質をみていきます。
講義の内容・授業スケジュール	(前期) 荘園公領制と幕府 ～武士身分の誕生から鎌倉幕府の成立まで～ (後期) 中世社会の特質と近世国家の誕生
履修上の留意点	年表や日本史辞典を用意してほしい。
成績評価の方法	学年末試験の結果及び平常点により総合的に評価します。
教科書	プリントを随時配布します。

科目名	担当者名
歴史学〔東アジア考古学〕	千葉 基次

講義のねらい	長城地帯から極東アジア地域で民族・特定文物・組織その他から、一つのキーワードを選び出し、授業の主題とする。
講義の内容・授業スケジュール	授業題目の研究史から始め、個々の研究内容を解説し、最後に今後の課題を示す。
履修上の留意点	板書事項もあり、薄くて充分なので専用のノートを用意することが望ましい。
成績評価の方法	毎時出席を確認し、平常授業を評価の基とする。レポートについては出欠状況を見て決める。
教科書	特になし。
参考書等	授業の中で紹介する。

科目名

担当者名

歴史学〔古代オリエント史〕

おおしろみちのり  
大城道則

人文分野

講義のねらい

古代オリエント世界と古代地中海世界との交流関係について具体例を挙げつつ紹介し、当時の歴史背景や研究上の問題点などを解説・指摘する。

講義の内容・授業スケジュール

ヨーロッパ世界の起源である古代地中海世界は、様々な文明と多様な文化が接触・交錯し、相互に影響を与え合い、共存する場であった。我々は、ヨーロッパ世界を理解するために、その根源である古代地中海世界について考える必要がある。そのため本講義では、古代エジプト文明の成立から、古代ギリシアを通して、古代ローマ帝国の地方都市である埋没都市ポンペイや隊商都市バルミラの歴史までを取り扱う。

前期

- (1) 地中海世界の中のエジプト
- (2) 古代エジプト形成期（統一王朝の出現）
- (3) 古王国時代のエジプト（ピラミッドの発展過程）
- (4) 古王国時代のエジプト
- (5) 新王国時代のエジプト
- (6) メソポタミアの古代都市
- (7) 鉄の王国ヒッタイト

後期

- (8) 古代エーゲ文明の成立
- (9) 東方化の時代と大植民時代
- (10) エトルリア文明
- (11) 古代ローマ皇帝伝
- (12) 火山で埋もれた都市ポンペイ
- (13) 古代ローマ人の食生活
- (14) 砂漠の隊商都市バルミラの歴史

履修上の留意点

お互いの信頼関係のため講義中の携帯電話および遅刻・退室は禁じる。配布したプリントはファイルし、毎回講義に持参すること。

成績評価の方法

学年末試験、出席率、受講態度により総合的に評価する。

教科書

講義の際には講義内容に則したプリントを配布する。

参考書等

大城道則『古代エジプト文化の形成と拡散—ナイル世界と東地中海世界—』（ミネルヴァ書房）

その他

画像を多用するためパワーポイントを使用する。

科目名	担当者名
歴史学〔西洋中世史〕	ふな ぼし みち こ 舟 橋 倫 子

講義のねらい	ヨーロッパの理解に必要な基礎知識と考えるヒントを提示し、各人の問題意識をかきたてることを目標とする。
講義の内容・授業スケジュール	授業はローマ帝国滅亡からルネサンスまでの中世と呼ばれる時代のヨーロッパを対象とする。前期はヨーロッパの地理的・文化的大綱をつかむため、ある程度基礎的な解説を行う。各人が自分なりに中世ヨーロッパのイメージを作り上げられるよう、食文化や宗教、祭り等の身近な話題も取り挙げ説明を行う。後期は都市と農村、森、修道院といった具体的な場を設定し、人々をとりまく社会について多面的な検討を行う。最終的にヨーロッパ中世社会に共通するものは何なのかについて考え、解説を行うことで結論とする。
履修上の留意点	受験で世界史を選択しなかった学生への配慮から、ある程度基礎的な説明は行うが、高校の歴史地図帳を用意し、復習しておくことが望ましい。
成績評価の方法	学期末に行う試験によって評価を決定する。試験に際してはノートの持ち込みを許可するが、全て論述形式とするため、出席して自分なりにノートをとってまとめておかないと良い成績は期待できない。
教科書	教科書は特に指定しない。
参考書等	参考書は授業中に内容に応じて指示する。
その他	必要に応じてプリントを配布するが、原則として講義形式で授業を行う。

科目名	担当者名
歴史学(1)〔日本近世史〕	お だか しょう いち 小 高 昭 一

講義のねらい	織田信長から徳川十五代将軍慶喜までの約三百年、日本近世史のおおまかな流れを一年間でたどる。近世に成立した物事は、近代を経て現代にも影響を与えたものが多い。その始点を省みて、現代を生きる我々の知恵となるものを探れないだろうか。
講義の内容・授業スケジュール	教科書を通して読み、江戸時代の流れを捉える。教科書には細かい事項も記述されているが、全体としての流れ、重要な問題を押さえることを主眼とするので、高校までの日本史の勉強とは違う。
成績評価の方法	前期までの授業のまとめとしてレポートを課す。また、定期試験の論述試験での成績で評価する。
教科書	深谷克己著『江戸時代』（岩波ジュニア新書）『日本の歴史6』（岩波書店）2000年3月刊。
参考書等	授業の際、適宜紹介する。

科目名	担当者名
歴史学〔日本近代史〕	立川章次 <small>たち かわ しょう じ</small>

講義のねらい	日本史の流れを概観し、幕末から維新期にかけての過程を考察する。 幕末のわが国は、国内的には商品経済の流通により、封建制が内部矛盾を露呈し、崩壊への兆が、その一方、対外的には欧米列強の外圧に遭遇し、国家存亡の危機に直面したのである。幕末から明治初期にかけての人々は、この恐るべき外圧を契機として、みごと新国家の創造に成功し、近代日本の今日への基礎を築いたのである。このことに留意して新しく維新史を学びたい。
講義の内容・授業スケジュール	前期 維新変革の機運・尊攘運動の展開・王政復古・明治新政・新国家の統一といった幕末から維新期にかけての過程を考察する。 後期 外交の転機となった最初の遣米使節の人々や、咸臨丸の勝海舟、福澤諭吉、中浜万次郎といった人々の啓蒙思想の原点を考察する。
成績評価の方法	定期試験と出席日数により総合的に評価する。
教科書	尾佐竹猛『幕末遣外使節物語』（講談社学術文庫）800円

科目名	担当者名
歴史学(1)〔日本近代史〕 —フレックスB開講—	林彰 <small>はやし てる</small>

講義のねらい	幕末から明治・大正時代にかけての歴史的な流れを、思想・思潮を中心に政治社会の動向をふまえて概観していく予定である。西欧から輸入された近代思想が日本でどのように浸透し、知識人・民衆がどう受容し、在来の伝統的な思想といかに対立・錯綜・混在していくのか。それらを人物・ジャーナリズムなどを中心にみていきたい。
講義の内容・授業スケジュール	前期は、幕末から明治・大正・昭和前期の、いわゆる近代史の概説をこころみる。後期には、著名な人物を取り上げ、論じながら、具体的に日本近代史の歩みを、人物とともにたどることにより、よりいっそうの理解を深める。とくに、体制側の動向（政府ないしは体制側の思想と運動の流れ）と反体制側の運動や思想の動向に留意しながらみていきたい。
成績評価の方法	レポートと定期試験。
教科書	安在邦夫ほか『日本の近代—国家と民衆』（梓出版）2,000円
参考書等	講義中に指示する。

科目名	担当者名
歴史学(2)〔中国史概観〕 —フレックスB開講—	小林惣八 <small>こ ばやし そう ぱち</small>

講義のねらい	中国史の歩みを大別すると、黄河文明、殷周時代、秦漢時代、魏晋南北朝時代、隋唐時代、五代・宋時代、元・明・清時代、新生中国とに分けられる。本講義ではその歩みを多角的にとらえ通観するものである。
成績評価の方法	前・後期のレポート提出と定期試験による総合評価。 詳細は追って指示する。
教科書	特別定めないが、中国史の概説書や図表を座右に置いて聞くことを望む。
その他	出席を重視する。

科 目 名	担 当 者 名
歴史学(3)[アジア概観] —フレックスB開講—	こばやし そう はち 小 林 惣 八

講義のねらい	ユーラシア大陸の歴史の歩みは、中国を中心に北アジア、中央アジア、西南アジア、東南アジア、インドが相互に影響しあいながら進展していく。本講義では、中国の歩みを多角的にとらえ、時に周辺諸民族の歩みにも触れながらこれらを通観するものである。
成績評価の方法	前・後期のレポート提出と定期試験による総合評価。 詳細は追って指示する。
教 科 書	特別定めないが、アジア史の概説書や図表を座右において聞くことを望む。
そ の 他	出席を重視する。

科 目 名	担 当 者 名
芸術学(1)[日本美術]	きた の よし え 北 野 良 枝

講義のねらい	室町時代から江戸時代に至る日本絵画の流れを、中国およびヨーロッパとの関係に留意しつつ概説する。美術の歴史を理解するにあたって、常に作品を参照する必要があるため、授業では毎回スライドを使用する。
講義の内容・ 授業スケジュール	前期 室町から桃山時代の絵画 (1) ガイダンス (2) 絵画に関する基礎知識 (3) ～ (7) 室町時代の水墨画 (8) 阿弥派 (9) 関東水墨画 (10) 土佐派 (11) 狩野正信・元信 (12) ～ (13) 狩野永徳と桃山画壇 後期 江戸時代の絵画 (14) 江戸時代の狩野派 (15) ～ (18) 琳派 (19) ～ (20) 浮世絵 (21) 南蘋派 (22) 文人画 (23) 秋田蘭画と司馬江漢 (24) 円山四条派 (25) 伊藤若冲と曾我蕭白 (26) 江戸から明治へ
履修上の留意点	ペンライトなどを持参し、スライドで映写する。内容についてもノートをとることが望ましい。
成績評価の方法	学年末に筆記試験を実施し、その得点によって評価する。
参 考 書 等	スライドで映写した作品を確認するには、下記のような美術全集があり、いずれも駒澤大学図書館に所蔵されている。 『原色日本の美術』(小学館) 『日本美術全集』(学習研究社) 『日本美術絵画全集』(集英社) 『日本美術全集』(講談社)

科目名	担当者名
芸術学（2）〔西洋美術〕	矢野陽子

講義のねらい	ひとつの美術作品が制作されるにあたっては、芸術家の個性や技術のみならず、その時代と地域の宗教・文化・政治状況などさまざまな要因も関係しています。この講義では私たちとは異なる文化から生まれた西洋美術のうち、およそ15世紀から18世紀まで、つまりイタリア・ルネサンス期からフランス革命期頃までの絵画を主たる対象とします。まず美術の主要な流れを把握し、それから作品に表現された内容とその表現様式の特徴を考えます。さらに芸術家と注文主や鑑賞者との関係、美術が社会のなかで占めていた位置についても考察していきます。
講義の内容・授業スケジュール	前期 15世紀から18世紀までの西洋美術の流れ／絵画のジャンルについて／物語画 後期 物語画以外の諸ジャンル／様式の問題と様式分析／芸術庇護者と美術収集・美術館
履修上の留意点	初回にガイダンスを行うので必ず出席すること。スライドで作品を見ながら講義を進めるので、授業にはなるべく遅刻欠席をせず続けて出席するようにしてください。
成績評価の方法	夏休みの課題としてのレポートと学年末の試験と出席率および授業態度を合わせて評価します。
参考書等	高階秀爾監修『カラー版西洋美術史』（美術出版社）1,900円 三浦篤著『まなごしのレッスン①西洋伝統絵画』（東京大学出版会）2625円
その他	授業では毎回スライドを使用します。

科目名	担当者名
芸術学（3）〔音楽〕	浦本裕子

講義のねらい	音楽は私たちの回りに溢れている。さまざまなメディアから音楽が流れ、カラオケも世界共通語にまでなった。社会のグローバル化が進み、音楽も世界のものに聴けるようになり、ジャンルもボーダーレスになってきた。日本では、演歌など一部のものを除けば、流れている音楽のほとんどがヨーロッパとアフリカの音楽に基づいたものである。音楽理論はヨーロッパで生まれたクラシック音楽に由来し、ポップスにはアフリカ的な要素も多く入り込んでいる。そもそもどのように音楽が生まれてきたのだろうか、そしてどのように享受されてきたのであろうか。 音楽は、本来は、生活の中での祈りや子守歌など「必要なもの」として生まれてきた。世界各地で、環境や生活形態が異なる中で、楽器や発声法などそれぞれ独自の音楽文化を長い時間をかけて形成してきたのである。 この授業では、そのような多様な諸民族の音楽やヨーロッパのクラシック音楽を学ぶことにより、多様な文化の一つとして音楽を理解することを目指したい。
講義の内容・授業スケジュール	前期：ヨーロッパの音楽 （民族音楽とクラシック音楽） 後期：諸民族の音楽（アジアを中心に）
履修上の留意点	・音資料や映像資料を鑑賞するので、できるだけ出席するように。 ・授業中に簡単なレポートを書いてもらうことがあるかも知れません。
成績評価の方法	前期：レポート 後期：試験
教科書	柘植元一・塚田健一編『はじめての世界音楽』（音楽之友社）
参考書等	藤井知昭他編『民族音楽概論』（東京書籍）

## 講義のねらい

この授業ではギリシア哲学（古代哲学）とキリスト教哲学（中世哲学）とを主要なテーマとして取り上げることで「考える」ということがどのような営みなのかを一緒に考えることにしたい。これらふたつの哲学思想は西洋思想の二大源流に対応するものであり、それぞれは知と信という対立のもとに理解することができよう。しかしながら、ふたつの源流は不連続と同時に連続性という側面も併せ持ち、複雑に分岐・合流を繰り返しながら近現代の思想へと流れ込んでいる。そうだとすれば現代の私たちが古代・中世哲学について考えるということは現代哲学の一形態であると言ってもよいであろう。授業ではできるだけ具体的な事例を挙げることで「哲学する」ことを身近に感じてもらえるように努めたい。

講義の内容・  
授業スケジュール

講義では次のような内容を取り扱う。

前期：（１）ギリシア哲学：哲学の始まり  
ソクラテス以前の哲学  
ソクラテスの「無知の自覚」  
プラトンのイデア論  
アリストテレスの質料形相論

後期：（２）キリスト教哲学：信仰と合理性  
神の存在証明  
普遍論争（唯名論と実在論）

（３）近代哲学：認識論的転回  
大陸合理論：デカルトにおける「私」  
イギリス経験論：ロック、バークリ、ヒューム  
カント哲学：コペルニクスの転回

## 履修上の留意点

授業を受け身的に聴くというよりは一緒に問題を考えていくという積極的な姿勢が望ましい。

## 成績評価の方法

前期最終授業日に実施する中間試験と期末試験（40点満点×2）ならびに夏休みレポートと出席状況の総合点で評価する。

## 教科書

『原典による哲学の歴史』（公論社）

科目名	担当者名
哲学（２）〔西洋思想の源流〕	中村友太郎

講義のねらい	古代ギリシアに起源をもつ西洋思想の展開をその端緒から歴史的に辿ることを通じて、「哲学的に考えること」の基本姿勢を、理解しつつ習得することを目標とします。究極的には、現代世界に生きる者として知的探究することがねらいですが、まずは源流に触れて古典的な思考法を身につける努力から始めましょう。
講義の内容・授業スケジュール	〔前期〕古代ギリシアの思想家たちにおける自然観と人間観の形成過程を中心に。中世キリスト教哲学および近代思想の形成期における哲学思索を中心に。なお、講義の内容も展開も参加者の対応次第で変わることがあります。
履修上の留意点	「哲学」（フィロソフィア）の名に値する知的探求は、みずから問いかけ思考しつづけることが基本ですから、受身的なだけの講義参加は無意味です。熱意をもって取りくむ覚悟が必要です。
成績評価の方法	毎回のリアクション・ペーパーに反映される授業への積極性や夏休みの課題を含むレポート提出と年度末の定期試験により総合的に成績評価します。それゆえ、継続的な意識をもった授業参加が不可欠です。
教科書	『原典による哲学の歴史』（公論社）3,200円。ほかに資料等のコピーを適宜配布します。
参考書等	講義の際にその都度紹介する。
その他	小グループ方式等による討議や話し合いの場も大切にしたい。

科目名	担当者名
哲学（４）〔近代の人間観と世界観〕	古田知章

講義のねらい	現代において我々は、様々な場面で西洋的なものに直面し、また、我々自身、知らず知らずのうちに西洋的な人間観・世界観に基づいて判断あるいは行動していることも多い。この我々の日常にも深く係わる西洋的なものは、古代ギリシア以来の伝統のもと多岐にわたる曲折を経て、近代ヨーロッパにおいて現れた人間観・世界観に強く影響を受けている。したがって、西洋的なものの理解のためにも、また、現代に生きる我々の自己理解のためにも、近代ヨーロッパの人間観・世界観がどのような伝統と時代意識のもとに形成され、いかなる形で現代社会へと流れ込んでいるのかを学ぶことは有意義であると考えられる。
講義の内容・授業スケジュール	教科書を利用し、以下の内容を取り上げる（各項目ごとに、2～4回の講義）。近代の人間観・世界観の源流 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 哲学における基礎的な問題の整理 ー人間と世界について問うことー</li> <li>2. 古代ギリシアの思想 ー哲学的探求の始まりー</li> <li>3. キリスト教思想と中世の哲学 ー思索の新たな展開ー</li> <li>4. 中世から近世への連続と変動 ー様々なルネサンスについてー近世・近代の人間観・世界観             <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ルネサンスから近世の思想 ー人間観・世界観の変革ー</li> <li>2. 科学の発展と世界観の変化との関係 ー人間の位置についてー</li> <li>3. 現代の存在論 ー見えるものを支える見えない枠組みー</li> </ol> </li> </ol>
成績評価の方法	二回の定期試験（中間試験、年度末試験）と平常点（出席状況、夏期レポート等）で評価する。
教科書	『原典による哲学の歴史』（公論社）
参考書等	講義の際にその都度紹介する。



## 科目名

担当者名

哲学(5)〔近代の人間観と世界観〕

くぼ 久保 陽一

## 講義のねらい

今日我々は近代の科学技術のめざましい進歩によって多大な恩恵を蒙っている反面、環境問題、テロや道徳の荒廃などの問題に悩まされている。また人間の意識を原理とした近代哲学は現代の言語哲学によって置き換えられようとしている。このような近代以後の状況のなかで真の自己と世界の認識を持ち、望ましい生き方をするためには、まず近代の哲学から何を引き継ぎ、何を批判すべきかを、見極める必要がある。そこで講義では、西欧の近代における哲学の諸問題を取り上げることとする。

## 講義の内容・授業スケジュール

- (1) 認識論 (経験論、合理論、カント)
- (2) 道徳論 (快楽主義、義務倫理)
- (3) 感情の哲学 (パスカル、ルソー、シラー)
- (4) 社会哲学 (ホッブス、ロック、ルソー、ヘーゲル)

## 履修上の留意点

よく出席し、ノートを取る事が大切である。その際、取り上げられた哲学者がどのような主張をし、どのような用語を用い、それは何を意味するかを理解し、分析する必要がある。さらにそのような思想を自分自身は受け入れられるか否かを、考えることが望ましい。

## 成績評価の方法

中間と期末のテスト、レポート、出席状況等によって評価する。

## 教科書

久保・河谷編『原典による哲学の歴史』(公論社)

## 参考書等

開講時に挙げる

## 科目名

担当者名

哲学(6)〔近代の人間観と世界観〕

うえの 植野 公稔

## 講義のねらい

近代哲学では、①実在する世界は物理学的合理性に基づいて捉えられるとする自然科学的な世界観、②こうした世界観を支える拠点としての理性的な人間精神は自然科学では理解できない特権的なものだとする人間中心主義的な人間観、これら2つの観点が強く打ち出された。そして、これらの観点は、いま現在もなお、科学技術の時代に生きる私たちが世界との関わりについて考える際の枠組みを形成するものとして、重要な位置づけを与えられている。しかし同時に、それらの観点は、批判的な検討を受けることによって、「私たちの世界理解は、科学的合理性に基づく形ではなく、むしろ日常的な行為の文脈と切り離せない形で成立するものではないだろうか」等々、現代的な問題を見出し、考えていくためのきっかけを作ってきたものでもある。つまり、近代哲学には、いま私たちが世界と関わる際の重要な手立てが詰まっていると同時に、現代的な問題を見出したり考えたりする際に不可欠な手がかりが潜んでいる。

こうしたことから、本講座では、受講するみなさんが、①近代哲学で展開された議論の主要な論点とその問題点を理解し、②こうした理解を通じて、現代的な問題に上手くアプローチしていくための力を伸ばす、以上の2点が目的とされる。

## 講義の内容・授業スケジュール

教科書を参照しながら進める。前期では、デカルトとヒュームを中心にして、合理性をめぐる議論について理解を深め、また後期では、カントとヘーゲルを中心にして、人間精神をめぐる議論について考察を進めることとする。

## 履修上の留意点

折にふれて、教科書に載せられたテキストで復習し、学習内容を定着させることに励んでほしい。なお、受講に際しての予備知識は必要としない。

## 成績評価の方法

理解度を確認する中間・期末テストと、近代哲学の問題点の考察をテーマにした期末レポート(2000字程度)によって評価する。

## 教科書

久保・河谷編『原典による哲学の歴史』(公論社)

科目名	担当者名
哲学（7）〔現代文明と人間〕	黒崎剛

人文分野

講義のねらい	近代社会（近代とは現代も含む）のなかで人間のあり方と、社会構造（近代市民社会＝資本主義社会）について、近現代哲学を総括した上で、テーマ別に人間論と社会論について入門的な講義を行う。個々の哲学者の学説史ではないので、哲学史の知識を求める人には向かない。
講義の内容・授業スケジュール	以下のテーマを取り上げる予定 1. はじめに：われわれはどんな社会に生きているか 2. 近代的自我：「自分である」とはどういうことか 3. 近代的自由：自己決定。自律、労働 4. 労働の哲学的意義 5. 近代資本主義社会の構造：われわれはなぜモノとカネに支配されるか 6. 二十世紀の人間解放論 7. 歴史哲学
履修上の留意点	近代哲学の主要テーマ別によりかなり抽象的な形で取り上げるので、単位獲得のためだと割切っている人は退屈するはず。自分で考える姿勢を持つことを要求したい。
成績評価の方法	受講態度、出席、試験（レポート）、を総合評価。
教科書	教科書はプリントを使用。教科書、参考書は教場で紹介する。

科目名	担当者名
哲学（8）〔現代文明と人間〕	滝沢正之

講義のねらい	現代哲学における重要な哲学者たちのうちから何人かをとりあげ、本人が書いたテキストの一部を実際に読みつつ、その思想を紹介していきたい。 我々が現在生きているこの時代がさまざまな問題を抱えていることは誰でも知っていることである。哲学者たちの思考をたどることで、それらの問題を根本にまで立ち戻って考え直すことができる。この現代で我々は人間としてどう生きるべきか、を考えたい。
講義の内容・授業スケジュール	下に指定した教科書『原典による哲学の歴史』の原典引用部分を丁寧に読み、解説していく。受講者の問題関心に応じて扱う哲学者を選択したい。とくに要望がない場合は、現代哲学と題された部分を順に読んでいくことになる。適宜プリントで内容の補足を行う。
履修上の留意点	教科書を必ず入手しておくこと。
成績評価の方法	中間試験および期末試験により評価する。中間試験はレポートにする予定。期末試験は筆記。受講者の人数が少ない場合は出席をとり、それも評価に加味したい。
教科書	久保・河谷編『原典による哲学の歴史』（公論社） 授業中に適宜プリントを配布する予定。
参考書等	講義中に適宜指示する。

科目名	担当者名
哲学(9)〔現代文明と人間〕	久保陽一

講義のねらい	現代は科学技術によって生活のすみずみまでもが規定された時代であると同時に、一見何でも可能な「自由」が認められている時代でもある。しかし、それによって、かえって、何を選択し、いかに科学技術を用いるべきかについて、明確な答を得にくい時代でもあろう。科学技術と自由主義の時代において、知情意を含めた、人間らしい本来の生き方とはいかなるものであるかが、根本的に問われているように思う。 そのような問題意識のもとで、本講義では現代哲学の状況を捉えることにしたい。
講義の内容・授業スケジュール	今日グローバルなものとなった西洋哲学の近代の歩みを、その大筋において捉えた後で、現代哲学の諸思想（マルクス主義、分析哲学、生の哲学、現象学、解釈学）を学ぶことにする。
履修上の留意点	よく出席し、ノートを取ることを。私語はつつしむこと。遅刻しないこと。遠慮なく質問すること。
成績評価の方法	出席数、試験（前期と後期）、レポートによって評価する。
教科書	久保・河谷編『原典による哲学の歴史』（公論社） 3,200円
参考書等	渡辺二郎『現代の哲学』（日本放送出版協会） 1,800円 久保陽一『ドイツ観念論への招待』（日本放送出版協会） 2,800円
その他	講義

科目名	担当者名
哲学〔西洋思想の源流〕 —フレックスB開講—	滝沢正之

講義のねらい	西洋哲学史を古代から中世にかけてを中心に紹介する。時間があれば、続けて近世から現代へと時代順に進んでいくことになる。 ただし、書店で手に入る哲学史の入門書のように、哲学者たちの思想をダイジェスト版で紹介することはしない。哲学者本人が書いたテキストそのもの（翻訳ではあるが）を実際に読んでいくことにしたい。もちろんすべてを精読するわけにはいかないの、諸著作の一部を抜き出して検討することになる。 本物の哲学者の本物の哲学書から、哲学的な思考とはどのようなものかを実感していけたら、と考えている。それと同時に、はるか昔の頭のよい人たちがどんな変なことを考えていたのかを楽しんでいきたい。
講義の内容・授業スケジュール	下に指定した教科書『原典による哲学の歴史』の原典の引用部分を丁寧に読み、解説していく。最初から順に読んでいく予定。適宜プリントで内容の補足を行う。
履修上の留意点	教科書を必ず入手しておくこと。
成績評価の方法	中間試験および期末試験により評価する。中間試験はレポートにする予定。期末試験は筆記。受講者の人数が少ない場合は出席をとり、それも評価に加味したい。
教科書	久保・河谷編『原典による哲学の歴史』（公論社） 授業中に適宜プリントを配布する予定。
参考書等	講義中に適宜指示する。

科目名	担当者名
哲学〔近代の人間観と世界観〕 —フレックスB開講—	伊古田 理 <small>いこた まさる</small>

講義のねらい	現代文明の形成にあたって中核をなした思想である、近代ヨーロッパ思想を紹介し、その問題点を探る。今年度は、特に「人間」について検討する。われわれ人間（特に、現代の人間）は、自分自身をどのように理解しているのか、その自己理解はどのような変遷をたどり、どのような意義と問題点をかかえているか、解説していく。
講義の内容・授業スケジュール	まず、ヨーロッパ思想の源流である古代ギリシャ哲学、キリスト教思想について、必要なところをおさえ、そのうえで近代以降の思想の発展を解説する、という方針をとる。
成績評価の方法	夏期中間試験と冬期定期試験の成績を素点とし、100点満点での素点に対する失点の一定割合を、夏期レポート課題によりリカバーする。
教科書	久保他編『原典による哲学の歴史』（公論社）

科目名	担当者名
哲学〔現代文明と人間〕 —フレックスB開講—	鈴木 聡 <small>すずき さとる</small>

講義のねらい	本講義では、現代哲学の重要問題を扱った素材を叩き台として、1つの問題をとことん考え抜くという態度を受講者が身につけるための機会を提供したい。
講義の内容・授業スケジュール	本講義では、以下の諸問題を取り上げる予定である。 1. 懐疑論 2. 他人の心 3. 心身問題 4. 言葉の意味 5. 自由意志 6. 正と不正 7. 正義 8. 死 9. 人生の意味
履修上の留意点	原則として欠席は認めない。必ず予習し、1回の講義につき少なくとも1回は質問すること。
成績評価の方法	成績は、出席状況・講義中の質問によって評価する。
教科書	開講時に指定する。

---

---

**科目名****担当者名**

論理学〔科学方法論と現代論理学〕

すずき 聡  
鈴 木 聡

## 人文分野

## 講義のねらい

論理学の初歩の講義を、できるだけ丁寧にわかりやすく行う。我々は、日常生活において様々な文を用いて様々なタイプの推論を行う。多種多様な姿を持つ文にも、実は或る一定の構造が存在する。その構造を見極めることが論理学の課題である。また多種多様に見える推論にも、実は或る一定のタイプが存在する。この推論のタイプについての研究が論理学の主要課題である。論理学の習得は、正しい推論結果を導出するために、すべての学問において重要なことからである。

## 講義の内容・授業スケジュール

講義内容は次のものを予定している。

1. 文論理  
(a) 文論理の意味論 (b) 文論理の統語論
2. 第一階量化論理  
(a) 第一階量化論理の意味論 (b) 第一階量化論理の統語論
3. メタ論理  
(a) 健全性定理の意義 (b) 完全性定理の意義

## 履修上の留意点

毎回の出席が要求される。

## 成績評価の方法

成績は、中間試験・期末試験・小テスト・出席点で評価する。

## 教科書

配布プリント

## 参考書等

本講義は、講義→小テスト（チュートリアル）→前回の講義の復習→小テストの解説→……という形式で行う。

講義のねらい

伝統的論理学から現代の記号論理学に至るヨーロッパの論理思想の発展を、弁証法論理や東洋の思惟様式にも眼を向けつつ広い視野において学び、人間の思考の働きを理解するとともに、正しく考える態度を養う。

講義の内容・授業スケジュール

【前期】

1. 論理学とは何か
2. 思考の原理
3. 同一性と同一律
4. 関係の思想
5. 対立と矛盾
6. 矛盾の概念
7. 判断論
8. 無限判断
9. 二律背反
10. 弁証論
11. 無限性の思想
12. 論理思想の比較

【後期】

1. 記号論理学の基本思想
2. 真理関数
3. 標準形
4. 公理体系
5. 定理の演繹
6. 同
7. 同
8. 体系の条件
9. 述語論理学
10. 無矛盾性、完全性、決定問題
11. 伝統的論理学との対応
12. 三段論法の基礎付け

履修上の留意点

出席を重視する。

成績評価の方法

テストによる。

教科書

『論理学概論』（岩波書店）

参考書等

『ドイツ概念論における反省理論』（勁草書房）

科目名

担当者名

論理学〔科学方法論と現代論理学〕

かわ 谷 淳  
河 谷 淳

人  
文  
分  
野

講義のねらい

私たちが日常生活や就職活動においてまとまった文章を書いたりまとまった話をする場合、そこには思考の何らかの「流れ」が要請されている。また、友人との何気ない会話にしてみても、反省してみれば、それもまた暗黙の前提命題からの「流れ」の帰結であることに気づく場合がある。アリストテレス以来の歴史を持つ論理学とはそうした前提から結論への妥当な「流れ」（推論の形式）とはどのようなものであるのかを考える学だと言うことができる。この授業の目的は、「論理的である」とは一体どういうことなのかを考え、さらに、練習問題を解くことで様々なタイプの推論の妥当・非妥当性を判定するトレーニングをつんでもらうところにある。

講義の内容・授業スケジュール

本講義では概ね次のような内容を取り扱う。

前期：伝統的論理

- (a) 論理学の基本概念（概念・命題・推論）
- (b) 演繹推理（定言・仮言三段論法の妥当性の判定）
- (c) 帰納推理（ミルの方法、仮説演繹法）

後期：現代論理（記号論理）入門

- (d) 命題論理（日常言語の記号化と推論の証明）
- (e) 述語論理（日常言語の記号化と推論の証明）

履修上の留意点

継続して授業に出席することは言うまでもなく、毎回の授業内容を積極的に復習することが望ましい。

成績評価の方法

前期最終授業日に実施する中間試験と期末試験（40点満点×2）ならびに夏休みレポートと出席状況の総合点で評価する。

教科書

『新しい認識への論理』（公論社）

科目名

担当者名

論理学〔科学方法論と現代論理学〕

たき ぐち きよ せい  
滝 口 清 栄

講義のねらい

私たちはさまざまな情報のうずのなかで生活している。それは身近な日常生活から社会や世界の動きにまで及んでいる。これら多岐に及ぶ情報の伝達と表現は言葉によって行なわれている。また送り手も受け手も思考を通して情報に関わっている。この渦の中で私たちは納得したり、あるいは納得しなかったりする。このように振り返るなら、私たちは言葉と思考のあり方に敏感になるのではなからうか。ひとたびこの点について注意を払うようになると、日常生活そしてさまざまな学問的な営みの基礎として、論理学が大切なものと思えてくるであろう。本講義では、思考の基礎をしっかりとしたものとするよう、思考の諸法則を検討していく。

講義の内容・授業スケジュール

教科書にそって形式論理学に重点をおいて講義を進めていく。前期では、概念、命題、演繹推理を中心に、そして後期は機能推理、虚偽論、そして命題論理を扱う。

履修上の留意点

理解を深めるために練習問題をできるだけ多く解くように努める。出席をよくしてほしい。

成績評価の方法

年間5回の小テストで成績を出す。

教科書

山下太郎他著『新しい認識の論理』（公論社）3,200円

参考書等

講義中に紹介する。

科目名

担当者名

論理学〔知の技法〕

伊古田 理

人文分野

講義のねらい

本講義は、文科系の文章技術について解説し、かつトレーニングを試みる。すなわち、あるテーマについて、文献を集め、読み、考え、そのうえで自分の考えを文章としてまとめるといった一連のプロセスについての実際的なノウハウの習得を目標とする。

講義の内容・授業スケジュール

まず、最初に文献・資料集めのしかたについて、簡単に解説する。次にあるテーマについて異なる立場からの考察を読みこなすトレーニングを行う。そのうえでこうした読解をもとにして自分の考え、立場を文章としてまとめあげるトレーニングを行う。

履修上の留意点

以下の「成績評価の方法」でも触れてあるが、この授業は基本的に講義スタイルですすめてゆくが、それと平行して、数回のレポート課題を出す。そして、この提出したレポートを材料に授業を進めるケースも少なくない。したがって、レポート課題がこなせないという意識をもつ諸君には受講をすすめたくない。

成績評価の方法

随時課するレポート課題（問題演習＋文章要約、等々：年間10本以上はありうることを承知しておいてほしい。翌週提出厳守）のほかに、最終的に本講義で扱ったテーマに対する諸君の考えをまとめた原稿用紙20枚程度のレポート（12月最終週講義時提出）によって判定。定期試験はいっさい実施しない。

教科書

本年度は、テーマとして「道德の理由（なぜ道德なんでものに従って行動しなければならないのか）」をとりあげる。  
教科書：大庭他著『なぜ悪いことをしてはいけないのか』（ナカニシヤ出版）  
副読本：野矢茂樹『論理トレーニング』（産業図書）

参考書等

そのつど指示する。

その他

上記教科書のテーマに対する関心を予めそなえていることは、必ずしも前提しない。しかし無関心でいつづけることはできない。自分で興味をみつけてゆくつもりで授業に臨んでほしい



科目名

担当者名

論理学〔知の技法〕

うえの 植野 公 稔

講義のねらい

いま、私たちの社会生活では、論理的であることを求められる場面に出会うことが多い。本講座の目的は、こうした現状に対処できるだけの論理的思考力を受講者のみなさんが身に付けられるように、その基本練習の場を作ることにある。言葉相互の論理的な繋がりについて自覚しながら読み、考え、そして書くことができるようになるためには何が必要なのかを、毎時間、自分自身で課題に取り組みながら気づいてほしい。なお、いわゆる現代記号論理学については、必要最小限のこと以外、扱わないものとする。

講義の内容・授業スケジュール

教科書に則して授業を進める。原則として、各回とも、事項に関する説明と問題練習によって授業が構成される。前期では、論理の骨格をなす接続語や指示語の適切な使い方と、首尾良く考えを展開するための推論のあり方について練習を重ねる。また後期では、演繹的な推論について練習を重ね、就職試験等でも取り上げられるような、いわゆる推理部門の問題にも対処していける力を養うことにしたい。受講人数にもよるが、できるかぎり、復習を兼ねた形の添削課題を出し、受講するみなさんの練習の質を高められるようにしたいと思う。

履修上の留意点

本講座では、受講者本人による練習が何よりも重要であるので、コンスタントに参加してほしい。問題練習での間違いを恐れる人たちもいると思われるが、間違いをきっかけにしてステップアップしてしてくれるのならば、本講座に関するかぎり、間違いをおかすこと自体には何ら問題はない。

成績評価の方法

事項の習熟度を確認するための中間・期末テスト、および期末に取り組んでもらう小論文課題（2000字程度）によって評価する。なお、練習が重要な講座のため、原則として、1学期につき欠席が3回を越える場合は、単位の認定ができないものとする。

教科書

野矢茂樹『論理トレーニング』（産業図書）

科目名

担当者名

論理学〔科学方法論と現代論理学〕

いごた 伊古田 理

—フレックスB開講—

講義のねらい

現代論理学の内容を、「ことばの正しさ」のうちで「推論の正しさ」のかたちづくる領域がどのようなものかを考えることにより、紹介してゆく。

具体的には、「推論の正しさ」の領域がどのようなメカニズムで機能しているかを習得することを第一の目標として、そのうえで（時間の許すかぎり）こうした領域の位置づけについて論ずることにしたい。

講義の内容・授業スケジュール

- (1) 古典的三段論法 (2) 公理系Ⅰ～命題論理 (3) 公理系Ⅱ～述語論理  
(4) コンピュータと論理

成績評価の方法

年2回の試験（夏期中間試験＋年度末定期試験）を実施し、それとは別に各学期にそれぞれレポート課題を出す。

詳細については、授業開始時のガイダンスの際に説明する。

教科書

野矢茂樹著『論理学』（東京大学出版会）

講義のねらい

西洋哲学の中で、論理学は常に大きな位置をしめてきた。論理とは何か、正しさをどう説明すればよいか、真理をどのようなものと考えるか、といった問題の考察に、「論理学」は欠かせない。このような「論理の本性への考察」には、古代ギリシャの哲学者、アリストテレスの論理学を知る必要がある。彼の論理学には、当時の学問がおかれた状況が強い影響を与えていたと考えられる。その後、自然科学の発達によって学問状況は変化した。その変化に対応する形で論理学の変革も試みられた。さらに、二十世紀に入って、数学研究と論理学研究の交流・接触が考えられるようになる。このように論理学は変化の歴史を持つ。そこで（１）論理とは何かを考え、（２）変化する論理学の各内容についての知識を持ち、（３）日常生活における論理の活用について、自分で考えることの手引きを与えることをねらいとします。

講義の内容・  
授業スケジュール

論理の本性、真理論、論理パズルとパラドックス、アリストテレス論理学、帰納法論理、実験主義論理学、論理学方法論、記号論理学概観、日常生活における正しい推論、学問と論理などの話題を考えています。

履修上の留意点

大学という学問の場においては、講義内容を聞いて理解し、練習問題をこなし、内容を記憶するだけでは、十分ではありません。自分で検討し、疑い、考えることが絶対に必要であると考えます。そのために、自分で本を読んだり、調べたりという作業が加わるでしょう。意欲ある取り組みと、徹底的に自分の頭で考える姿勢を求めます。

成績評価の方法

平常点として、出席と、講義中に行う問題や論述を主な評価材料（60%）にし、前期・後期試験・夏休みのレポート成績を加味します。

教科書

なし。

参考書等

多数。講義内にて詳細に説明します。

その他

講義と問題演習（ないし論述筆記）。早退は、許可のない限り認めません。主体的な質問を大いに歓迎し、期待します。初日はガイダンスとし、定時から五分間程度、または正規の終了時刻前五分間に資料を配布して質問を受け付けます。（ガイダンス後は、雑談的内容にあてる予定です。この間、入退出自由。）この時配布する資料は、履修に必要ですので、何らかの方法で必ず入手するようにして下さい。

科目名

担当者名

倫理学（1）〔人間観〕

ふる た とも あき  
古 田 知 章

人文分野

講義のねらい

われわれは、社会の中で、一人の人間として、さまざまなものを「よい」あるいは「悪い」と判断しながら生活している。逆に言うと、この判断なしにわれわれは生きていくことができない。では、このような倫理的生活を送っているわれわれ人間とは何者であろうか。日常、われわれは「人間」という言葉、あるいは、「自分が人間である」という事態を自明なものとして扱っている。しかし「人間とは何か」と問われたとき、さまざまな問題が浮かび上がり、簡単には解答に到達できない。西洋の思想的領域では、この問いに対して、その時代の社会的状況や思想的背景との関連のもとで、さまざまな解答が示されてきた。現代に生きるわれわれが、自らが人間であることの意味を問い直すとき、これらの諸説を一度、検討することは有意義であると考えられる。

講義の内容・授業スケジュール

教科書を利用し、以下の内容を取り上げる（各項目ごとに、2～4回の講義）。人間観の形成の歴史

1. 人間と倫理 一人間であるために―
2. 古代ギリシア思想における人間観の諸相
3. 中世キリスト教思想における人間観
4. 人間観の転換 ―ルネサンス・宗教改革―新しい時代の人間観
  1. 出発点としてのデカルト《思惟する私》
  2. 自己の内面性と他者の問題
  3. 人格 ―ロックを手がかりに―
  4. 人間存在と自由

成績評価の方法

二回の定期試験（中間試験、年度末試験）と平常点（出席状況、夏期レポート等）で評価する。

教科書

『原典による哲学の歴史』（公論社）

参考書等

講義の際にその都度紹介する。

科目名

倫理学（2）（7）〔応用倫理学〕

担当者名

黒崎剛

人文分野

講義のねらい

「倫理」というのは、人間が世界の中で、世界に対して振る舞う上にさいして基準とする「規範」—「価値」や「義務」、「習慣」といった—の正当性を問うものである。だから「倫理学」というのは、自分が行動するに際して自覚的・無自覚的にとっている規範が半端なものではないか、みずから検証するという課題を持っている。ところで、科学技術、そして最近の生命科学の驚異的な発展によって、私たちがこれまでまったく自明のもののみなしていた多くの「価値」「規範」がその地位を失おうとしている。そこで、この授業では、生命科学と医療の分野でここ二、三十年の間に起った変動にともなって提起されてきた問題を取り上げる。すなわち「生命倫理」をテーマとする。

講義の内容・  
授業スケジュール

- 「生命倫理」の諸問題のうち、以下のテーマを取り上げる予定
1. 生命の倫理——講義の課題概説
  2. 「インフォームド・コンセント」：自己決定の思想
  3. 人工妊娠中絶
  4. 安楽死と尊厳死
  5. 脳死と臓器移植
  6. 「生殖革命」——人工生殖の現状と問題点
  7. 遺伝子操作論

履修上の留意点

課題はすべて現在進行形のものばかりなので、受講生にも起りつつある問題に絶えず嗅覚を働かせる態度を望む。

成績評価の方法

受講態度、出席、試験（レポート）、を総合評価。

教科書

教科書はプリントを使用。参考書は教場で紹介する。

科目名

倫理学（3）〔価値観〕

担当者名

滝沢正之

講義のねらい

ねらいは二つある。  
第一に、近世の哲学者イマヌエル・カントの倫理学を丁寧に紹介すること。我々はすでに何が善いことで何が悪いことであるかをだいたい知っている。日常生活にはそれで支障はない。しかし、その善悪についての信念をあらためて反省してみると、いろいろと問題含みであることがわかってくる。カントを手がかりに、倫理学の基本的な問題を体系的に考えてみたい。たとえば、他人の幸せのために嘘をついてもいいのだろうか。  
第二に、現代に我々が生きる際に考えなければならない問題を、できるだけ多く紹介すること。カントの検討だけでは提示しきれない論点を挙げていきたい。たとえば、戦争、差別、宗教原理主義、少年犯罪など。難しい問題が多いので解決を提示するのは無理であろうが、考え方の方向性くらいは示したい。

講義の内容・  
授業スケジュール

前期にカント倫理学の紹介を行い、後期に現代の諸問題の検討を行う予定。細かいスケジュールは講義中に示す。

履修上の留意点

特定の教科書を使用せず、講義が中心となる。欠席が多いと試験等が大変になるので注意されたい。

成績評価の方法

中間試験および期末試験により評価する。中間試験はレポートにする予定。期末試験は筆記。受講者の人数が少ない場合は出席をとり、それも評価に加味したい。

教科書

適宜プリントを配布する予定。  
また、講義中に適宜指定する。

参考書等

久保・河谷編『原典による哲学の歴史』（公論社）  
また、講義中に適宜指定する。

科目名	担当者名
倫理学（４）〔応用倫理学〕	あさお たか し 麻 生 享 志

講義のねらい	応用倫理は、究極的に「どう生きるか」という自分の生き方につながっていくものと考えます。（これを倫理学・哲学で”実存的”問いと呼んだりする）ですから、講義を通じて、自己の問題として興味を持ち、考えてもらう、という事を目標とします。
講義の内容・授業スケジュール	倫理学（理論的倫理学）の基礎から、応用倫理学の「ごく特殊なもの」まで、幅広く紹介していきます。わたくし自身の興味や人生観にも、触れていきたいと思っています。現在、東大文学部21世紀COE「死生学の構築」に研究員として参加している関係で、生命倫理的内容が多く含まれるでしょうが、労働・人生の意味・交通ルール・まちづくり住環境など、多面的に考えていく予定です。
履修上の留意点	最低限の常識的なルールを守り、あとは、講義を”楽しんで”もらえたらいいと思います。
成績評価の方法	前期試験（45%）、後期レポート（レポート試験）（55%） 前期は哲学史に関わる記述問題、後期レポートは講義の感想を原稿用紙3-4枚程度を予定
教科書	久保・河谷編麻生ほか著『原典による哲学の歴史』公論社刊（前期試験受験に必須）
参考書等	特になし
その他	初日はガイダンスとし、定時から五分間程度、または正規の終了時刻前五分間に資料を配布して質問を受け付けます。（ガイダンス後は、雑談的内容にあてる予定です。この間、入退出自由。）この時配布する資料は、履修に必要ですので、何らかの方法で必ず入手するようにして下さい。

科目名	担当者名
倫理学（５）〔制度とモラル〕	たきぐち きよ えい 滝 口 清 栄

講義のねらい	人間は古くから共同体を作り、さまざまな社会的・政治的制度を生みだしてきた。そこには時代により、地域により違いが見られる。そこにはまた人間のよりよいあり方とよりよい社会的・政治的制度のあり方をめぐり、絶えることのない思想的な営みがあった。どのような時代でも人間はこの営みをやめることはなかった。私たちの社会は今どのような方向に進んでいくのか。いろいろと考えざるをえない。以上の思想的営みを歴史的視野の中で振り返っておくことが、今日の問題を考えていく上でも大切な土台となるであろう。本講義では、西洋倫理思想史のなかで古代、近代、現代から主要な思想をピックアップし、人間観の特徴と、人間のよりよき生活を可能にするよりよき制度をめぐる思索のあとを検討する。制度はもちろんそれを担う人間を必要とする。ここにモラルの問題が関わる。時代的な違いを背景において以上の問題を検討していく。
講義の内容・授業スケジュール	こまかなスケジュールについては開講時にスケジュール表を配布するが、前期に古代ギリシアから近代初頭、後期にはそれ以降を扱う。
履修上の留意点	講義は平明を心がける。ときどき質問用紙を配るので、不明な点について質問を出してほしい。
成績評価の方法	中間テスト（前期の最終授業時）と学年末テストにより成績を評価する。
教科書	久保陽一・河谷淳編『原典による哲学の歴史』（公論社）3,200円

科目名	担当者名
倫理学（6）〔東洋倫理〕	末木恭彦 <small>すえ き やす ひこ</small>

講義のねらい	倫理学は、人の行為の規範を考える学問である。倫理学という学問は生れなかったが、それに相当する思索は東洋の伝統思想の中に生まれていた。東洋の伝統思想がどのようにどれだけ現代の倫理に貢献するか、諸君と一緒に考えてみる。
講義の内容・授業スケジュール	授業の最初に、倫理とは何か、倫理学とは何かを講義する。その後、今年は環境と倫理の問題について考える。環境問題は現代の大きな問題である。しかし、環境の問題は既に古代から芽生えていた。中国の古代にも、環境問題をめぐる議論が行われた。その中国古代の環境をめぐる議論を顧て、現代の環境と倫理の問題にどのような貢献するか考えてみる。
履修上の留意点	ノートはしっかりと取る。
成績評価の方法	各学期末の試験と夏期休暇のレポートによって成績をつける。
教科書	浅野裕一『中国古代の文明観』（岩波新書）

科目名

担当者名

宗教学（1）〔比較宗教文化〕

池上良正  
いけがみよしまさ

人文分野

講義のねらい

宗教学という学問は、そもそもの出発点から比較宗教学という性格をもっていた。ここでは「ひとつの宗教しか知らない者は、いかなる宗教をも知らない」（マックス・ミュラー）という信念が前提になっていた。「国際化」が進む今日の世界において、異なる社会に育った人々の生活の基盤を形づくってきた宗教文化の相互理解は、ますます重要な課題となっている。本講義では、宗教学の基本的な視点を紹介しながら、いくつかの具体的な研究成果を学ぶことにする。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、まず近代的用語としての「宗教」が成立した過程を検討し、この用語の特性と限界を考える。近代宗教学の成果をふまえて、私たちの日常の身近な出来事に引き寄せながら、「宗教」を理解する広い視点を提示してみたい。後期は、多くの日本人には馴染みが薄いものの、現代世界を理解するうえでは欠くことのできない、「一神教」という特異な宗教が成立した過程を考察し、その特性に迫ってみたい。

成績評価の方法

年度末に筆記試験を行なう。

教科書

特に指定しない。

参考書等

『岩波講座・宗教』（全10巻）（岩波書店） 『エリアーデ著作集』（せりか書房）  
上田閑照・柳川啓一編『宗教学のすすめ』（筑摩書房）  
脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫）  
加藤隆『新約聖書の誕生』（講談社） ラーンジュ『ユダヤ教とはなにか』（青土社）

科目名

担当者名

宗教学（2）〔聖と俗〕

田中 かのこ

人文分野

講義のねらい

ありのままの世界には「聖」も「俗」もなく、あるがままに続けられてゆくその営みがみられるばかりである。そこにあえて「聖と俗」といった対立概念をみるのは、変化し続ける多様な現象の動きを把握しきれない人間の焦燥感が、二分法という遠心分離機を欲するから、ともいえる。人類の精神史において展開してきた各宗教の分立を観るにつけても、深く知れば知るほど、「～教」と「～教」を隔てる壁の存在に疑問を抱かずにはいられなくなる。一見、相違するようにみえる諸宗教の教義・儀礼・生活共同体の掟にも、歴史的な相関性があり、言語や民族の絆は、信仰の違いを超えて、多様な文化圏を形成している。さらに「いのち」の尊厳を守るための真摯な祈りはどれも、学問的に定義された「宗教」概念では捉えきれない、普遍的で深遠な思想を内に秘めている。ゆえに本講では、従来の宗教学が呪縛されてきた既存の宗教分類（例：「一神教と多神教」「世界宗教と民族宗教」）から出発せずに、最も根源的で身近な「いのち」をめぐる人間の畏れ・感謝・願いをテーマにしなが、ら、「宗教」を考える。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、「いのち」に気づき、その表現・解釈・ゆくえ・価値観などについて考えることに重点を置き、後期は、現代社会の理解に欠かせないゾロアスター教、ユダヤ教、キリスト教、イスラーム、シーク教、ヒンドゥー教、ジャイナ教、仏教、儒教、道教、神道の歴史・思想・文化における「いのち」を探究する。

履修上の留意点

既存の知識で示せる情報の範囲をはるかに凌駕した、真実の豊かさに眼を開いてほしい。

成績評価の方法

独創性と応用力を発揮できる、論述式のレポート（後期中に提出）と学年末試験。

教科書

拙著『比較宗教学－「いのち」の探究－』（北樹出版）2004年

その他

講義担当者の現地調査によるスライドや録音テープを活用する。

科目名

担当者名

宗教学（3）〔世界観と儀礼〕

小川 順敬

講義のねらい

人間の“宗教行動”を理解することはなかなか困難な作業です。目に見えぬものに語りかけたり、その声に耳をそばだてたり、時としてその声を代弁したりすることを一体どのように分かれれば良いと言うのでしょうか。祈りやお告げといった“宗教行動”は、信仰を持たぬものにとっては全く理解不可能な事なのでしょうか。宗教学は、そういった行動を信仰者の立場からではなく、“人間の行動”として、その背後の考え方を探ることによって理解しようと努めてきました。

この講義では、宗教学の立場から儀礼（宗教行動）とその世界観について考えていこうと思います。一見、不可解な行動に見えても、その背後の世界観を知ることによって、宗教行動の意味をいささかでも理解する端緒が開かれるはずで

講義の内容・授業スケジュール

まず最初に、宗教学の基本的な考え方や方法論、いくつかの基本概念などを具体事例にそって概説、紹介します。この際、儀礼に関する議論や理論を、宗教学や宗教人類学、あるいはもう少し広く社会科学や人文科学の中から紹介する予定です。ついで、様々な儀礼の諸相を具体例をあげて紹介し、その事例の検討を通して、思想や世界観、神話との関係について考えてゆくことにしたいと思います。

成績評価の方法

評価はレポートと年度末の筆記試験により行います。夏期休暇前にレポート課題を出します。成績評価の具体的な方法、年度末試験の方針、レポートの内容、出席等は最初の授業で詳しく説明します。

教科書

未定。授業開始後、紹介します。

参考書等

講義の内容に関連する参考書は適宜紹介します。



## 科目名

宗教学（４）〔日本人の宗教〕

担当者名

矢野秀武

## 講義のねらい

宗教というものを語り理解するには様々な方法がある。宗教学はその1つである。また宗教学の中にも宗教に対しての異なる見方がある。本講義では、宗教学における多様な見方を理解するとともに、特に宗教人類学や宗教社会学といった見方を通じて日本の宗教についての基礎的な知識を学んでもらいたい。

## 講義の内容・授業スケジュール

前期に日本宗教史ならびに外国に渡った日本宗教、現代日本に入ってきた外国の宗教などをとりあげる。後半では、現代日本において冠婚葬祭といった儀礼・民俗宗教がどのように変容しているのか、また現代の社会制度において宗教はどのように位置づけられているのかといった点を紹介する。また単なる事実の紹介だけではなく、宗教学（宗教人類学・宗教社会学）的な視点に基づいて解説を加える。

## 成績評価の方法

レポートと年度末の筆記試験を総合して評価を行なう。レポートは夏期休暇前に課題を提示する。レポートや試験形式、その他授業の基本的な約束事は、初回の授業で述べる。

## 教科書

なし

## 参考書等

授業時に随時紹介する。

## 科目名

宗教学（５）〔生活と宗教〕

担当者名

菅原としきよ

## 講義のねらい

人間の精神世界の根源にあって人びとの生活を支える宗教文化の理解は、現代社会においても不可欠な問題であると思われます。そこで、本講義では宗教人類学の視点から、「生活と宗教」というテーマで、人びとの宗教的営みについてとらえてみたいと思います。

授業は講義形式とし、はじめに宗教学・宗教人類学についての基礎的な概説を行います。次に、日本を含めたアジアの多様な姿について、人々の宗教的な営みを中心に、その分布や特徴について述べます。さらに、日本と東南アジア、および中国の西南地域の人々の暮らしなどから、その宗教形態に注目して、仏教と民俗宗教との関係や、その展開過程について、それぞれの地域の具体的な事例を取り上げながら、展開したいと思います。

## 講義の内容・授業スケジュール

1. 宗教学・宗教人類学とは
2. 日本とアジア、その多様な姿
3. アジアの人々の生活と宗教
4. 日本の人々の生活と宗教

## 成績評価の方法

試験＋出席点＋レポート点（詳細は、講義の時説明）

## 教科書

指定なし

## 参考書等

『宗教学ハンドブック』（世界書院）

## その他

授業の方法—講義、ビデオ・スライドなども使用

科目名	担当者名
宗教学(6)〔民俗宗教の諸相〕	あさ かわ やす ひろ 浅 川 泰 宏

人  
文  
分  
野

講義のねらい	宗教学の概念や方法を、現代社会における人々の関係性を読み解くツールとして活用する能力の獲得を目標とします。
講義の内容・授業スケジュール	<p>世俗化が進んだ現代の日本社会においては、一般論としての無宗教性と、その背後に依然として蓄えられている豊かな宗教性を両眼的に捉えることが重要となっています。本講義では、民俗宗教という観点から、我々の身近な日常生活に表出される宗教現象に着目します。</p> <p>前期は、祖先祭祀や祭り、新宗教などをテーマに宗教学・宗教民俗学の基本的な視点や知識を学びます。後期には、ヒトやモノの移動が活発化し、様々な境界が溶け崩れていくなかで、着目が集まっている「巡礼」を中心に、民俗宗教を通して構築される関係性や当事者の意識の変化といった問題を考えます。</p> <p>なお、講義では、毎回具体的なトピックをあげ、それについての講義と討論を行います。そのため授業中は皆さんの積極的な参加を期待します。</p>
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義中の私語は厳禁とします。</li> <li>・受講生の理解度を確認し、講義内容に皆さんの意見を反映させるために、毎回コメントカードへの記入を求めます。御協力を御願ひ致します。</li> </ul>
成績評価の方法	<p>配点：レポート60点＋平常点40点＝合計100点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平常点は、授業時に配布するコメントカードなどを参考に採点します。</li> <li>・レポートは、特に理解力、論理的思考力、独創性を重視します。</li> </ul>
教科書	教科書は指定しません。
参考書等	参考書は講義中に随時指示します。

科目名	担当者名
宗教学〔比較宗教文化〕 —フレックスB開講—	た な が こ 田 中 かの子

講義のねらい	人間には実に様々な生き方・見方・考え方・信じ方があり、「いのち」あるうちに為しうることに、限りない可能性があるということを、諸宗教の比較は教えてくれる。わたくしたち自身も、そのなかの、かけがえのない通りの人生を歩んでいる。「～教」や「～教徒」などという、他の人々と区別しうる特徴をもっているかのように錯覚してしまうが、言うまでもなく、信仰者としての彼らが目指すのは、より善い「人間」としてこの一生を全うすることにほかならない。各宗教が人間にどのような有り方を望んでいるのかを、その伝統的な生活文化をとおして俯瞰し、いま、この世界のどこかで生きている、いまだ出会うことのない人々への共感を呼び覚ましてみたい。それが、誤解や偏見のない「人間」理解に繋がれば幸いである。
講義の内容・授業スケジュール	講義担当者の生活体験をともなう地域（インド・ヨーロッパ）を中心に、机上では知りえない、かならずしも教義一辺倒ではない信仰生活の多様性について解説する。
履修上の留意点	板書は、即興の覚え書きや、テーマの骨子を素描したものにはすぎない。むしろ、講義の言葉や自分の考えに耳を傾けて、積極的にノートしよう。
成績評価の方法	出席状況、創意・文章力・工夫の楽しみ方を評価する夏休みのレポート、後期最終授業日に配布予定のガイダンスにもとづいて準備できる学年末試験。
教科書	拙著『比較宗教学—「いのち」の探究—』（北樹出版）2004年
参考書等	「いのち」の尊さや、異文化間の交流を扱ったもの（書物、映画など）なら何でも。
その他	予定外の試みや受講生の要望などによっては、プログラムを変更することもあります。

科目名

担当者名

法学・憲法（１）〔法と社会生活〕

長谷川 日出世

社会分野

講義のねらい

我々は、好むと好まざるとにかかわらず、法と密接なかかわりのある生活を強いられている。しかしながら多くの場合、我々はこの事実を知らず、何等かの法的問題が発生した時に初めて、これに気付く。

本講義では、まず、社会生活を営む上で不可欠な、社会規範としての法の生成およびその性質についての分析をおこなう。そして、次に、そこで得られた法概念を基礎に、国家の基本法である憲法と我々のかかわりあいを検討する。

講義の内容・  
授業スケジュール

前期では、法を学ぶために必要な基礎的知識の習得を目指す。具体的には法と道徳の関係、法と強制、法の体系性、国家と法、実定法上の原則等。

後期は、日本国憲法を具体的に検討する。特に、日本国憲法の基本原理の成り立ち、基本的人権の保障規定等についての検討。

成績評価の方法

定期試験によるものとする。

教科書

長谷川日出世著『法の基礎概念と憲法』（成文堂）

参考書等

『ポケット六法』（有斐閣）

## 講義のねらい

現代社会は、高密度に人が集合し、高度に発展した複雑な社会を構成している。その構成員である我々は、社会にとって必要不可欠である多くの法によって、取り囲まれている。たとえば、電車やバスに乗ること、コンビニで文具を買うこと、アパートを借りることなど、すべて、法的な側面を持っている。自分は法と無縁であると思っている人は、そのことを知らずにいるだけなのである。講座名は、「法学・憲法」であるが、サブタイトルに（法と社会生活）とあるように、本講義においては、「良き社会人として生活していくために、社会にある『法』とは何であるかの理解をすること、またその『法』を社会生活の上で活かしていく能力を身につけること」を主眼とする。

## 講義の内容・授業スケジュール

講義形式で進める。が、講義はどうしても一方通行になりがちなので、授業中に多数の質問を行い、挙手により解答してもらおう。つまり、全員が参加する授業を目指す。授業では、数多くの事例を挙げ、具体的に話を進める。たとえば「今朝の新聞に、官僚が『収賄罪』で逮捕された記事が掲載されていたが、どんな罪であるのか、また逮捕に際し憲法上の問題があったか、どんな点で、なにが問題なのか」など、より up to date な話題を提供したい。

講義は、おおよそ以下のスケジュールで進める。憲法については、特別にテーマを定めることをせず、関連するテーマが出てきたときに、随時、該当条文に当たり、年間を通して多くの条文に触れられるよう配慮する。

## (1) 法学

1. 法学を学ぶにあたって
2. 法とは何か
3. 法の体系と分類
4. 法の目的
5. 法と裁判
6. 裁判の基準（法源）
7. 法の解釈
8. 法と徳をめぐると問題

## (2) 社会生活と法（以下の項目より受講生の関心の高いものをいくつかやりたいと思う。適宜報道などと関連させたい。）

9. 犯罪と刑罰
10. 財産生活と法（人・物・契約など）
11. 家族生活と法（婚姻・親子・相続など）
12. アクシデントと法（交通事故・医療事故・欠陥商品など）
13. 企業と法（就職と労働契約・会社・手形小切手など）

## 履修上の留意点

楽しい授業・わかる授業・全員参加型の授業を行う必要からも私語はいっさい認めない。また出席は重視する。原則的に、欠席・早退を認めない。理由があるときは、その旨届けてくれれば出席扱いとする。授業開始時間は若干余裕を持たせるので遅刻しないように。また教科書・特に六法は毎回準備すること。できるだけ授業内容は板書したいと思うが、その単なる写し作業で終わらないでほしい。つまり、授業の中で十分考察し、理解することを要求する。したがって単に教場にいるだけでは出席とは認めない。真剣に授業を受けようという意識のある者だけに履修してほしい。板書を記録しやすくなるべく前から着席すること。

## 成績評価の方法

出席を重視し、きちんと出席したものに、期末試験の受験資格を与える。その試験の得点に平常点を加味して評価する。

## 教科書

- 小林弘人・松村格編著『法学・憲法（新版）』（八千代出版）
- 六法（例として、『ポケット六法（平成18年版）』（有斐閣）や『デイリー六法』（三省堂）など）

※すでに持っている六法があれば、それで構わない。

## 参考書等

大久保治男監修『トビックスくらしの法』（芦書房）  
その他授業の中で、随時紹介する。

## その他

最初の講義日（２週日になることがある）に受講票を提出してもらおう。特別の事情のない限り、最初の講義の回から出席のこと。

## 講義のねらい

法学は難しい学問であるけれども（なぜなら法律用語というのは一見難解であるから）、決して堅苦しいものではありません。なぜなら、社会で起きている問題をどのように評価するかという手段の一つに過ぎないからです。つまり法学的アプローチを身につけるには、社会を見る適切な「目」を育てること、「教養」をたくさん身につけることが必要です。この講義では、抽象的で難解な法律用語の解説に終始するのではなく、社会を見渡せる「リアリティ」を大切にしてゆこうと考えています。したがって、公務員受験などに役立たせようと考えているみなさんには物足りないと感じられるかもしれませんが、物事を「考える」ことに重点をおいているみなさんには、いい刺激となるようなものを目指しています。

講義の内容・  
授業スケジュール

## (前期)

1. ガイダンス
2. 法における自由・平等
- 3～4. 憲法の役割
- 5～6. 新しい人権
- 7～8. 契約の自由とその規制
- 9～10. 診療契約と自己決定
- 11～12. 消費者の保護

## (後期)

- 13～14. 刑事法の諸原則
- 15～16. 司法制度改革と裁判員制度
- 17～18. 人の生・死と法
19. 企業と法
20. 労働と法
21. 社会保障と法

などを予定しています。

下記のその他も参照してください。

## 履修上の留意点

注意点は特にありませんが、感想・要望、また法学を履修する上での疑問点など、みなさんの意見には率直に耳を傾けますので、講義中、講義終了後を問わず、積極的に意見を言っていたきたいと考えています。

## 成績評価の方法

主として、学年末試験（筆記）のみで評価します。出席はとりませんが、出席している方が成績評価の上で有利になるような配慮はしたいと考えています。

その他、夏季に任意提出のレポート課題を出します。この場合、そのレポートの得点は後期試験に加算いたします（昨年度は、法廷サスペンスものの映画を観てもらいました。）。

詳しくは、第1回目の講義時に説明いたします。

## 教科書

テキストとしては、森泉章『法学（第3版）』（2003年有斐閣・2,500円）を指定しますが、それとは別に、講義の中ではプリントを配布します。どちらかといえば、配布プリントを重視しますので、テキストを購入する際には、十分に吟味して決めてください。

## 参考書等

第1回目の講義時に説明するとともに、講義中にも適宜指示いたします。

## その他

前記のスケジュールは、あくまでも予定です。履修者数や教室の状況等をみながら、適宜内容の変更を行います。例えば、履修者が80人以下であれば、後期のいずれかの日に模擬裁判を実施したいと考えています。いずれにしても、第1回の講義で大学発行のシラバスにかわる独自のシラバスを発行します。それを参考にしながら、最終的な履修を考えてください。

また、講義に連動して、サポート・サイトを運用します。URL等は、第1回目の講義時にお知らせします。

科目名

担当者名

法学・憲法(4)[法と社会生活]

けい とく ひろ とう  
鶏 徳 啓 登

講義のねらい

よく「社会あるところ法あり」といわれる。その社会にある法とは何かを研究するのが法学であり、根本的理念、法の目的などを研究する。また、憲法は国家の基本法として他の法令の根幹をなすものであり非常に重要な法である。そして、憲法制定後50年経過した現代に至って国外的、国内的に、社会情勢の変化に伴う新しい問題が生じてきている。本講義は、これら諸問題を法的に把握し、結論を出し得るようになることをねらいとする。

講義の内容・授業スケジュール

法学の講義は次の内容を中心として行う。

- (1) 社会生活と法 (2) 法の意義・効力 (3) 法規範と他の社会規範との差異
- (4) 法の分類と解釈の方法 (5) 市民法の概論 (6) 刑事法の概論
- (7) 法と裁判

憲法の講義は、次の内容を中心として行う。

- (1) 憲法の意義 (2) 憲法の種類 (3) 明治憲法の原則と特質
- (4) 現憲法の原則 基本的人権の主体 (5) 基本的人権の分類
- (6) 各種基本的人権の内容
- (7) 国会の仕組みとその作用 行政機関の仕組みとその作用
- (8) 裁判所の仕組みとその作用 (9) 地方自治

成績評価の方法

出席状況と試験による。

教科書

小林弘人・松村格編著『法学・憲法』(八千代出版) 3,500円

参考書等

『小六法』または『ポケット型小六法』(出版社・定価各種) 及び参考書は教場にて説明致します。

社会分野

## 講義のねらい

この講義のねらいは、今の社会を「法」という道具を通して見る訓練をおこなうことにあります。ですから、本講義以前に私がみなさんに求める能力は、今の時代の「風」を敏感に感じとることができる能力です。それには「想像力」が大切です。それまでに培ってきた「教養」をフルに活用してもらいたいと思います。

法は、「黒」か「白」かの区別をつける作業であるという側面は否定しがたいですが、社会の高度な発展にともなって、「黒」と「白」の隙間をどのように考えるかがとても大切な作業になっています。ですから、決して単純な学問ではないことは、覚悟しておいてください。

そうはいつでも、決して難解なばかりの学問ではありませんから、気楽な気持ちで受講していただきたいと思います。

## 講義の内容・授業スケジュール

## (前期)

1. ガイダンス
2. 法における自由・平等
- 3～4. 憲法の役割
- 5～6. 新しい人権
- 7～8. 契約の自由とその規制
- 9～10. 診療契約と自己決定
- 11～12. 消費者の保護

## (後期)

- 13～14. 刑事法の諸原則
  - 15～16. 司法制度改革と裁判員制度
  - 17～18. 人の生・死と法
  19. 企業と法
  20. 労働と法
  21. 社会保障と法
- などを予定しています。  
下記のその他も参照してください。

## 履修上の留意点

注意点は特にありませんが、感想・要望、また法学を履修する上での疑問点など、みなさんの意見には率直に耳を傾けますので、講義中、講義終了後を問わず、積極的に意見を言っていただきたいと考えています。

## 成績評価の方法

主として、学年末試験（筆記）のみで評価します。出席はとりませんが、出席している方が成績評価の上で有利になるような配慮はしたいと考えています。その他、夏季に任意提出のレポート課題を出します。この場合、そのレポートの得点は後期試験に加点いたします（昨年度は、法廷サスペンスものの映画を観てもらいました。）。詳しくは、第1回目の講義時に説明いたします。

## 教科書

テキストとしては、森泉章『法学（第3版）』（2003年有斐閣・2,500円）を指定しますが、それとは別に、講義の中ではプリントを配布します。どちらかといえば、配布プリントを重視しますので、テキストを購入する際には、十分に吟味して決めてください。

## 参考書等

第1回目の講義時に説明するとともに、講義中にも適宜指示いたします。

## その他

前記のスケジュールは、あくまでも予定です。履修者数や教室の状況等をみながら、適宜内容の変更を行います。例えば、履修者が80人以下であれば、後期のいずれかの日に模擬裁判を実施したいと考えています。いずれにしても、第1回の講義で大学発行のシラバスにかわる独自のシラバスを発行します。それを参考にしながら、最終的な履修を考えてください。

また、講義に連動して、サポート・サイトを運用します。URL等は、第1回目の講義時にお知らせします。

## 講義のねらい

現代社会においてわれわれの営みは、いつの間にか複雑化した法制度と関係をもちながら生活をしているがその基軸をなしているのが憲法である。憲法は人間のための法であると言うことから人権を中心に憲法の理念と実態を考えようと思います。

講義の内容・  
授業スケジュール

- I 憲法の系譜
  - 一 憲法の内容—憲法の法としての特質—
  - 二 憲法の歴史
  - 三 明治憲法から日本国憲法へ
  - 四 日本国憲法の特徴
- II 憲法の構造
  - 五 人権と憲法
  - 六 人権の類型（1）自由権・受益権・参政権
  - 七 人権の類型（2）法の下での平等
  - 八 人権規定の効力（1）人権規定の私人間への適用
  - 九 人権規定の効力（2）社会権のプログラムの性格
  - 十 人権と政治機構（1）国民主権と象徴天皇制
  - 十一 人権と政治機構（2）国民代表としての議会
  - 十二 人権と政治機構（3）代表制と直接民主制
  - 十三 人権と政治機構（4）議院内閣制
  - 十四 人権と政治機構（5）財政の民主化
  - 十五 人権と政治機構（6）地方政治の確立
  - 十六 人権と政治機構（7）国際政治と国際法
  - 十七 人権と政治機構（8）国際政治と人権
  - 十八 人権と裁判（1）適法手続
  - 十九 人権と裁判（2）裁判制度
  - 二十 人権と裁判（3）司法権の独立
  - 二一 人権と裁判（4）違憲審査制
  - 二二 人権と裁判（5）違憲審査の限界
- III 憲法の実態
  - 二三 思想と人権（1）
  - 二四 思想と人権（2）
  - 二五 思想と人権（3）
  - 二六 思想と人権（4）
  - 二七 宗教と人権
  - 二八 刑事手続と人権（1）捜査過程における人権の尊重
  - 二九 刑事手続と人権（2）自白の証拠能力
  - 三〇 刑事手続と人権（3）刑事手続と行政手続
  - 三一 生存と人権

## 履修上の留意点

ノートを作成することが望ましい。

## 成績評価の方法

筆記試験と出席の総合評価とする。

## 教科書

開講時に指示します。（欠席しないように）

## 参考書等

『ポケット六法』（有斐閣）



科目名

担当者名

法学・憲法（7）（8）〔法と国家〕

新田 浩司

講義のねらい

法は社会のルールであり、憲法は政府と我々国民の関係という国家生活の基本的ルールを決めたものといえる。我々の生活にとって法や憲法を無視することは不可能である。法や憲法を良く知ることは、とりもなおさず我々日本国民がより幸福に生きるために不可欠な作業である。

ここでは、我々が国民として住民として生活する上で必要な法というものの考え方、及び国家の根本法である憲法について、現実には発生する様々な問題にも言及しつつ講義を進める。

講義の内容・授業スケジュール

- 第1回目 ガイダンス
- 第2回目 法学の基礎知識①
- 第3回目 法学の基礎知識②
- 第4回目 法学の基礎知識③
- 第5回目 憲法の基礎知識
- 第6回目 日本国憲法の制定過程
- 第7回目 日本国憲法の基本原理
- 第8回目 国家の安全保障（戦争放棄）
- 第9回目 精神的自由権①
- 第10回目 精神的自由権②
- 第11回目 経済的自由権
- 第12回目 社会権
- 第13回目 参政権、国家請求権
- 第14回目 統治機構①
- 第15回目 統治機構②

履修上の留意点

社会で起こる様々な問題は、憲法をはじめとする法律問題でもあり、この講義を履修して法的思考を養ってもらいたい。

成績評価の方法

夏期レポート及び学年末試験の成績により評価する。  
なお、授業の出席状況も参考とする。

教科書

佐伯宣親・酒井憲郎・高乘正臣編『現代法学と憲法』（成文堂）2,500円＋税  
※小六法（何でも可）があれば持参することが望ましい。

参考書等

小六法（何でも可）があれば持参することが望ましい。

社会分野

科目名

担当者名

法学・憲法(10)〔法と国家〕

織田晃子

講義のねらい

法とは何かに始まり、日本国憲法と人権、法と国家について判例を多く使って講義する。

講義の内容・  
授業スケジュール

- 1 法とは何か
  - (1) 法と道徳
  - (2) 法の解釈
- 2 日本国憲法と人権
  - (1) 人権の主体
  - (2) 私法関係と人権
  - (3) 生命・自由および幸福追求権
  - (4) 法の下での平等
  - (5) 精神的自由権
  - (6) 居住・移転・外国移住・国籍離脱の自由
  - (7) 経済的自由権
  - (8) 社会権
  - (9) 人身の自由・裁判手続の保障
  - (10) 新しい人権
- 3 法と国家
  - (1) 日本における近代憲法の成立
  - (2) 日本国憲法の統治原理
  - (3) 司法権とその限界
  - (4) 平和主義と戦争の放棄

履修上の留意点

授業にはポケットサイズのもので十分であるが、六法を忘れないように持参し、講義中に条文がでてきたらそのつど面倒でも指摘された条文を見ること。

成績評価の方法

期末試験の成績による。

教科書

『判例法学』（有斐閣ブックス）、『コンパクト六法』（岩波）

その他

プリント配布

社会  
分野

## 講義のねらい

年間の授業は、前期においては、「法」というものが、いかなるものであり、いかなる特徴をもつものであるかを、教科書に掲載の事例・判例などの資料を用いて成るべく平易な説明をなすことによって進めていきたい。進むにつれて、法を学ぶ面白さが感じられるようになればと思う。

後期においては、主に憲法典の条文に則して、その基礎的な知識を学んでいけるように、やはり平易な授業ということに留意して進める。その際、日に生起する具体的事件などを取り上げるなどによっても憲法が身近に感じられるようにつとめたい。

さらには、現代社会のなかに未だ色濃く残存する封建法意識であるが、そうした観点から、かつての「家」制度についても触れていきたい。

## 講義の内容・授業スケジュール

## 前期

4・5月

- 法とは何か
- 法の種類
- 法源
- 法の生成（日本法の歴史）
- 法と裁判の基礎知識
- 国家の基礎知識

6・7月

- 民法と商法の考え方
- 裁判法、刑法、社会法の考え方

## 後期

9・10月

- 憲法とその原理について
- 基本的人権の保障

11・12月

- 統治機構について
- 年間のまとめと「家」制度について

## 履修上の留意点

資料ならびに条文に則して行うことの多い授業ですので、テキスト、六法は毎時間必ず持参のこと。また、授業時の私語は厳禁ゆえ、守れない者には、直接、指摘することになろう。

## 成績評価の方法

年間1度の定期試験の評点に出席点を加味し評価する。

## 教科書

山口嘉三、大久保治男編『法学要説』（芦書房刊）2,800円

## 参考書等

小型の六法、そのほかは、ばあいにより参考資料を配布する。

## その他

授業の方法は講義です。

科目名

担当者名

法学・憲法 (12) [法と権利]

池田 実

社会分野

講義のねらい

- 〈法学〉 家庭生活、社会生活、政治参加、経済活動など、私たちの日常が「法」とどのようにかわり、規制されているかをさまざまな具体例を通して考察し、それが最終的に日本国憲法に定めるとどのような諸原理・精神に結びついているかを明らかにします。
- 〈憲法〉 政治の法である憲法にかかわる問題には、“唯一絶対の正解”というものがほとんどありません。すっきり明瞭で断定的な解答を求めるのではなく、現代国家の病理やその複雑さに悩みながら、政治生活のあるべき姿をじっくり考えるきっかけにしていたら、と思います。

講義の内容・授業スケジュール

- 〈法学〉 (1) 授業案内・導入 (2) 国家と法 (3) 実定法ガイド (4) 裁判制度ガイド (5) 夫婦と法 (6) 子どもと法 (7) 自己決定権 (8) プライバシーと法 (9) 生命倫理と法 (10) 社会保険と公的扶助 (11) 介護と扶養 (12) マルチメディアと法 (13) 国際社会と法 (14) (15) 補遺・総括
- 〈憲法〉 (1) 憲法の基本概念 (2) 日本国憲法の沿革 (3) 国会 (4) 選挙・政党 (5) 内閣 (6) 天皇 (7) 地方自治 (8) 人権総論 (9) 自由権・受益 (10) 社会権 (11) 新しい人権 (12) 裁判所 (13) 戦争の放棄 (14) (15) 補遺・総括

成績評価の方法

出席および授業中に提出するレポート類により総合的に評価します。

教科書

抱喜久雄編『新・初めての法学』（法律文化社）  
野畑・池田・渡邊・清水『テキストブック日本国憲法』（嵯峨野書院）  
上記2冊を用います。

参考書等

授業時に適宜指示します。

その他

授業日程：8月1日～8月8日、1～5時限（土、日除く）

科目名

担当者名

法学・憲法〔法と権利〕

鷄徳啓登

—フレックスB開講—

講義のねらい

人間は社会の中で生まれ、他の人と利害を対立しながら社会生活を営むものである以上、そこには相互の利害を調整し、紛争を解決するためのルール（規範）が必要である。「社会あるところ法あり。」（法諺）といわれるのはそれを如実に示すものである。この授業では、法の概論と基礎的な実定法上の権利・義務との二つに分けて、「法」とそこに認められる「権利」を講義する。

講義の内容・授業スケジュール

1. 法の概論は次の内容を中心として行う。
  - (1) 法の意義 (2) 法発生の背景 (3) 法とその近辺の社会規範 (4) 法の種別と解釈 (5) 法の適用
2. 実定法上の権利・義務の講義は次の内容を中心として行う。
  - (1) 民法上の権利－権利の主体と客体、権利能力・行為能力、権利の種類と内容（財産法上の権利、親族法上の権利、相続法上の権利）、権利の発生・消滅。
  - (2) 憲法上の権利－自由権（経済的自由権、精神的自由権、身体的自由権）、平等権、社会権（生存権、教育権、勤労権、労働者の権利）、参政権（選挙権、被選挙権）、受益権（請願権、国家賠償請求権、裁判を受ける権利、刑事補償請求権）。
  - (3) 国家・地方公共団体の権利－国家作用と三権分立制の意義・統治機構、立法権と立法機関、行政権と行政機関、司法権と司法機関、地方公共団体の自治権と住民の権利。

成績評価の方法

出席状況と試験。

教科書

小林弘人・松村格編著『法学・憲法』（八千代出版）3,500円

参考書等

『小六法』または『ポケット型小六法』（出版社・定価各種類）、その他参考書等については教場にて説明。

社会分野

科目名

担当者名

法学・憲法〔法と社会生活〕

長谷川日出世

—フレックスB開講—

講義のねらい

我々は、好むと好まざるとにかかわらず、法と密接なかわりのある生活を強いられている。しかしながら多くの場合、我々はこの事実を知らず、何等かの法的問題が発生した時に初めて、これに気付く。

本講義では、まず、社会生活を営む上で不可欠な、社会規範としての法の生成およびその性質についての分析をおこなう。そして、次に、そこで得られた法概念を基礎に、国家の基本法である憲法と我々のかかわり合いを検討する。

講義の内容・授業スケジュール

前期では、法を学ぶために必要な基礎的知識の修得を目指す。具体的には法と道徳の関係、法と強制、法の体系性、国家と法、実定法上の原則等。

後期は、日本国憲法を具体的に検討する。特に日本国憲法の基本原理の成り立ち、基本的人権の保障規定等についての検討。

成績評価の方法

定期試験によるものとする。

教科書

長谷川日出世著『法の基礎概念と憲法』（成文堂）

参考書等

『ポケット六法』（有斐閣）

科目名	担当者名
経済学〔現代社会と市場経済〕	はたなか 貴

講義のねらい

諸々の経済現象をよりよく理解するための理論（ミクロ経済学・マクロ経済学）について概説する。経済についての体系的な理解を得ることがこの講義の目標である。

講義の内容・授業スケジュール

- スケジュールは以下の通り。
- (前期) (1) ガイダンス (2) 経済主体と市場 (3・4) 需要曲線、供給曲線  
(5・6) 価格および取引数量の変化 (7・8) 家計の経済活動  
(9・10) 企業の経済活動 (11・12) 厚生経済学の基本定理と市場の失敗  
(13) 前期末試験
- (後期) (14) 独占 (15) 情報の不完全性 (16) GDP の 3 面等価  
(17) 産出量の変動、物価水準の変動  
(18・19) 完全雇用の状態におけるマクロモデル  
(20・21) 不完全雇用の状態におけるマクロモデル (22・23) 財政政策、金融政策  
(24・25) 国際貿易 (26) 経済成長

社会分野

履修上の留意点

講義の内容は抽象的な議論が多く、理解するためにはそれなりの労力と時間を必要とする。期末の試験までに教科書を何度も読み返し、分からない部分については積極的に質問をすること。世界一頭のいい人であっても、教科書を一度読んだだけ、講義を一回聴いただけで、経済学を習得することは不可能である。

成績評価の方法

基本的に二度の期末試験の総合評価。前期末試験、後期末試験のうちどちらか一方でも受けていなければ、単位を与えることはできないので注意すること。追試験は実施する。

教科書

第1回目の授業で指示をする。

科目名

担当者名

経済学〔現代経済と人間〕

もり たい せい や  
森 田 成 也

社  
会  
分  
野

講義のねらい

人間の社会はきわめて複雑な構造をなしており、その解明はけっして容易なものではありません。しかし、そうした人間社会の土台となっているのは、人々の実際の生活（およびそれに必要な物やサービス）を生産し再生産する経済的な過程です。したがって、経済学は、人々の生活や仕事にとって最も重要な領域を科学的に解明しようとするものです。経済学はけっして、難しいカタカナ言葉や数式が飛び交う世界だけではありません。労働と生活に密着し、人々がよりよい、より人間らしい生活と労働を展望し、実現していくために必要不可欠なものです。しかしながら、この学問は同時に、自然科学などと違って、経済を論じるその人の立場によって大きく左右されるものでもあります。普通の生活者や働く人々の視線で経済を見ていくことを学びます。

講義ではまず、前期で、社会全体に占める経済の位置、基本的な経済学の基礎理論を学び、資本主義経済の基礎的な運動法則を学びます（多少、後期にくい込む可能性あり）。後期では、それをふまえて実際に日本のいくつかの経済現象を具体的に理論に照らし合わせて検討し、どこまでが一般理論で説明ができ、どこからが特殊な日本の条件によって説明されるべきなのかを学んでいきたいと思えます。

講義の内容・授業スケジュール

（前期）基礎的な経済理論を学ぶ

（1）はじめに （2）社会と経済 （3, 4）商品・貨幣 （5, 6, 7, 8）資本と剰余価値  
（9）賃金 （10, 11）資本の蓄積 （12）利潤と利潤率 （13）利子生み資本と株式資本

（14, 15）独占資本、国家、外国貿易 （16）世界市場と帝国主義日本経済の基本構造を学ぶ

（17, 18）戦前の日本と戦後日本経済の出發 （19, 20）現在の日本の基本形を作り出した高度経済成長 （21, 22）企業社会の形成と日本的働き方の確立 （23）低成長期以降の企業社会の肥大化 （24）企業社会と女性 （25, 26）経済大国日本とバブル経済

（27, 28）長期不況と構造改革下の日本経済

履修上の留意点

ノートをがんばってとってください。試験にも役立ちます。

成績評価の方法

学年末の試験が中心です

教科書

教科書はとくにありません

参考書等

松石勝彦『現代経済学入門』（青木書店）

科目名	担当者名
経済学〔現代経済理解へのガイド〕	佐藤綾野

講義のねらい

本講義では、基礎的な経済理論をできる限り平易に解説し、また社会的に関心の高いトピックを多く取り上げ経済学の重要性を解説します。また学生の皆さんにも積極的に授業に参加してもらおうことを希望します。

講義の内容・授業スケジュール

本講義は、「社会人の教養」として、あるいは「本格的な経済学へ向かう導入部分」となるよう、経済学全般にわたって解説します。

講義を進めるにあたり、経済学のなかの基本的なテクニカルタームの解説からはじめ、ニュースや新聞などで報道されているような具体的な経済現象を「経済学的視点」から考えていきます。

講義終了後には、学生の皆さんが現代経済事象に関心をもち、自ら学ぶインセンティブをつけてもらうことを目標としています。

最後に、経済学は学生の皆さんの日常生活においても、とても役に立つ学問です。頑張っ

て習得してください。

成績評価の方法

平常点・レポート・試験を中心に評価します。

教科書

第一回目の講義で指定します。

参考書等

講義のなかで適宜指示します。

社会分野

科目名	担当者名
経済学〔現代経済と人間〕 —フレックスB開講—	沼田郷

講義のねらい

現代経済に人間がどのように関わっているのか、またどのような状況におかれているのかをわかりやすく講義したいと考えています。現代経済を読み解くキーワードを理解することが目標となります。

講義の内容・授業スケジュール

・世界経済に関する理論・今日の地球環境・世界の経済格差・大量消費社会の実態・世界の貿易と投資・物質的繁栄の代償・成長するアジアと停滞するアフリカ・環境問題・経済成長と石油資源・開発論の検討・世界の貿易と投資・ODAとは何か・地球環境と資源・環境への取り組み・世界経済と多国籍企業

さしあたり、以上のような項目を準備しています。これ以外にも受講者の意見を取り入れながら随時項目を追加する予定です。また、ビデオなど映像資料を用いることも検討しています。

履修上の留意点

現代経済は非常にめまぐるしく変化しています。特に「グローバルイゼーション」は、程度の差こそあれ我々人間に大きな影響を与えています。こうした今日的な問題を扱うため、受講生には日々のニュースに関心をもってもらうことが、本講義履修の留意点になります。

成績評価の方法

成績は平常評価で行います。学期末の試験は受講生の強い要望がない限り行いません。したがって、講義終了時に小論を書いてもらい、それを評価します。また、レポートの作成を求めます（年間で1、2回）。

教科書

本講義の性質上教科書は指定しません。しかしながら、参考資料に関しては講義の中で随時お知らせいたします。

その他

授業方法は履修人数にもよりますが講義形式で行います。パワーポイントでの授業を基本としますが、必要に応じて資料等の配布も行います。



科目名

担当者名

社会学（１）（２）〔現代社会を考える〕

お びよん さん  
呉 炳 三

講義のねらい

社会学は人間が引き起こす様々な社会現象を分析する学問でもある。その分野は、「家族」「恋愛」「教育」「文化」「政治」「法律」「犯罪」「経済」などにまたがっている。このような分野において特徴的であるといえる諸問題は何かを理解すること。

また、これらの諸問題を解決するためのより広い視点から現代社会を展望する視点を養ってもらうことが本講義のねらいである。

講義の内容・  
授業スケジュール

（前期）社会学の基礎概念：

I 行為論：（１）社会学における行為、（２）行為者としての個人、（３）日本の行為論

II 集団論：（１）集団の概念、（２）官僚制理論、（３）小集団論、（４）集団の類型、  
（５）日本的集団論

（後期）現代社会の特徴的な諸相について：

（１）家族集団、（２）恋愛、（３）結婚、（４）若者文化、IT文化、（５）少年犯罪、（６）ジェンダー、（７）少子・高齢、（８）アダルトチルドレン、摂食障害、（９）就職、転職、リストラ、（１０）フリーター、ニート、引きこもり、（１１）性同一性障害など

以上の内容を講義の予定としているが、受講生の要望も取り入れながら講義を進めているため、講義内容について変更することもある。

履修上の留意点

この講義は、教員の一方的な講義ではなく、受講生とともに調べ、その結果を考えた上、その答えを導く方向で講義を進めていくために、授業への積極的な取り組みが望まれる。それから、毎回辞書を持参すること。また、宿題を出すので、宿題が出来る学生の受講を勧める。

成績評価の方法

出席状況と前・後期末に行う筆記試験の結果から総合的に評価する。

教科書

開講時に説明する。

参考書等

講義中に、その都度紹介する。

社会  
分野

科目名	担当者名
社会学（3）（4）〔現代文化を考える〕	呉 炳 三 <small>お びょう さん</small>

講義のねらい

社会学は人間が引き起こす様々な社会現象を分析する学問でもある。その分野は、「家族」「恋愛」「教育」「文化」「政治」「法律」「犯罪」「経済」などにまたがっている。このような分野において特徴的であるといえる諸問題は何かを理解すること。

また、これらの諸問題を解決するためのより広い視点から現代社会を展望する視点を養ってもらうことが本講義のねらいである。

講義の内容・授業スケジュール

（前期）社会学の基礎概念：

- I 行為論：（1）社会学における行為、（2）行為者としての個人、（3）日本的行為論
- II 集団論：（1）集団の概念、（2）官僚制理論、（3）小集団論、（4）集団の類型、（5）日本的集団論

（後期）現代社会の特徴的な諸相について：

- （1）家族集団、（2）恋愛、（3）結婚、（4）若者文化、IT文化、（5）少年犯罪、（6）ジェンダー、（7）少子・高齢、（8）アダルトチルドレン、摂食障害、（9）就職、転職、リストラ、（10）フリーター、ニート、引きこもり、（11）性同一性障害など

以上の内容を講義の予定としているが、受講生の要望も取り入れながら講義を進めているため、講義内容について変更することもある。

履修上の留意点

この講義は、教員の一方的な講義ではなく、受講生とともに調べ、その結果を考えた上、その答えを導く方向で講義を進めていくために、授業への積極的な取り組みが望まれる。それから、毎回辞書を持参すること。また、宿題を出すので、宿題が出来る学生の受講を勧める。

成績評価の方法

出席状況と前・後期末に行う筆記試験の結果から総合的に評価する。

教科書

開講時に説明する。

参考書等

講義中に、その都度紹介する。

講義のねらい

社会学はつかみどころのない学問と言われますが、その理由は、社会学が「社会人の形式として社会関係や社会集団を研究するだけでなく、家族、人口、経済、法律、政治、企業、教育…等々の領域を一切適切包み込んだ社会全体を研究する学問だからです。それ故に幅広く、内容も多種多様で、明確な統一的立場を見出し難い性格を持っています。

講義では、生産力と消費力の２つのキー概念を用いて現代社会の構造を捉え、人々の社会生活が生産と消費の社会的環境の中でどのように影響されているかを明らかにしたい。また講義を通して「巨視的（Macroscopic）なもの見方」を身に付けて貰いたい。

講義の内容・授業スケジュール

この講義では「ゆたかさは人間を幸せにしたか」を主テーマに、人々の社会生活を誕生から老後に至る過程を追いながら次の7つの要因について講義する。

- (1) マクロ的要因（現代の生産の意味、生産力と消費力の関係が個人の社会生活にどのような影響を与えるかを中心に現代社会（少子社会）を総合的に講義する。）
  - (2) 誕生に関する要因（出生・墮胎・殺児…）
  - (3) 幼児・子供の成長に関する要因（育児・保育・遊び・いじめ・体罰・塾・進学…）
  - (4) 家庭生活に関する要因（核家族化、晩婚晩産化、生涯独身、パート、共働き、残業、余暇、離婚の増大…）。
  - (5) 消費生活に関する要因（広告・宣伝・ローン、消費者教育、自己破産、ホームレス問題、ゴミ問題等の消費者問題…）
  - (6) 会社生活に関する要因（入社、転職、失業、終身雇用制の崩壊…）
  - (7) 老後の生活に関する要因（年金、介護、生きがい、死の問題…）などを講義する。
- この7つの要因を通して、全体として現代社会の社会生活を考えて見たいと思います。

履修上の留意点

初回の講義で説明する。

成績評価の方法

五段階２乗方式によるが、そのやり方は初回の講義で説明する。

教科書

初回の講義で説明する。

参考書等

初回の講義で説明する。

その他

上記授業のスケジュールは進度によって多少の変更がある。

科 目 名	担 当 者 名
社会学（6）〔社会生活を考える〕	お 呉 <small>びよん さん</small> 炳 三

講義のねらい

社会学は人間が引き起こす様々な社会現象を分析する学問でもある。その分野は、「家族」「恋愛」「教育」「文化」「政治」「法律」「犯罪」「経済」などにまたがっている。このような分野において特徴的であるといえる諸問題は何かを理解すること。

また、これらの諸問題を解決するためのより広い視点から現代社会を展望する視点を養ってもらうことが本講義のねらいである。

講義の内容・  
授業スケジュール

（前期）社会学の基礎概念：

- I 行為論：（1）社会学における行為、（2）行為者としての個人、（3）日本の行為論  
II 集団論：（1）集団の概念、（2）官僚制理論、（3）小集団論、（4）集団の類型、  
（5）日本的集団論

（後期）現代社会の特徴的な諸相について：

- （1）家族集団、（2）恋愛、（3）結婚、（4）若者文化、IT文化、（5）少年犯罪、（6）ジェンダー、（7）少子・高齢、（8）アダルトチルドレン、摂食障害、（9）就職、転職、リストラ、（10）フリーター、ニート、引きこもり、（11）性同一性障害など

以上の内容を講義の予定としているが、受講生の要望も取り入れながら講義を進めているため、講義内容について変更することもある。

履修上の留意点

この講義は、教員の一方的な講義ではなく、受講生とともに調べ、その結果を考えた上、その答えを導く方向で講義を進めていくために、授業への積極的な取り組みが望まれる。それから、毎回辞書を持参すること。また、宿題を出すので、宿題が出来る学生の受講を勧める。

成績評価の方法

出席状況と前・後期末に行う筆記試験の結果から総合的に評価する。

教 科 書

開講時に説明する。

参 考 書 等

講義中に、その都度紹介する。

科目名	担当者名
社会学〔現代社会を考える〕 —フレックスB開講—	お 呉 びよん さん 炳 三

社会分野

講義のねらい

社会学は人間が引き起こす様々な社会現象を分析する学問でもある。その分野は、「家族」「恋愛」「教育」「文化」「政治」「法律」「犯罪」「経済」などにまたがっている。このような分野において特徴的であるといえる諸問題は何かを理解すること。  
また、これらの諸問題を解決するためのより広い視点から現代社会を展望する視点を養ってもらうことが本講義のねらいである。

講義の内容・授業スケジュール

(前期) 社会学の基礎概念：  
I 行為論：(1) 社会学における行為、(2) 行為者としての個人、(3) 日本の行為論  
II 集団論：(1) 集団の概念、(2) 官僚制理論、(3) 小集団論、(4) 集団の類型、(5) 日本的集団論  
(後期) 現代社会の特徴的な諸相について：  
(1) 家族集団、(2) 恋愛、(3) 結婚、(4) 若者文化、IT文化、(5) 少年犯罪、(6) ジェンダー、(7) 少子・高齢、(8) アダルトチルドレン、摂食障害、(9) 就職、転職、リストラ、(10) フリーター、ニート、引きこもり、(11) 性同一性障害など  
以上の内容を講義の予定としているが、受講生の要望も取り入れながら講義を進めているため、講義内容について変更することもある。

履修上の留意点

この講義は、教員の一方的な講義ではなく、受講生とともに調べ、その結果を考えた上、その答えを導く方向で講義を進めていくために、授業への積極的な取り組みが望まれる。それから、毎回辞書を持参すること。また、宿題を出すので、宿題が出来る学生の受講を勧める。

成績評価の方法

出席状況と前・後期末に行う筆記試験の結果から総合的に評価する。

教科書

開講時に説明する。

参考書等

講義中に、その都度紹介する。

科目名	担当者名
社会学〔現代文化を考える〕 —フレックスB開講—	はし づめ さん 橋 爪 敏

講義のねらい

この講義は、「社会学」についての基本的な知識を提供し、あわせて、「現代社会」についての若干の問題を論ずることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

「講義のねらい」で述べたように、この講義は「社会学」の知識と、「社会学」的見方を通してみた「現代社会」の問題を扱うことになる。しかし、ほとんどの学生諸君は「社会学」についての予備知識は無いものと思われる。「社会学」は高等学校までの社会科とはかなり異なっている。そこで、まず、前期においてこのような社会学独自の社会現象の見方、考え方、基本的な知識を理解し、後期に、こうした理解を踏まえて、「現代社会」の諸問題-文化とは何か、現代文化とは何か、大衆文化等-を扱うことにしたい。

成績評価の方法

成績の評価は、講義内容に関わる基本的な問題について、学年末におこなうペーパー・テストによって評価する。

教科書

安藤喜久雄ほか編『社会学概論』(学文社)

参考書等

高尾・橋爪編『社会学の基礎』(犀書房)  
R. ニスベット『現代社会学入門1~4』(講談社学術文庫)  
その他授業中に適宜指示したい。

科目名	担当者名
政治学〔社会生活とデモクラシー〕	横田 匡 紀

講義のねらい

現代社会は様々な課題に直面しており、問題解決のために政治の果たす役割が着目されています。同時に政治は我々の社会生活と密接にかかわってきます。こうした状況を踏まえて、本講義では政治が我々の社会生活とどのように関わっているのか、政治学は問題解決のためにどのように道筋をつけることができるのかを考えていきます。

講義の内容・授業スケジュール

前期は権力、デモクラシーなどの政治学の基本概念、ソーシャルキャピタル、ガバナンスなどの現代政治理論の争点を具体的事例に基づいて考えていきます。  
後期はグローバルな政治に着目します。具体的には貧困、環境、人間の安全保障などのグローバルな課題、NGO、企業などの非国家アクターの役割をとりあげ、グローバル・ガバナンスの可能性を考えます。

履修上の留意点

出席点はない。  
講義ではドキュメンタリービデオを随時用いて、抽象的な概念を身近な事例で理解できるように心がける。

成績評価の方法

原則として定期試験により評価する。

教科書

後期の内容に関しては、宮脇・庄司編『グローバル公共政策入門（仮題）』晃洋書房、近刊の使用を考えている。

講義のねらい

日々ニュースで報道される政治現象の背後には、政治の表舞台・裏舞台において自らの理念や利益を実現しようと活動する多数のアクター（政治家、政党、官僚、利益集団、有権者など）が存在します。それらアクターはいったいどのような行動原理に基づいて活動しているのでしょうか？

本講義では、政治的アクターの組織と活動、及びそれらを取り巻く政治諸制度の基礎について、具体的かつ身近な事例を取り上げながら、検討していきます。

講義の内容・授業スケジュール

概ね以下の点を中心に講義を進めます。

- 1 ガイダンス
- 2 権力、権威
- 3 選挙制度と投票行動
- 4 国会の制度と立法過程
- 5 政党と政党制
- 6 内閣と首相
- 7 官僚制
- 8 利益集団の圧力活動
- 9 地方政治と政策決定
- 10 マス・メディアと世論
- 11 民主主義のモデル
- 12 日本政治の課題と展望

履修上の留意点

履修にあたり、特に予備知識は必要としません。但し、現代の政治現象に関心のある学生の履修が望ましいと思われます。

成績評価の方法

定期試験、平常点（小テスト等）、（場合によってはレポート）の結果を総合的に勘案し、評価します。

教科書

授業中に適宜指示します。

参考書等

授業中に適宜指示します。

その他

授業方法—原則として講義形式とする予定です。詳細は初回の授業時に説明します。

科目名	担当者名
政治学〔国際社会と日本〕	三船恵美

講義のねらい	本講義の副題は「国際社会と日本」です。国際関係の基本的な概念と理論を学ぶとともに、日本を取り巻く国際関係の枠組について学ぶことが本講義の目的です。国際関係の教訓を探り出すために必要な「基本的な視角」を学ぶことが本講義の目的です。
講義の内容・授業スケジュール	前期は、国際社会を分析するうえでの基本的な概念（国際関係のアクター、国益とパワーの概念、安全保障の概念と類型、現実主義、理想主義、ゲーム理論、対外政策決定論など）について講義します。後期は、日本にとって最も重要な2つの国家、米国と中国の安全保障戦略を基軸に、米中関係、日米関係、東アジア共同体構想、米中台日関係、米中EU関係、米中・中東関係、米中・中央アジア関係、米中・アフリカ関係が、日本に及ぼす影響を与えるのか、を講義します。
履修上の留意点	「政治学」には「国際社会と日本」「政治システムと政治参加」「社会生活とデモクラシー」の3種類のクラスがあります。本講義は「国際社会と日本」です。 「授業中は静かにしましょう」という注意は幼稚園の入園前に家庭で躰られることであって、大学で注意されることではありません。「大学生としての自覚をもった学生」のみが受講して下さい。資料を配付する場合は、授業開始から10分しか配布しません。20分以上遅刻してくる学生の入室は一切認めません。上記のような行為は、教員のみならず、まじめに授業に取り組もうとしている学生達に対して非常に失礼な行為です。
成績評価の方法	試験（100%）。ただし、授業中にうるさくして退場を命じられた学生には、受験資格を与えません。
教科書	年間を通したサブテキスト『世界情報地図2006年版』（にちぶん）1,500円。後期教科書については、前期授業中に指示します。レジュメなどの配布物は、欠席理由の如何に関わらず、一度しか配布しません。

科目名	担当者名
政治学〔政治システムと政治参加〕 —フレックスB開講—	真下英二

講義のねらい	そもそも政治とは何か、何のために存在しているのか？政治学の基本的な知識を身につけることにより、社会における政治の役割とわれわれの生活との関わり合いについて考察していく。とりわけ、現代民主主義における参加の問題についても検討を加えていく。
講義の内容・授業スケジュール	春学期：政治学の基本的な概念を中心に検討していく。特に、民主主義に関する問題は、時間をかけて行っていく。 秋学期：より現代的な問題を取り上げながら、現代社会の民主主義の問題について検討を行う。特に、政治システムと政治参加について、より詳細に検討していく予定である。
履修上の留意点	この講義においては、他の履修者の迷惑となるような行為は一切禁止する。当然のことながら、私語は厳禁である。 また、政治学や社会科学全般に関する知識は、必ずしも必要としないが、最低限、社会的な諸問題についての知識を持っていることが期待される。
成績評価の方法	成績評価は、原則的に期末試験の得点のみによって行う。ただし、必要な場合にはレポートを課すこともある。詳細については、講義中に指示する。
教科書	特に指定しない。
参考書等	加藤秀治郎『政治学の基礎』（一藝社）2002年 加藤秀治郎・中村昭雄『新版スタンダード政治学』（芦書房）1999年 他は追って指示する。



---

**科目名****担当者名**

政治学〔国際社会と日本〕

やまむらつねお  
山村恒雄—フレックスB開講—

---

社  
会  
分  
野

## 講義のねらい

「法学」や「経済学」とは違い、「政治学」に対して抱くイメージは、人によってかなり異なるようである。この授業は副題にある通り「国際社会」のなかで日本が直面するさまざまな課題を取り上げ、それを素材として「政治を見る眼」を養うことを目的とする。具体的には、近代国際社会成立以降第二次世界大戦終了後に至るまでの国際政治の主な出来事を解説し、それを基にして現在生じている時事問題を考える素材を提供しようとするものである。したがって、授業は時事問題の解説が目的ではなく、受講生のひとりひとりが、政治問題に対して自分の意見を形成できるよう、「分析の道具」を提供しようとするものである。

講義の内容・  
授業スケジュール

時事問題を素材として用いるため、具体的な問題を予め示すことはできないが、分析のための基本的な知識として、以下の項目を取り上げる。

- 1 ウェストファリア体制の形成
- 2 近代の国際政治
- 3 地球的問題群
- 4 第二次世界大戦後の国際政治の変容
- 5 冷戦と核兵器
- 6 食糧問題
- 7 環境破壊と持続可能な開発
- 8 日本が直面する諸問題

## 履修上の留意点

受け身ではなく、積極的に授業に参加できる意欲のある人を歓迎します。

## 成績評価の方法

夏休み明けのレポートと学期末試験による。なお、夏休み明けのレポートを提出しない者は、学期末試験の受験資格を失うので注意すること。

## 教科書

特定の教科書は使用しない。

## 参考書等

授業中、随時指定。

科目名	担当者名
心理学(1)〔ヒューマン・ウォッチング〕	高橋良博

講義のねらい

基礎的な心理学の概論を学ぶ人を対象にして、日常的な問題に即しながら、その研究方法についての知識を深め、人間の心理学的理解に興味を持ってもらうことを目的に、講義を進めてゆく予定。

特に本講義では、心理学の概論的な講義の中に、人間の行動生物学的研究や、環境心理学的研究などのトピックスを織り込み、そのような視点を持った研究に焦点を合わせながら、講義をすすめる。

また、講義の中に、適宜、供覧実験や人格テストなども織り込み、心理学研究の雰囲気も伝えてゆきたい。

講義の内容・授業スケジュール

講義の予定としては、前期では、心理学の立場で人間をどう考え、どの様に捉えようとしているかを、中心に進める予定。後期は、前期の基礎的知識をふまえて、心理学の人間行動に関わる各研究領域に焦点をあててゆく。

成績評価の方法

筆記試験・レポートなどの提出物、その他、平常点（講義への出席状況や、参加度）など総合して評価を行う。

教科書

鈴木清編『人間理解の科学〔第2版〕—心理学への招待』（ナカニシヤ出版）2,000円税別

科目名	担当者名
心理学(2)(3)〔ヒューマン・ウォッチング〕	加藤博己

講義のねらい

この講義では、人間観察に重点を置きつつ、哲学から独立し120有余年の歴史を有する心理学の基礎分野、並びに、歴史と研究法を概観し、基礎知識を習得することを目指す。

講義の内容・授業スケジュール

前期：オリエンテーション（講義の目標、形式、内容、評価方法、注意事項の確認等）、記憶、学習・思考、パーソナリティ、動機づけ、情動。

後期：発達、感覚・知覚・認知、社会、臨床、心理学論（心理学の語源、定義、歴史、心理学の分野、心理学の研究法、定期試験）。

履修上の留意点

履修希望者は、初回授業のオリエンテーションに必ず出席し、講義の目標、形式、内容、評価方法等をよく理解した上で受講すること。初回のオリエンテーションを欠席した場合は履修を認めない。

成績評価の方法

定期試験期間内に、筆記試験を行う予定である。また、前期試験を行う可能性がある。詳細は、初回のオリエンテーションで述べる。

教科書

鹿取廣人・杉本敏夫『心理学 第2版』（東京大学出版会）2004年 2,520円（2,400円+税）ISBN4-13-012041-7

参考書等

教科書や配付資料の引用文献を参照のこと。その他、必要に応じて紹介する。

その他

主に板書を用い、必要に応じて教科書、資料、書画カメラ、ビデオなどを用いるとともに、数回の簡単な心理検査や実験を実施する予定である。本授業は講義形式であるが、一方通行の講義とならないよう、前回の授業内容の理解度を確認するためのワークや授業内容についての意見が毎回求められ、心理検査や実験への積極的な参加が望まれる。従って、単に授業に出席しているだけでは、単位取得は困難となるかも知れない。

科目名	担当者名
心理学（４）〔ヒューマン・ウォッチング〕	仲渡江美

講義のねらい

「人とは、何か」についての答えを探るのが、心理学という学問である。日常、私たちは、特に意識せず「見る」、「聴く」、「思い出す」、「考える」といった様々な行動を行なっているが、その背景には複雑な仕組みがある。例えば、「横顔や後ろ姿からでも親友をすぐに見つけることができるのは、なぜ。」「自分の名前を呼ばれるとすぐに気づくのは、なぜ。」「語呂合わせをして覚えた電話番号をいつまでも覚えているのは、なぜ。」など、人がどのような行動を行なうのか、なぜそのような行動を取るのかについての仕組みを心理学の様々な領域から捉え、日常生活での私たちの見方、考え方に新しい視点を与えて、自己や他者を理解していくことが本講義の目的である。

講義の内容・授業スケジュール

日常生活の中で、人が起こす行動とその仕組みについて、知覚、学習、記憶、人格、発達、臨床といった心理学の各領域から毎回トピックスを決めて探っていく。具体的なスケジュールについては、第1回目の講義で提示する予定である。

履修上の留意点

「理解する」ためには、講義の内容を自分の視点で改めて捉え直すことが必要である。そのために、授業中、講義の内容に関して自分なりの意見や感想などを書いてもらう予定である。

成績評価の方法

講義の出席状況と年度末の筆記試験の結果から、総合的に評価する。

教科書

特に指定しない。

参考書等

講義時にいくつか紹介する。

自然分野

科目名	担当者名
心理学（５）〔人間関係を考える〕	高橋良博

講義のねらい

心理学の基礎を学ぶ人を対象にして、その研究方法についての知識を深め、人間の心理学的理解に興味を持ってもらうことを目的に、講義を進めてゆく予定。  
特に本講義では、心理学の概論的な講義の中に、人間関係にかかわるトピックスを織り込み、そのような視点を持った研究に焦点を合わせながら、講義をすすめる。  
また、講義の中に、適宜、供覧実験や人格テストなどもとり上げ、心理学研究の雰囲気も伝えてゆきたい。

講義の内容・授業スケジュール

講義の予定としては、前期では、心理学の立場で人間をどう考え、どの様に捉えようとしているかを、中心に進める予定。後期は、前期の基礎的知識をふまえて、心理学立場からの人間関係に関わる各研究領域に焦点をあててゆく。

成績評価の方法

筆記試験・レポートなどの提出物、その他、平常点（講義への出席状況や、参加度）など総合して評価を行う。

教科書

鈴木清編『人間理解の科学〔第2版〕—心理学への招待』（ナカニシヤ出版）2,000円税別

## 講義のねらい

講義形式だけの授業形態は、学習者を受け身のバケツの学び方にしてしまう。学問とは、問い学ぶと書くように、講師が一方向的に降り注ぐ知識を、頭に詰め込むことに強いて勉める(勉強する)ことではない。科学は、不思議な現象に対して、疑問を持ち、仮説を立て、仮説の基にサーチライトをあて、検証(反証)し、新たな仮説構成や発見をしていくプロセスである。

学習というと、教科書に書かれた知識を理解していくことだと考えられがちだが、行動主義的学習理論によると、「学習とは、経験を通じて行動変容していくプロセスである」と定義している。言語という道具を操る能力を持った人間は、概念学習ができるようになり、遺伝子の他に「遺言子」とでも呼べる知識を残し、それを世代間で、伝達・組み換え・改良していくことで文明を築き、他の生物とは異なる進化の道を歩み出すようになった。

しかし、経験から学ぶプロセスと、遊離してしまった知識だけの学習は、生きるための知恵として効果的に機能できない。頭だけが参加する聴講学習は、体験学習に伴う自発性や能動性、発見から得られるモチベーションが得られない。この授業では、講義だけではなく、グループによる体験学習を取り入れて、学生相互のコミュニケーションを深め、自己理解と他者理解を促進します。心理学の人間理解の仮説の基に、自分自身や他者を見つめなおし、よりよい人間関係を築くために役立つ道具(理論と技法)を体験的に学んでいきます。

講義の内容・  
授業スケジュール

学習計画は、進行状況により変更することがあります。

- [前期] (1) 学習とは? 授業方針 (2) 心とは何か (3) 性格検査による自己理解  
(4) パーソナリティ理論 (5) 精神分析の人格理論 (6) グループ形成とエンカウンター (7) コミュニケーションの促進 (8) 対人関係の真理 (9~10) カウンセリングの理論と技法 (11) 生涯発達心理学 (12) 親子関係の心理
- [後期] (13) 青年の心理 (14) 交流分析による自己理解 (15) 自己肯定の人間関係  
(16~17) 学習理論と行動療法 (18) relaxation 法 (19) 職場の人間関係  
(20) 恋愛と結婚の心理 (21) 流行とマス・コミュニケーション (22) 社会病理と犯罪

## 履修上の留意点

単独・聴講学習ではなく、グループによる協力学習・相互学習・体験学習ですので、毎回、グループごとに自筆で出席をとります。欠席しがちな人は履修しないでください。

## 成績評価の方法

出席点と平常の小試験、小レポート、グループ発表などで、個人とグループを、それぞれ50点満点で評価し合計します。

## 教科書

蓮見将敏・小山望編著『人間関係の心理学—体験をとおして学ぶ心理学—』(福村出版)

**科目名****担当者名**

心理学（7）〔人間関係を考える〕

加藤博己

**講義のねらい**

この講義では、人間関係に重点を置きつつ、哲学から独立し120有余年の歴史を有する心理学の基礎分野、並びに、歴史と研究法を概観し、基礎知識を習得することを目指す。

**講義の内容・授業スケジュール**

前期：オリエンテーション（講義の目標、形式、内容、評価方法、注意事項の確認等）、記憶、学習・思考、パーソナリティ、動機づけ、情動。  
後期：発達、感覚・知覚・認知、社会、臨床、心理学論（心理学の語源、定義、歴史、心理学の分野、心理学の研究法、定期試験。

**履修上の留意点**

履修希望者は、初回授業のオリエンテーションに必ず出席し、講義の目標、形式、内容、評価方法等をよく理解した上で受講すること。初回のオリエンテーションを欠席した場合は履修を認めない。

**成績評価の方法**

定期試験期間内に、筆記試験を行う予定である。また、前期試験を行う可能性がある。詳細は、初回のオリエンテーションで述べる。

**教科書**

鹿取廣人・杉本敏夫『心理学 第2版』（東京大学出版会）2004年 2,520円（2,400円＋税）ISBN4-13-012041-7

**参考書等**

教科書や配付資料の引用文献を参照のこと。その他、必要に応じて紹介する。

**その他**

主に板書を用い、必要に応じて教科書、資料、書画カメラ、ビデオなどを用いるとともに、数回の簡単な心理検査や実験を実施する予定である。本授業は講義形式であるが、一方通行の講義とならないよう、前回の授業内容の理解度を確認するためのワークや授業内容についての意見が毎回求められ、心理検査や実験への積極的な参加が望まれる。従って、単に授業に出席しているだけでは、単位取得は困難となるかも知れない。

科目名	担当者名
心理学（８）〔人間関係を考える〕	鈴木 順一

講義のねらい

心理学をこれから学ぼうと考えている人のなかには先入観をもっている人が多いと思われる。それはマスコミなどで取りあげられることの多い深層心理やカウンセリングの問題である。そのため心理学ではそれだけを扱うものであるという誤解が生まれやすい。臨床心理の問題も、心理学の中で重要な問題領域であるが、心理学が扱う問題は、それだけではないということ学ぶ。  
心理学全般をおさえ、日常生活において心理学を生かしていく「きっかけ」を身につけることが本講義の目的である。

講義の内容・授業スケジュール

心理学は独立した学問として認められてから、多くの研究領域に分化し、それぞれ多くの基礎的事実を蓄積してきた。そのようなすでに確立した基礎的な事実と考え方を、いずれの学派にも偏らない立場ですすめるとともに、できるかぎり最新の成果をとりいれてすすめていく。基礎的分野だけではなく、社会生活の広い分野で心理学が応用されている現状を反映させて、心理学の応用分野についてもふれていく。前期は主に基礎的分野について、後期は主に応用分野について進めていく予定である。

履修上の留意点

具体的な内容、成績評価については初回の授業時に説明する。

成績評価の方法

定期試験、レポート提出、出席の総合評価とする。

教科書

使用しない。

参考書等

適宜案内をする。

その他

授業方法は履修者数により決めるが、基本的なスタイルとして講義形式を考えている。

自然分野

科目名	担当者名
心理学（９）〔心を科学する〕	高橋 良博

講義のねらい

心理学の基礎を学ぶ人を対象にして、その研究方法についての知識を深め、人間の心理学的理解に興味を持ってもらうことを目的に、講義を進めてゆく予定。  
特に本講義では、心理学の概論的な講義の中に、人間関係にかかわるトピックスを織り込み、そのような視点を持った研究に焦点を合わせながら、講義をすすめる。  
また、講義の中に、適宜、供覧実験や人格テストなどとり上げ、心理学研究の雰囲気も伝えてゆきたい。

講義の内容・授業スケジュール

講義の予定としては、前期では、心理学の立場で人間をどう考え、どの様に捉えようとしているかを、中心に進める予定。後期は、前期の基礎的知識をふまえて、心理学立場からの人間関係に関わる各研究領域に焦点をあててゆく。

履修上の留意点

筆記試験・レポートなどの提出物、その他、平常点（講義への出席状況や、参加度）など総合して評価を行う。

成績評価の方法

講義の中で指示する。

教科書

鈴木清編『人間理解の科学〔第2版〕—心理学への招待』（ナカニシヤ出版）2,000円税別

科目名

担当者名

心理学 (10) [心を科学する]

名 取 志 保

講義のねらい

人間を理解するための1つの視点として心理学を学ぶことを本講義のねらいとする。ここでいう人間理解とは一個人の性格や人格の理解以外にも、人間が一般的にもつ特性を知ることも含む。例えば、物事の捉え方や判断の仕方など、様々な場面で何気なく行なっている活動全般について理解するということである。

講義の内容・  
授業スケジュール

心理学の概略、行動の基本様式、学習、記憶、注意、感情などの他、生理学や脳科学など関連分野についても講義する予定である。

履修上の留意点

この講義に限らず何かを学ぶということの根底には、普段の生活の中での「当たり前」のこととして捉えているようなことに対して、素朴な疑問とでもいうべき問題意識を抱くことが大切であると考えている。このような問題意識をもって授業に臨むことを希望する。

成績評価の方法

試験の結果（前期の講義内と定期試験の計2回）と出席点による。

教科書

第1回目の講義で紹介する。

参考書等

講義の中で紹介する。

## 講義のねらい

心理学は、人間の心（行動・言語を含む）を客観的に研究する学問である。心理学は、心の科学、および、心の工学と定義され、心の理解・説明・予測・制御を目的とする。本講義では、科学的観点より、日常場面での人間の行動を分析し、得られたデータの解釈の仕方といった科学的方法を身につけることを目的として行われる。

## 講義の内容・授業スケジュール

前期は、科学論を中心に、心理学における中心的なパラダイムを紹介し、後期は、それらの日常生活への応用についての話を行う。また、講義は、下記のスケジュールにしたがって進めていく予定である。授業は、ビデオなどを使用し、簡単な実験を体験してもらいながら行っていく。

1. オリエンテーション 心理学って何？
2. 血液型と性格 本当に関係あるの？
3. 科学としての心理学 科学って何？
4. 行動分析学Ⅰ ラムちゃんの電撃
5. 行動分析学Ⅱ バナナとリンゴ
6. 行動分析学Ⅲ 月に向かって吠える
7. 認知心理学Ⅰ マジカルナンバー
8. 認知心理学Ⅱ カクテルパーティ
9. 認知心理学Ⅲ 悩めるオマタかおる
10. 心霊現象の心理学 幽霊は乗り物がお好き？
11. 社会心理学Ⅰ 他人を好きになる時
12. 社会心理学Ⅱ 恋、愛、そして、意志決定 その他（リクエスト可）
13. 無意識の心理学 UFOは存在するか？
14. 人格心理学 社交的な人は朝に弱い
15. 占いの心理学 ラッキーカラーは、赤！！
16. 呪いの心理学 呪殺は可能か？
17. 所信の心理学Ⅰ 知識は人類を駄目にする！！
18. 所信の心理学Ⅱ マインド・コントロール
19. 宗教の心理学 神社の石段
20. スポーツ心理学 イメージトレーニング
21. プロファイリング モラル・ハラスメント
22. テクノ・コミュニケーション 顔文字は使ったほうがいいか

## 履修上の留意点

講義は、プリント中心に行い、毎回、参考文献や図書の紹介を行う。したがって、一冊の本を読めば本講義の内容を把握できるというのではなく、毎回の知識の積み重ねが必要である。（教科書 理解度 UP++）

## 成績評価の方法

筆記試験の絶対評価として処理される。また、心理学の実験や調査に参加することも、心理学を学ぶために重要であり、得点として加算される。

## 教科書

中丸茂『心理学者のための科学入門』1999年（北大路書房）  
 中丸茂『トワイライト・サイコロジー』2000年（北大路書房）  
 講義オリジナル資料 毎回配布（2～3枚） 年間 40～50枚

## 参考書等

講義用の配布資料で紹介。



**科目名****担当者名**

心理学 (12) [心を科学する]

ふが ぼり とも なり  
深 堀 友 覚

## 講義のねらい

身体的な異質性も然ることながら、人間には固有の性格、価値観、知能、行動パターンといった精神的(心理的)な異質性が認められる。それらを包括し、人間は個性を獲得する。しかし、人間とは決して一人では生きていけない。これはこの世に生を授かり生を全うするまで続くのである。人生とは、いわば異なる個性との共存である。個性が異なれば、そこから衝突や誤解が生じ、人間関係に支障を及ぼすこともしばしばである。

本講義では個と、個の集合体である「社会」を心理学的側面から理解していくことを目的とする。本講義を通じ、少しでも心理学の世界に興味を持って頂ければ幸いである。

## 講義の内容・授業スケジュール

パーソナリティ、学習心理学、集団・社会心理学、臨床心理学、生涯発達心理学等を講義する予定である。

## 履修上の留意点

短期間で集中的に行われる講義なので、主体的に講義に参加できる姿勢が望まれる。受動的にしか参加できない学生には、本講義の性質は不向きであろう。

## 成績評価の方法

講義最終日に行われる筆記試験と、出席率による総合評価。

## 教科書

特に指定しない。

## 参考書等

重野純『キーワードコレクション 心理学』(新曜社) 1994年  
中村昭二『心理学概説』(八千代出版) 1982年

## その他

授業日程：8月1日～8月8日、1～5時限(土、日除く)

## 講義のねらい

講義形式だけの授業形態は、学習者を受身のバケツ的学び方にしてしまう。学問とは、問い学ぶと書くように、講師が一方的に降り注ぐ知識を、頭に詰め込むことに強いて勉める(勉強すること)ではない。科学は、不思議な現象に対して、疑問を持ち、仮説を立て、仮説の基にサーチライトをあて、検証(反証)し、新たな仮説構成や発見をしていくプロセスである。

学習というと、教科書に書かれた知識を理解していくことだと考えられがちだが、行動主義的学習理論によると、「学習とは、経験を通じて行動変容していくプロセスである」と定義している。言語という道具を操る能力を持った人間は、概念学習ができるようになり、遺伝子の他に「遺言子」とでも呼べる知識を残し、それを世代間で、伝達・組み換え・改良していくことで文明を築き、他の生物とは異なる進化の道を歩みだすようになった。

しかし、経験から学ぶプロセスと、遊離してしまった知識だけの学習は、生きるための知恵として効果的に機能できない。頭だけが参加する聴講学習は、体験学習に伴う自発性や能動性、発見から得られるモチベーションが得られない。この授業では、講義だけではなく、グループによる体験学習を取り入れて、学生相互のコミュニケーションを深め、自己理解と他者理解を促進します。ヒューマン・ウォッチング(人間観察)の対象は、他者の行動ばかりではない。自己の内面の動きや行動を観察することでも、深い人間理解が得られるのである。

## 講義の内容・授業スケジュール

学習計画は、進行状況により変更することがあります。

- [前期] (1) 学習とは? 授業方針 (2) 心とは何か (3) 性格検査による自己理解 (4) パーソナリティ理論 (5) 精神分析的人格理論 (6) グループ形成とエンカウンター (8) コミュニケーションの促進 (8) 感覚・知覚・認知 (9) 自己認知 (10~11) カウンセリングの理論と技法 (11~12) 発達の心理
- [後期] (13) 心の病と心理療法 (14) 交流分析による自己理解 (15) 自他肯定の人間関係 (16~17) 学習理論と行動療法 (18) relaxation法 (19~22) 社会的行動

## 履修上の留意点

単独・聴講学習ではなく、グループによる協同学習・相互学習・体験学習ですので、毎回、グループごとに自筆で出席を取ります。欠席しがちな人は履修しないでください。

## 成績評価の方法

出席点と平常の小試験・小レポート・グループ発表などで、個人とグループを、それぞれ50点満点で評価し合計します。

## 教科書

中村昭之編著『心理学概説』(八千代出版)

講義のねらい

講義形式だけの授業形態は、学習者を受身のバケツ的学び方にしてしまう。学問とは、問い学ぶと書くように、講師が一方的に降り注ぐ知識を、頭に詰め込むことに強いて勉める(勉強すること)ではない。科学は、不思議な現象に対して、疑問を持ち、仮説を立て、仮説の基にサーチライトをあて、検証(反証)し、新たな仮説構成や発見をしていくプロセスである。

学習というと、教科書に書かれた知識を理解していくことだと考えられがちだが、行動主義的学習理論によると、「学習とは、経験を通じて行動変容していくプロセスである」と定義している。言語という道具を操る能力を持った人間は、概念学習ができるようになり、遺伝子の他に「遺言子」とでも呼べる知識を残し、それを世代間で、伝達・組み換え・改良していくことで文明を築き、他の生物とは異なる進化の道を歩みだすようになった。

しかし、経験から学ぶプロセスと、遊離してしまった知識だけの学習は、生きるための知恵として効果的に機能できない。頭だけが参加する聴講学習は、体験学習に伴う自発性や能動性、発見から得られるモチベーションが得られない。この授業では、講義だけではなく、グループによる体験学習を取り入れて、学生相互のコミュニケーションを深め、自己理解と他者理解を促進します。心理学の人間理解の仮説の基に、自分自身や他者を見つめなおし、よりよい人間関係を築くために役立つ道具(理論と技法)を体験的に学んでいきます。

講義の内容・授業スケジュール

学習計画は、進行状況により変更することがあります。

- [前期] (1) 学習とは? 授業方針 (2) 心とは何か (3) 性格検査による自己理解 (4) パーソナリティ理論 (5) 精神分析的人格理論 (6) グループ形成とエンカウンター (8) コミュニケーションの促進 (8) 対人関係の心理 (9~10) カウンセリングの理論と技法 (11) 生涯発達の心理 (12) 親子関係の心理
- [後期] (13) 青年の心理 (14) 交流分析による自己理解 (15) 自他肯定の人間関係 (16~17) 学習理論と行動療法 (18) relaxation 法 (19) 職場の人間関係 (20) 恋愛と結婚の心理 (21) 流行とマス・コミュニケーション (22) 社会病理と犯罪

履修上の留意点

単独・聴講学習ではなく、グループによる協学習習・相互学習・体験学習ですので、毎回、グループごとに自筆で出席を取ります。欠席しがちな人は履修しないでください。

成績評価の方法

出席点と平常の小試験・小レポート・グループ発表などで、個人とグループを、それぞれ50点満点で評価し合計します。

教科書

蓮見将敏・小山望編著『人間関係の心理学—体験をとおして学ぶ心理学—』(福村出版)

科目名	担当者名
数学(1)〔微積分学入門〕	小沢 誠

講義のねらい	数学の基礎分野の一つである微積分学の入門的事項を学ぶ。将来必要になった時に困らないよう、例題を丁寧に解説し、練習問題を解けるようにする。また、単に問題が解けるだけでなく、その過程において、論理的思想を身に付けることを目標とする。
講義の内容・授業スケジュール	前期に、直線と2次曲線・三角関数・指数関数と対数関数を学び、それらの導関数を求める。また、基本的な関数の微分が出来るようにする。後期に、平均値の定理とマクローリン展開・関数の増減とグラフの凹凸・偏微分と極値、不定積分・置換積分と部分積分・定積分と面積を学ぶ。
履修上の留意点	毎回出席すること。数学は一つ一つの積み重ねであるので、欠席した場合には補習が必要である。
成績評価の方法	前期と後期の試験の結果で評価する。出席も考慮する。
教科書	石村園子『やさしく学べる微分積分』（共立出版）2,100円（税込）
参考書等	適宜紹介する。
その他	講義が理解出来なかった場合は、遠慮なく質問して欲しい。全ての受講生が理解して進められるよう努力する。

自然分野

科目名	担当者名
数学(2)〔線形代数学入門〕	小沢 誠

講義のねらい	数学の基礎分野の一つである線形代数学の入門的事項を学ぶ。将来必要になった時に困らないよう、例題を丁寧に解説し、練習問題を解けるようにする。また、単に問題が解けるだけでなく、その過程において、論理的思想を身に付けることを目標とする。
講義の内容・授業スケジュール	前期に、平面と空間のベクトル・行列・行列の基本変形・連立1次方程式の解・逆行列の求め方を学ぶ。後期に、行列式の定義・行列式の性質・クラメールの公式・ベクトル空間と1次変換・固有値と固有ベクトルを扱う。
履修上の留意点	毎回出席すること。数学は一つ一つの積み重ねであるので、欠席した場合には補習が必要である。
成績評価の方法	前期と後期の試験の結果で評価する。出席も考慮する。
教科書	石村園子『やさしく学べる線形代数』（共立出版）2,100円（税込）
参考書等	適宜紹介する。
その他	講義が理解出来なかった場合は、遠慮なく質問して欲しい。全ての受講生が理解して進められるよう努力する。

科目名

担当者名

数学（3）〔現代数学入門〕

福田賢一

講義のねらい

現代数学の基礎概念を、諸科学への応用例を通して学ぶ。特に社会・経済現象に応用例を求め、具体的かつ基礎的な事例から無理のない数理的抽象化を計り、実践な応用力の養成を目指す。  
本年度は情報環境への理解を深めるため、基礎情報理論・情報数理解分野を充実させる。さらに、経済工学・金融工学の数理的基礎を学びたい。

講義の内容・授業スケジュール

前期： 論理の基礎と言語、情報理論の数理解と論理、論理設計、情報機器の理解、コンピュータ・携帯電話、通信機器の理解と数理解、線型代数とその応用。  
後期： 線型計画法、確率現象と社会現象、微積分とその応用、交通・運輸の数理解、経済・経営の数理解基礎。

履修上の留意点

予備知識は特に必要としない。高校数学の基礎的な知識があれば十分理解できる。しかし、系統性の強い学術分野であるから、基本的な定義、性質を明確にする必要とともに、基本的な事項の十分理解・運用能力が必要とされる。また、社会・経済現象に対し興味を持ち、基礎的な認識を深める必要もある。

成績評価の方法

前後期試験結果を中心に、レポート、出欠状況を加味し、総合的に判断する。

教科書

使用しない。教材、資料等は数時限に一回の割合で配布する。  
学生諸君の経済的負担を軽減するため、関連する公的な機関等のサイト等を紹介する。

参考書等

必要となり次第指示する。配布する教材、資料等に提示する。

その他

教材、資料等は数時限に一回の割合で配布する。再配布ができない事もあるので注意。講義に対する要望、質問等は積極的に行うこと。疑問点、理解不十分なところを放置しないように努める事。  
可能な限り演習を行い理解の徹底を図る。

自然分野

## 講義のねらい

地球上の生物はすべて約40億年前に誕生した始原生物に端を発し、その後には連続と続いた進化の産物である。どの生物も進化の遺産を背負って存在しており、進化を抜きにして生物を理解することはできない。また、この地球上には現在1000万種以上の生物が存在していると推定されている。肉眼では見えないバクテリアから体長20mを超すシロナガスクジラまでさまざまな形、大きさの生物が熱帯から極地、高山から深海まで地球上のあらゆる場所において独自の生活を築いている。そして、これらの生物は孤立して存在するのではなく、互いに密接な関係を保ちながら地球上にさまざまな生態系を形成している。この多様、複雑な姿が生物のもう一つの特徴である。一方、生命の基本的な情報を担う分子である遺伝子の研究が進んで、あらゆる生命現象を遺伝子レベルで統一的に理解することも可能になってきた。そこで、本講義では生物の「進化」、「多様性」、「遺伝子」を3つのキーワードにして、生物の進化や生態の実際を体系的に紹介するとともに、進化や多様性の維持に関するメカニズムについて解説する。

## 講義の内容・授業スケジュール

- 第1章 遺伝子と進化－我ら生物みな兄弟  
 (1) 生命の歴史性 (2) 遺伝子と生命現象 (3) 進化のメカニズム
- 第2章 40億年の生物進化－偶然と必然が織りなす奇跡  
 (1) 地質年代図 (2) マーグリスの共生説 (3) カンブリアの爆発  
 (4) 生物の上陸 (5) 大量絶滅
- 第3章 系統と分類－名もなき雑草はない  
 (1) リンネ式分類体系 (2) 生物五界説 (3) 種の定義と属性 (4) 分子時計  
 (5) 動物と植物の系統
- 第4章 行動と進化－生き物は誰がために生きるか  
 (1) 動物行動学の歩み (2) 適応度とゲーム理論 (3) 性選択と性比  
 (4) 利他的行動と血縁淘汰 (5) 利己的遺伝子
- 第5章 生物の人口論－産めよ殖えよ地に満てよ  
 (1) 潜在的な増殖率 (2) 密度効果と r-K 淘汰 (3) 食う・食われる関係  
 (4) 生命表
- 第6章 共生と競争－出し抜きながら深い仲  
 (1) 種間関係(共生と寄生) (2) 花と昆虫の共進化 (3) 菌根 (4) 擬態
- 第7章 人類の進化－ヒトは唯一の生き残り  
 (1) 霊長類の系統 (2) ヒトの発展段階 (3) ホミニゼーション(ヒト化)  
 (4) 人体の特徴
- 第8章 進化論－進化論も進化する  
 (1) ダーウィン以前 (2) ダーウィン進化論 (3) ネオ・ダーウィニズム  
 (4) 進化論と宗教
- 第9章 生態系－命は無数のつながりの中で  
 (1) 生態系(エコ・システム) (2) 食物連鎖と生物濃縮 (3) 光合成と呼吸  
 (4) 生産諸量
- 第10章 物質の循環－元素はめぐるよどこまでも  
 (1) 物質循環の大原則 (2) 水の循環 (3) 炭素の循環 (4) 窒素の循環  
 (5) 地球環境の形成
- 第11章 植生遷移－裸地もいずれは森林に  
 (1) 遷移のモデル (2) 遷移の実例 (3) 森林の更新
- 第12章 生物多様性－多様な世界に未来あり  
 (1) 3つの多様性 (2) 多様性の尺度 (3) 生物地理区と植生帯  
 (4) 多様性の危機
- 第13章 人為と生物－生物界のグローバリゼーション  
 (1) 里山の生物 (2) 都市化と生物 (3) 帰化種の侵入

## 成績評価の方法

前期のレポート、後期の試験、通年の出席回数を勘案して評価する。

## 教科書

講義内容を記述した「web版教科書」(清水執筆)を紹介する。受講者は清水のHPより自由にダウンロードして利用できる。

## 参考書等

「web版教科書」にて章ごとに紹介する。

## その他

講義に必要な図表は適宜プリントにして配布する。

講義のねらい

この地球が誕生したのは46億年の昔といわれる。40億年前にはすでに生命が誕生し、以後それは地球の環境を変えつつ、自らも進化の歴史を歩みながら現在に至っている。この長い歴史の中で、種の構成は変わり、あるものは絶滅してしまったけれど、現存する生物は40億年の間、生まれ・成長し・繁殖し・死ぬ ということを営々と繰り返してきた。この生物たちの営みをいろいろな段階（細胞・個体・個体群・生態系）で紹介したい。

後期には、環境問題をとりあげる。科学技術は私たちに快適で豊かな生活をもたらした。しかし、その負の部分が近年私たちを脅かしている。その一つである人工化学物質の功罪について考える。

講義の内容・  
授業スケジュール

（前期）生物の生活

- （1-5）地球の歴史と生命の期限
- （6-13）生態系のしくみ化学物質の功罪—豊かな生活とそのつけ
- （14-21）ゴミ処理とダイオキシン汚染
- （22-23）水銀汚染と水俣病
- （24-25）人工放射性物質汚染

自然分野

履修上の留意点

義務教育までの数学、理科をはじめ各教科の知識を、本講義の前提とする。意見発表の機会をつくりたいので積極的に取り組む学生の参加を期待します。

成績評価の方法

学期終了時に講義内容についての試験またはレポートを課します。成績は上記と出席状況、授業時間内の小レポートなどを考慮して、総合的に評価します。

教科書

赤堀他著『生物学—地球に生きるいのちを考える』（宣協社）2,700円

参考書等

授業時間内に随時紹介します。

その他

授業スケジュールを変更して時事問題を扱うことがあるかもしれません。

## 講義のねらい

地球上の生物はすべて約40億年前に誕生した始原生物に端を発し、その後には連続と続いた進化の産物である。どの生物も進化の遺産を負って存在しており、進化を抜きにして生物を理解することはできない。また、この地球上には現在1000万種以上の生物が存在していると推定されている。肉眼では見えないバクテリアから体長20mを超すシロナガスクジラまでさまざまな形、大きさの生物が熱帯から極地、高山から深海まで地球上のあらゆる場所において独自の生活を築いている。そして、これらの生物は孤立して存在するのではなく、互いに密接な関係を保ちながら地球上にさまざまな生態系を形成している。この複雑、多様な姿が生物のもう一つの特徴である。一方、生命の基本的な情報を担う分子である遺伝子の研究が進んで、あらゆる生命現象を遺伝子レベルで統一的に理解することも可能になってきた。そこで、本講義では生物の「進化」、「多様性」、「遺伝子」を3つのキーワードにして、生物の進化や生態の実際を体系的に紹介するとともに、進化や多様性の維持に関するメカニズムについて解説する。

講義の内容・  
授業スケジュール

- 第1章 遺伝子と進化—我ら生物みな兄弟  
(1) 生命の歴史性 (2) 遺伝子と生命現象 (3) 進化のメカニズム
- 第2章 40億年の生物進化—偶然と必然が織りなす奇跡  
(1) 地質年代図 (2) マーグリスの共生説 (3) カンブリアの爆発  
(4) 生物の上陸 (5) 大量絶滅
- 第3章 系統と分類—名もなき雑草はない  
(1) リンネ式分類体系 (2) 生物五界説 (3) 種の定義と属性 (4) 分子時計  
(5) 動物と植物の系統
- 第4章 行動と進化—生き物は誰がために生きるか  
(1) 動物行動学の歩み (2) 適応度とゲーム理論 (3) 性選択と性比  
(4) 利他的行動と血縁淘汰 (5) 利己的遺伝子
- 第5章 生物の人口論—産めよ殖えよ地に満てよ  
(1) 潜在的な増殖率 (2) 密度効果とr-K淘汰 (3) 食う・食われる関係  
(4) 生命表
- 第6章 共生と競争—出し抜きながら深い仲  
(1) 種間関係(共生と寄生) (2) 花と昆虫の共進化 (3) 菌根 (4) 擬態
- 第7章 人類の進化—ヒトは唯一の生き残り  
(1) 霊長類の系統 (2) ヒトの発展段階 (3) ホミニゼーション(ヒト化)  
(4) 人体の特徴
- 第8章 進化論—進化論も進化する  
(1) ダーウィン以前 (2) ダーウィン進化論 (3) ネオ・ダーウィニズム  
(4) 進化論と宗教
- 第9章 生態系—命は無数のつながりの中で  
(1) 生態系(エコ・システム) (2) 食物連鎖と生物濃縮 (3) 光合成と呼吸  
(4) 生産諸量
- 第10章 物質の循環—元素はめぐるよどこまでも  
(1) 物質循環の大原則 (2) 水の循環 (3) 炭素の循環 (4) 窒素の循環  
(5) 地球環境の形成
- 第11章 植生遷移—裸地もいずれは森林に  
(1) 遷移のモデル (2) 遷移の実例 (3) 森林の更新
- 第12章 生物多様性—多様な世界に未来あり  
(1) 3つの多様性 (2) 多様性の尺度 (3) 生物地理区と植生帯  
(4) 多様性の危機
- 第13章 人為と生物—生物界のグローバル化  
(1) 里山の生物 (2) 都市化と生物 (3) 帰化種の侵入

## 成績評価の方法

前期のレポート、後期の試験、通年の出席回数を勘案して評価する。

## 教科書

講義内容を記述した「web版教科書」(清水執筆)を紹介する。受講者は清水のHPより自由にダウンロードして利用できる。

## 参考書等

「web版教科書」で章ごとに紹介する。



そ の 他

講義で必要な図表は適宜プリントにして配布する。

科 目 名

担 当 者 名

生物学〔生態と環境〕

なかむらとしえ  
中村敏枝

—フレックスB開講—

講義のねらい

この地球が誕生したのは46億年の昔といわれる。40億年前にはすでに生命が誕生し、以後それは地球の環境を変えつつ、自らも進化の歴史を歩みながら現在に至っている。この長い歴史の中で、種の構成は変わり、あるものは絶滅してしまったけれど、現存する生物は40億年の間、生まれ・成長し・繁殖し・死ぬ ということを営々と繰り返してきた。この生物たちの営みをいろいろな段階（細胞・個体・個体群・生態系）で紹介したい。

後期には、環境問題を取りあげる。科学技術は私たちに快適で豊かな生活をもたらした。しかしその負の部分が近年私たちに脅かしている。その一つである人工化学物質の功罪について考える。

講義の内容・  
授業スケジュール

（前期）生物の生活

- （1-5）地球の歴史と生命の期限
- （6-13）生態系のしくみ化学物質の功罪—豊かな生活とそのつけ
- （14-21）ゴミ処理とダイオキシン汚染
- （22-23）水銀汚染と水俣病
- （24-25）人工放射性物質汚染

履修上の留意点

義務教育までの数学、理科をはじめ各教科の知識を、本講義の前提とする。意見発表の機会をつくりたいので積極的に取り組む学生の参加を期待します。

成績評価の方法

学期終了時に講義内容についての試験またはレポートを課します。成績は上記と出席状況、授業時間内の小レポートなどを考慮して、総合的に評価します。

教 科 書

赤堀他著『生物学—地球に生きるいのちを考える』（宣協社）2,700円

参 考 書 等

授業時間内に随時紹介します。

そ の 他

授業スケジュールを変更して時事問題を扱うことがあるかもしれません。

自  
然  
分  
野

科目名	担当者名
自然環境論〔生命と環境〕	中 <sup>なか</sup> 村 <sup>むら</sup> 敏 <sup>とし</sup> 枝 <sup>え</sup>

講義のねらい

米国同時多発テロ事件が起きた2001年9月、国内ではBSE問題が浮上した。BSEは牛の致死性の感染症であるが、病原体がプリオンというたんぱく質であること、ヒトおよび他の生物に種の壁を越えて感染することが、生物学的には興味深い。英国でこれが蔓延したのは罹病した牛の屍体を飼料として用いたことによるという。つまり、経済性・効率性の追及の結果である資源の有効利用が、草食動物である牛に肉食をさせた結果、生じた人災なのである。増え続ける人口、豊かな食生活への欲求、それが、生物と環境に何をもたらしているのかを考えてみよう。

講義の内容・授業スケジュール

- (前期) 人間の活動と自然環境  
 (1-6) 自然のしくみ  
 (7-12) 自然の改変食をめぐる問題  
 (13-18) 農業—有機農業・灌漑・遺伝子組み替え作物  
 (19-22) 畜産業—肉食とは何か・BSE・クローン動物  
 (23-25) 漁業—海外依存度・環境ホルモン汚染

履修上の留意点

義務教育までの数学、理科をはじめ各教科の知識を、本講義の前提とする。意見発表の機会をつくりたいので積極的に取り組む学生の参加を期待します。

成績評価の方法

学期終了時に講義内容についての試験またはレポートを課します。成績は上記と出席状況、授業時間内の小レポートなどを考慮して、総合的に評価します。

教科書

使用しません。

参考書等

赤堀他著『生物学—地球に生きるいのちを考える』(宣協社) 2,700円  
 その他については授業時間内に随時紹介します。

その他

授業スケジュールを変更して時事問題を扱うことがあるかもしれません。

自然分野

科目名	担当者名
自然環境論〔生命と環境〕	持 <sup>もち</sup> 丸 <sup>まる</sup> 真 <sup>ま</sup> 里 <sup>り</sup>

講義のねらい

生物を中心とした自然環境の仕組みを理解した上で、現代の人間活動が生態系へもたらしている諸問題について考えることを目的とする。講義では、基礎知識として、生物の基本構造と多様性、物質及びエネルギー代謝、生態系の成り立ちなどについて解説した上で、生化学・生態学的な視点を要求される現代の諸問題について各論的に取り上げてゆく。また、これらの事例を通して、生態系の保全のためにどのような姿勢が要求されるか考察する。

講義の内容・授業スケジュール

- (前期) (1) 生態系の成り立ち (2) 生物とは何か (3) 生命の誕生と地球環境  
 (4) 地球温暖化 (5) 生態系内の物質循環 (6) 生産者の働きと生態系  
 (7) 森林破壊 (8) 生態系の浄化作用 (9) 化学物質による生態系汚染  
 (10) ダイオキシン問題 (11) 環境ホルモン (12) オゾン層破壊  
 (13) 近代農業の問題

履修上の留意点

授業中の私語・飲食・携帯電話の使用は禁止。上記のようなスケジュールを基本とするが、学生の理解度にあわせて進度を調整したり、途中でニューストピックスを取り上げるなど、柔軟に勧めて行く。

成績評価の方法

出席点と筆記試験による。

参考書等

大石正道『入門ビジュアルエコロジー—生態系と地球環境のしくみ』(日本実業出版社) 1,500円  
 その他、講義の中で随時紹介する。

科目名

担当者名

自然環境論〔生命と環境〕

坂野井 和 代

講義のねらい

人間が普段活動している地球環境（陸地、大気、海洋）の基礎的な構造や原理を学ぶと共に、現在話題になっている地球温暖化等の環境問題について知る。また、近年人類が活動するようになった地球近傍の宇宙環境（地球磁気圏、太陽系の惑星など）についても触れ、地球環境システムを総合的に理解する。

講義の内容・授業スケジュール

- 主に地球の大気環境（気候、気象、超高層大気）と地球近傍の宇宙環境について触れる。
1. 地球環境システムの構造と原理（個体地球、大気・海洋、地球磁気圏）
  2. 地球と太陽系惑星との比較（地球磁気圏、太陽、太陽系）
  3. 地球の気候と気象
  4. 地球環境問題（地球温暖化、オゾン層破壊）
  5. 地球近傍の宇宙環境（宇宙天気予報、人工衛星観測、太陽系惑星探査）
  6. その他、トピックス

履修上の留意点

なるべく一つ、一つ説明はしますが、中学・高校の基礎的な数学・理科を理解する程度の知識や能力は必要です。講義の進度や話題は、受講人数やその時期の状況に応じて、適宜調節します。人数によってはレポート発表形式の講義も検討しますので、やる気のある学生を求めます。

成績評価の方法

評価は授業時間中および期末に出題する課題および試験によって行う。

教科書

使用しない。適宜資料を配付する。

参考書等

その都度紹介する。

自然分野

科目名

担当者名

自然環境論〔生物の集団と環境〕

坂巻 義章

講義のねらい

地球環境の変化は現代の重要な問題の1つである。これは、個人の専門や興味に関係なく我々に降りかかってくる。この状況の中で人間を含めた自然、それを取り巻く環境について正しい理解をもつことは必要不可欠である。この講義では生物の生活と環境の関係を理解する事を基本とし、生態系の成り立ちやその中で起こる調節、人間による攪乱などについて取り上げる。この知識を基礎にこれからの環境変化についてどう対処するかを考えたい。

講義の内容・授業スケジュール

- 前期 (1、2) 地球 (3) 環境とは何か (4) 生物とは何か (5、6) 生物の歴史と環境 (7、8) 生物の進化 (9、10) 生物の分布 (11、12) 環境への適応 (13) 前期のまとめと試験  
後期 (14、15) 食物連鎖とエネルギー流 (16) 生態ピラミッド (17) 個体群 (18) 出生と死亡 (19) 競争と住み分け (20) 捕食 (21) 共生と寄生 (22) 土壌と分解者 (23) 物質循環 (24) 里山の生態系 (25) 人口問題と環境問題 (26) まとめと試験

履修上の留意点

スケジュールは基本である。開始後に理解度によって進度を調整したり、新たな内容についても触れるなどの変更はありうる。大学生として授業に参加する基本的なマナーは守って欲しい。

成績評価の方法

出席点と筆記試験で行う。途中で課題を出すこともあるので、その場合はこれも加える。

教科書

指定しない

参考書等

指定しない。必要な場合にプリントを配布することがある。

その他

講義形式の授業とする。

## 講義のねらい

現代の天文学と惑星科学の成果の上に立ち、宇宙を視点に地球の自然環境について講義します。

太陽系の惑星の一つである地球の現在の自然環境は46億年の太陽系の歩みと地球の進化の産物です。現在も、太陽はもちろんのこと、太陽系内外の宇宙からのさまざまな影響の下にあります。また、過去40年間の太陽系探査により多くの天体が調べられ、地球をこれらの天体と比較しながら研究できるようになってきました。最近では、太陽系外の惑星系も見つかり始めています。その成果をふまえて、「地球環境」とはそもそもどんなものであり、どのように形成され、変化してきたかを中心に取り上げます。

日常生活でのある行為が「地球に優しい」のか逆に「地球を傷つける」のかという判断は立場により、また時代により異なります。環境問題は「健康法」と似ていて、仕組みもわかっていないうちに、効果も立証されていない手段でともかく対処しなければいけないという場合もあります。その結果、認識が少し進むと「善」と「悪」が入れ替わることも起こります。表面だけを見ていると、環境に確かなものは何もないかのように思われてきます。

多くの要因が複雑に絡みあう地球規模の環境問題について、原因や対策がすでにわかっているとは到底言えません。しかし、地球環境の基礎を形作る事柄についての研究は着実に進んでいます。この講義を通して個別の環境問題の背後にある地球環境システムについて理解し、より深いところから地球環境を考えられるようになっていただきたいと思います。

## 講義の内容・授業スケジュール

1. 宇宙と地球地球環境  
宇宙の中の地球 宇宙の起源と進化 太陽系と地球の起源  
太陽 地球磁気圏 海と大気 生命 地球環境の進化
2. 地球環境の変動  
宇宙環境と地球環境変動 地球システムと地球環境変動 人類と地球環境変動
3. 地球環境問題  
オゾン層破壊問題 地球温暖化問題 エネルギー その他の環境問題
4. 宇宙と地球の未来  
文明の未来 地球と宇宙の未来 SETI (地球外文明探査)

## 成績評価の方法

学年末に行う筆記試験の結果により評価します。平常点も考慮します。

## 教科書

御代川貴久夫著『環境科学の基礎 改訂版』（培風館）2,100円＋税

## 参考書等

小宮山宏著『地球持続の技術』（岩波新書）660円  
その他、講義の中で適宜紹介します。

科目名

担当者名

自然環境論〔生命と環境〕

なかむらとしえ  
中村敏枝

—フレックスB開講—

講義のねらい

米国同時多発テロ事件が起きた2001年9月、国内ではBSE問題が浮上した。BSEは牛の致死性の感染症であるが、病原体がプリオンというたんぱく質であること、ヒトおよび他の生物に種の壁を越えて感染することが、生物学的には興味深い。英国でこれが蔓延したのは罹病した牛の屍体を飼料として用いたことによるという。つまり、経済性・効率性の追及の結果である資源の有効利用が、草食動物である牛に肉食をさせた結果、生じた人災なのである。増え続ける人口、豊かな食生活への欲求、それが、生物と環境に何をもたらしているのかを考えてみよう。

講義の内容・  
授業スケジュール

- (前期) 人間の活動と自然環境
  - (1-6) 自然のしくみ
  - (7-12) 自然の改変食をめぐる問題
  - (13-18) 農業—有機農業・灌漑・遺伝子組み替え作物
  - (19-22) 畜産業—肉食とは何か・BSE・クローン動物
  - (23-25) 漁業—海外依存度・環境ホルモン汚染

履修上の留意点

義務教育までの数学、理科をはじめ各教科の知識を、本講義の前提とする。意見発表の機会をつくりたいので積極的に取り組む学生の参加を期待します。

成績評価の方法

学期終了時に講義内容についての試験またはレポートを課します。成績は上記と出席状況、授業時間内の小レポートなどを考慮して、総合的に評価します。

教科書

使用しません。

参考書等

赤堀他著『生物学—地球に生きるいのちを考える』（宣協社）2,700円  
その他については授業時間内に随時紹介します。

その他

授業スケジュールを変更して時事問題を扱うことがあるかもしれません。

自然分野

### 3. 外 国 語 科 目

外國語科目

### 3. 外国語科目

#### 《選択科目》

科目名	配当学科	開講区分	単位	担当者名	ページ
英会話 I	GM1・2・3・4選	通年	2	ロビン, G. F.	97
英会話 I	GM1・2・3・4選	通年	2	ウェルズ, J. K.	98
英会話 I	GM1・2・3・4選	通年	2	ソルタ, P. N. F.	99
英会話 I	GM1・2・3・4選	通年	2	レーン, C. M.	100
英会話 I	GM1・2・3・4選	通年	2	ピアス, D. M.	101
英会話 I	GM1・2・3・4選	通年	2	ササキ, M.	102
英会話 I	GM1・2・3・4選	通年	2	ラッセル, S. J.	102
英語 L L I	GM1・2・3・4選	通年	2	甲斐捷子	103
英語 L L I	GM1・2・3・4選	通年	2	埴美智子	104
英語 L L I	GM1・2・3・4選	通年	2	西村祐子	104
英語 L L I	GM1・2・3・4選	通年	2	加藤佐和子	105
英語 L L I	GM1・2・3・4選	通年	2	太田雅子	105
英語 L L I	GM1・2・3・4選	通年	2	久保ひさ子	105
ドイツ語 I A (選)	GM1・2・3・4選	通年	2	藪下紘一	106
ドイツ語 I B (選)	GM1・2・3・4選	通年	2	野島利彰	106
フランス語 I A (選)	GM1・2・3・4選	通年	2	出口雅敏	107
フランス語 I A (選)	GM1・2・3・4選	通年	2	前田祝一	107
フランス語 I B (選)	GM1・2・3・4選	通年	2	菅原猛	107
中国語 I A (選)	GM1・2・3・4選	通年	2	吉田建一郎	108
中国語 I A (選)	GM1・2・3・4選	通年	2	宮本厚子	108
中国語 I B (選)	GM1・2・3・4選	通年	2	蘭明	108
スペイン語 I A (選)	GM1・2・3・4選	通年	2	亀山晃一	109
スペイン語 I B (選)	GM1・2・3・4選	通年	2	ナバロ, ホワン J.	109
ロシア語 I A (選)	GM1・2・3・4選	通年	2	クロチコフ, Y.	110
ロシア語 I B (選)	GM1・2・3・4選	通年	2	木村英明	110
朝鮮語 I A (選)	GM1・2・3・4選	通年	2	宋美玲	111
朝鮮語 I B (選)	GM1・2・3・4選	通年	2	宋美玲	111
英文講読	GM1・2・3・4選	通年	4	林明人	112
英文講読	GM1・2・3・4選	通年	4	矢島直子	112
英文講読	GM1・2・3・4選	通年	4	牧野輝良	112
時事英語研究	GM1・2・3・4選	通年	4	竹村恵都子	113
時事英語研究	GM1・2・3・4選	通年	4	林明人	113
時事英語研究	GM1・2・3・4選	通年	4	岸本茂和	113
時事英語研究	GM1・2・3・4選	通年	4	田中保	114
時事英語研究	GM1・2・3・4選	通年	4	矢島直子	114
マルチ・メディア	GM1・2・3・4選	通年	2	落合和昭	115
マルチ・メディア	GM1・2・3・4選	通年	2	大庭直樹	116
マルチ・メディア	GM1・2・3・4選	通年	2	西村祐子	116



外国語科目

《選択科目》

# 英 会 話 I

## 〈英会話 I の授業内容と履修上の留意点〉

基本的な日常表現ができることを目指した大学初級レベルの英語会話の授業です。達成目標の目安は英検 2 級合格、TOEFL®のスコアー450点、TOEIC®のスコアー500点程度。I A の振り替え選択科目です。各担当者の講義内容 (syllabus) をよく読み、時間表で曜日・時限を確認してクラスを選び、事前登録をしなければなりません。

1 クラスの受講人数に制限があるので、希望通りに選択できない場合もあります。

科 目 名	担 当 者 名
英会話 I	ロビン, G. F.

講義のねらい

This course will focus on developing conversation skills for students using vocabulary and grammar that would normally have been acquired from previous courses in the school system. New vocabulary will be introduced as needed. Students will be encouraged to express themselves in English through pair and group activities, on which they will be graded.

講義の内容・  
授業スケジュール

It will consist of pair group, small group, and class discussion activities designed to gradually build and improve upon vocabulary and fluency normally acquired from previous pre-college study of English.

成績評価の方法

According to class participation, homework assignments, and a mid-term and final test, which will be given at the end of each term.

教 科 書

Warren Wilson, Roger Bernard *FIFTY - FIFTY: Student book 1* (Longman)  
ISBN0 - 13 - 920000 - 2

科目名

担当者名

英会話 I

ウェルズ, J. K.

講義のねらい

WELCOME TO ENGLISH CONVERSATION I

Speaking English is not so difficult if you have the interest and belief that you can. I hope to give you this chance to speak without feeling shy!

講義の内容・  
授業スケジュール

First Semester: Pairwork practice answering and asking questions in a relaxed environment. The first semester exam will be an interview that I give you based on the questions and answers you practiced with your partner (s).

Second Semester: Role-playing will be emphasized as I feel that speaking English while moving (not just sitting) is important. It will also give you an opportunity to show your 'acting' skills in front of other people, or should I say speaking skills. Your final exam will be a dialogue that you and your partner create/write and, which you will perform in the classroom. Do not worry, it is fun!

履修上の留意点

Attendance is VERY important and so I have one very STRICT rule in my classroom. NO student will be allowed to be absent more than three times during the school year. If I did not have this rule, students would come and go as they please. It is important to attend class. There are NO exceptions for activities in sports or for job hunting. I am proud of the overall percentage of students who attend my class and I know you can attend regularly also.

成績評価の方法

Attendance : 50%

Tests : 25% (one test each semester)

Quizzes : 25% (usually part of assignments or announced quiz)

教科書

There is NO textbook, but you will need one larger than average notebook to keep all the prints I provide you in the class. This notebook will be checked and graded. Loose leaf binders should NOT be used. I will provide you with B5 sized prints so a notebook larger than B5 should be used. Notebooks will be checked in the second class.

The first class is very important, so please do not be absent!

その他

I am an American and have been teaching at Komazawa for many many years! It is a great joy to be a part of such a nice university and I hope you will help me enjoy teaching you during the school year. Learning to communicate in English CAN be fun! See you in class soon!

外国語科目

## 講義のねらい

English Conversation I was designed for typical Japanese high school graduates who have studied English for six years at junior and senior high school, but have great difficulty in speaking and understanding spoken English. This course helps students overcome their natural shyness at speaking in a foreign language, and gives them many opportunities to practice, in a meaningful context, communicating in natural spoken English. This enables students to build up their speaking and listening skills, and improve their ability to understand and use real English for real communication. Finally, this course seeks to increase the number of situations in which students can function using real-world English.

講義の内容・  
授業スケジュール

Twelve units from a textbook and the instructor's worksheets will be used as sources of classroom material. The course is based on the principle that the only way to become fluent in a language is through lots of practice. The emphasis in this class, therefore, will be firmly on speaking and listening exercises. Students will do most of their exercises with one other student (this is called pairwork) to give everyone the maximum number of opportunities for speaking and listening practice.

The units to be covered are:

- Unit 1 : Introductions / Classroom Language
- Unit 2 : Likes and Dislikes / Adjectives
- Unit 3 : Locations / Telephoning (1)
- Unit 5 : There is ... There are ... / Quantities
- Unit 6 : Have ... , Want ... , Would like ... , / Shopping (1)
- Unit 7 : Uncountable nouns / At a Restaurant
- Unit 9 : Present Continuous / Telephoning (2)
- Unit10 : Fashion / Shopping (2)
- Unit12 : Present Simple / Occupations
- Unit13 : Adverbs of frequency / Routines (1)
- Unit14 : Transportation / Work & School
- Unit15 : The Present Tenses / Frequency

## 履修上の留意点

It will be assumed that students taking this course have studied English language at high school level for six years. Students must be willing to take a class where all the teaching will be done in English. Students should note that only two absences per semester are permitted in this course. Constant attendance, and a positive attitude towards and active participation in all class activities, will be essential for a passing grade in English Conversation I.

## 成績評価の方法

A final grade will be based on three measures: a mid-year exam (30%), an end-of-year exam (30%), and a mark based on attendance, attitude in class and class performance throughout the year (40%). The nature of the exams may vary depending upon the class size. An interview-style exam will given if the number of students is small. Otherwise, listening and written exercises will be used. Bonus marks will be awarded to those students who have only zero/one absence (+10%) or two absences (+5%) throughout the year.

## 教科書

David Paul / *Communicate: book 1 a* / Macmillan Language House, ¥1,230  
ISBN0-435-26119-3

科目名

担当者名

英会話 I

レーン, C. M.

講義のねらい

This language course offers students a chance to improve speaking and listening skills, thus enabling them to feel comfortable in communicating in English in simple everyday situations.

講義の内容・  
授業スケジュール

Emphasis will be placed on controlled speaking practice and improvement of listening skills. Journal writing will also be compulsory and will give students a chance for freer expression as well as a good way of having more personal contact with the teacher.

履修上の留意点

Classes will be taught entirely in English with students working in pairs or small groups.

成績評価の方法

50% Class participation and attendance  
25% Journal  
25% Semester exams

As this is a practical class, students must be present and participate actively in order to get a passing grade.

教科書

Book used will be decided on after the course starts to ensure the correct level of text is chosen.

参考書等

A good English / Japanese dictionary

その他

Message for Students

Speaking English can be fun, but to make any progress the student must be prepared to try to speak as much as possible.

講義の内容・  
授業スケジュール

Please join this class together with your friends! During most of the class period you will be talking to each other in groups. You will not be learning any more English; all you have to do is to start using what you already know. By the end of the course you should be able to speak enough English to travel in foreign countries, talk with foreigners, and communicate about all the usual things in everyday life. Our textbook will guide you through everything. You will learn all the conversation patterns for everyday situations such as buying things, getting information, making reservations. The course also aims at helping you to find good employment in the future, and so we will concentrate on TOEFL, EIKEN, AND TOEIC. There will also be a lot of intensive practice in English composition, which you can practice together in groups. It's a lot of fun!

## 履修上の留意点

Attendance and active participation are most important, because improvement in English speaking depends on the amount of practice. Please attend all of the classes. The student may miss six classes in the year and still pass; if the student misses five classes, the final grade will be one letter - grade less than what the student would otherwise have received.

Apart from the two final-semester examinations, there will be frequent small exams. Such exams are not intended to apply pressure; an examination is an excellent method of learning. All exam questions will be questions that we have done together in class, which are printed in the textbook.

## 成績評価の方法

Your final grade depends 70% on your class performance, in every class. I will keep a record of your participation in every single class meeting.

## 教科書

We will probably use Sociological Notes, Themis Research Group as our textbook. In the first class meeting we will have a diagnostic test to determine the appropriate level of the class; do not buy the text until after the first class. Also recommended is an English-Japanese dictionary or a battery-powered dictionary. There will be some effort to absorb the vocabulary of written English that you probably do not know.

## その他

Your final grade is how good your employment will be after university graduation. Never forget that English ability is extremely important when you are looking for employment; you will be able to get better employment if you improve your English this year. You are taking a high-quality English course to get better employment in the future, not just to get a university grade!

Take this course only if you are fully willing to practice English conversation, in a loud voice, with others. If you don't want to speak out loud, take some other course. In this class you will be speaking English all the time.

---

**科目名****担当者名****英会話 I**

ササキ, M.

**講義のねらい**

The goal of this course is for students to obtain the social skills and academic knowledge necessary to hold intelligent conversations in English. Social skills include how to express an opinion based on knowledge obtained from watching the news, reading the newspaper, and searching for information on the Internet.

**講義の内容・授業スケジュール**

Students will be expected to explain in English "what happened in the news" on a weekly basis. They will also be expected to give oral presentations based on thorough research. Emphasis will be placed on pronunciation, intonation, tone, loudness, and speed. The textbook will cover practical conversation skills needed for travel.

**履修上の留意点**

3分の2以上出席すること。課題（レポート、小テスト、プレゼンテーション等）を重視すること。遅刻しないこと（30分以上遅刻する場合、欠席取り扱い）。カンニング（代返、教室退場、盗作など）しないこと（成績評価は「不可」になる）。毎日、ニュースを見ること。

**成績評価の方法**

課題や出席点数の平常点。試験はありません。

**教科書**

「*Viva! San Francisco*」 published by Macmillan Language house  
教科書と和英・英和辞典をいつも持参すること。

---

**科目名****担当者名****英会話 I**

ラッセル, S. J.

**講義のねらい**

English Conversation I C is for students who really want to improve their listening and speaking ability in English.

**講義の内容・授業スケジュール**

This course will present everyday functional language in various situations. Students will speak in controlled and guided activities with their classmates, which is a great way to make new friends. It should be fun! Later in the course students should be free and able to express their ideas and opinions on a range of interesting topics. Interactive learning will be a feature of the classes so good attendance will be required.

**履修上の留意点**

Please come to class smiling with a positive attitude to actually SPEAK English. Show that you really want to improve your English by not missing many classes. Good attendance will be important in your grade each semester. Bring your textbook, a notebook, and a dictionary to each class.

**成績評価の方法**

Students will be assessed at the end of the course based on attendance, assignments and performance in class. There will be a short (but not too easy) speaking test at the end of the course.

**教科書**

*Fifty-Fifty Book 1* ISBN0-13-920000-2 (Published by Longman)

# 英 語 L L I

## 〈英語 LL I の授業内容と履修上の留意点〉

情報メディア機器（1号館3・4階PC教場）を使用し、発音、アクセント、イントネーションなどの口頭練習とデジタル化されたテープ教材またはビデオ教材を用いて、日常会話などのヒアリングとスピーキングを訓練します。英検2級合格、TOEFL®のスコア450点、TOEIC®のスコア500点程度を達成目標とする初級レベルです。I Aの振り替え選択科目なので、各担当者の講義内容（syllabus）をよく読み、時間表で曜日・時限を確認してクラスを選び、事前登録をしなければなりません。1クラスの定員が30名ですから、希望通りに選択できない場合もあります。

科 目 名	担 当 者 名
英語 L L I	甲 斐 捷 子

### 講義のねらい

外国語の習得は、乳幼児の言語習得を観察すればわかるように、音の習得が基本です。この授業では、河合楽器が製作したビデオを使って、アメリカ英語の発音を視覚的に、基礎から学び直し、バランスの取れた英語力を身につけることが目的です。一つ一つの音の習得から初めて、単語、短文を正確に聞き取り、アメリカ人と同じような発音で発話する訓練へと進みます。音の習得ができれば、英語を学ぶ楽しさが倍加するだけでなく、正確なリスニング力、会話力が身につきます。小中学校の間に、きちんとした発音の訓練を受けなかった皆さんには、ぜひ履修していただきたい授業です。

### 講義の内容・授業スケジュール

テキストは全22章からなり、各章の構成は、課題発音を含むスキット、発音方法、日米比較、単語、短文の練習、初めのスキットとなっています。発音の様子が映像で写し出されますから、それを見ながら、また、自分の発音とビデオの発音とを重ね合わせながら、正しい発音を習得します。前期でビデオを終了し、後期は American Accent Training の CD を使用してレベルアップを図ります。このハンドアウトは前期の授業開始時に配布します。

### 履修上の留意点

ビデオ、CD のダビングは著作権法上できません。授業時間内の練習で十分です。

### 成績評価の方法

一応の目安として、平常評価としての出席10%、前期試験30%、後期試験30%、小テスト30%による総合評価とします。

### 教 科 書

*Sounds Right! Sounds Good!*  
Hisako Murakawa 著 Macmillan Languagehouse 2,000円



科目名	担当者名
英語LLI	ほなわ 美智子 埜 みちこ

講義のねらい

PC教室を使い英語の発音、アクセント、イントネーション等を習得し、明確な英語が使えるようになる。自分のことばで表現する力を養成する。

講義の内容・授業スケジュール

日常生活の中で実際に話されている生きたことばを教材に用い、音声聞き、繰り返し練習する。聞き、話す力を高めていく。

履修上の留意点

表現について研究したり、ことばの広がりをも自分なりに探す習慣をつける。

成績評価の方法

日常の授業を重視し、出席状況、前後期の試験の結果を入れて総合的に評価する。

教科書

'Experience America!' - An Authentic DVD English Language Text -  
(金星堂) ¥2,300

参考書等

その都度黒板に板書し、案内する。

その他

いろいろなテーマが出てくるので、英語圏文化についての知識を増す努力をする。

科目名	担当者名
英語LLI	にしむら 祐子 西村 祐子

講義のねらい

基本的な表現をつかっても「話すこと」からはじめ、日常的なテーマを英語で話してみる。後期は日常的スピードで話される会話をききとり、受け答えできるように聞き取る力を向上させていく。説明は前期は日本語でおこなうが、後期にはすべて英語による授業になる。

講義の内容・授業スケジュール

4-7月：基本的な会話表現を学習。シャドウイングによって短いセンテンスをくりかえし発音し覚える。ペアワークをおこなう。  
9-12月：ビデオをみながら話の内容を英語で説明する。英語で簡単なプレゼンテーションを毎回行う。

履修上の留意点

学生への要望：学生は全員駒澤大学のコンピュータIDを取得しておくこと。

成績評価の方法

定期試験はおこなわない。平常点（出席率、発表など）重視。

教科書

前期は *Talk It UP* (1) (マクミラン社) 使用。

参考書等

教場で指定する。

科目名	担当者名
英語 L L I	加藤 佐和子

講義のねらい	発音・アクセント・イントネーションを学習し、ネイティブ・スピーカーとのコミュニケーションが円滑にとれるようにする。TOEIC スコア500を目標にする。
講義の内容・授業スケジュール	毎回テキストを1 Lesson, 1 Unit ずつ進む。更に、ヒットソング・映画の一場面・ニュース報道などのディクテーションをし、スピーキング・リスニングの力をつけていく。
履修上の留意点	各自カセット・テープを用意すること。必ず復習をすること。
成績評価の方法	毎回の小テスト・授業参加度50% まとめテスト50%
教科書	『English 20』(英進社) 『Tune In to the TOEIC Test』(マクミランランゲージハウス)

科目名	担当者名
英語 L L I	太田 雅子

講義のねらい	授業の前半はテキストを用いて英語の難しい音のききとりを徹底的に学習します。そして後半は映画の中の natural English をききとれるように練習を重ねます。又、その中の expression を応用して、英語での自己表現力を養成します。
履修上の留意点	4 月第 1 回目の授業で、授業内容、方法、その他履修上の注意点について説明をするので、必ず出席してください。その時に、自分のユーザー ID とパスワードをわかるようにしてきてください。全授業回数の 3 分の 1 以上欠席した者には、単位を認定しません。
成績評価の方法	毎回小テスト、年に 2 回ほど総テストを実施。
教科書	矢作三蔵『Natural English for Beginner』

科目名	担当者名
英語 L L I	久保 ひさ子

講義のねらい	海外旅行で場面別に、一回で通じる短い、英会話文を習得する。
講義の内容・授業スケジュール	旅行英会話の短文を、パソコン使用で、聞きとり、書きとり、反復練習する。コミュニケーションできるようにするため、さらに暗記する。毎回、小テストあり。
履修上の留意点	実習授業のため、欠席しないようお願い致します。
成績評価の方法	試験と授業実習と小テストの合計点。
教科書	マイケル・ブラウン『旅行でしゃべる英会話』(南雲堂)

科目名

担当者名

ドイツ語 I A (選)

やぶ した こう いち  
数 下 紘 一

講義のねらい

ドイツ語はドイツ、オーストリアそしてスイスで使われている外に、ハンガリーやユーゴ諸国、ギリシア等でも通じる言語です。外国人でドイツ語を高校・大学で学んでいる数も数百万人以上にのぼっています。皆さんもその一人です。外国の学生とドイツ語で苦勞しながらも、何んとか読めたり書いたり話したりできるようになっていくのです。ドイツ語 I A (文法) で苦勞しておく、あとが楽になります (2年生で)。

履修上の留意点

出席を重視します。

成績評価の方法

中間試験と年度末試験があります。(50点満点の試験を2回)

教科書

在間『わかって楽しいドイツ語』(三修社) 2,200円+税

科目名

担当者名

ドイツ語 I B (選)

の じま とし あき  
野 島 利 彰

講義のねらい

英語と比べるとヨーロッパの他の言語はみな変化が多く、複雑に見えます。しかしその複雑さは共通しています。その意味で、ドイツ語を学ぶことは同時にヨーロッパ言語を知るきっかけになり、またドイツ文化さらには EUを知る助けになります。

講義の内容・授業スケジュール

語学の勉強はただ授業を聴いているだけでは分るようになりません。自分で考え、練習して初めて理解できます。必ず予習をして下さい。その予習の結果を見るために練習問題の解答やテキストの訳を皆さんにやってもらいます。なお発音練習の代わりに教科書の最後についている動詞変化表を使い、同時に動詞の変化を覚えます。

履修上の留意点

CD付き教科書を使いますので、自宅で十分聞き、発音練習をして置いて下さい。言葉を学ぶことはまず真似ることです。テキストの音読を順番で指名します。

成績評価の方法

3課ごとに1回ヒアリングテストを行う予定です。ヒアリングテスト、動詞変化テスト、定期試験(筆記試験)の成績が評価の基準になります。

教科書

大谷弘道著『新・問いかけるドイツ語』(三修社) 2,600円

参考書等

ドイツ語の辞書は最初は引きにくいのですが、すぐに慣れます。二年次でもドイツ語を履修する人、将来大学院まで進む人は簡単な辞書ではなく、しっかりした辞書を購入してください。

その他

語学はまず量の問題です。ラジオやテレビのドイツ語講座も活用してください。

科目名	担当者名
フランス語 I A (選)	出口雅敏

講義のねらい

この授業では、フランス語文法の基礎を学習してゆきます。文法の基礎をしっかり身につけることは、フランス語の世界に入ってゆくための大切なプロセスです。ですから、この入口で躓かぬよう、じっくり基礎固めをすることが授業の目的です。

講義の内容・授業スケジュール

テキストは、文法事項の簡潔なまとめと練習問題から成っています。授業は、文法事項の具体的説明の後、練習問題に取り組む、という形で進行します。加えて、フランス語の読み方や仏和辞書の引き方についても慣れてもらいます。

履修上の留意点

辞書を持参して下さい。やむをえず欠席する場合は、理由を書面にて提出して下さい。

成績評価の方法

前期・後期の期末試験と通常点によって評価します。

教科書

斎藤昌三『《新版》ル・フランセ』(白水社) 1,750円

科目名	担当者名
フランス語 I A (選)	前田祝一

講義のねらい

フランス語の言語としての特性を理解してもらうこと。そして、少しでも使いこなせるようになること。

講義の内容・授業スケジュール

日常的な基本語・文型を身につけて、少しずつ積み重ねで、言葉の世界を広げ、深めてゆく。つまり、毎日が新しいことの学習です。

履修上の留意点

したがって、毎日が新しいことの学習であり、それらが理解できていることが、次の回の出発点ですから、欠席しないで持続させること。それが終着点での満足感になるはずです。

成績評価の方法

平常点とします。

教科書

内藤・玉田著『フランス語へのパスポート (改訂版)』(白水社) 1,800円

科目名	担当者名
フランス語 I B (選)	菅原猛

講義のねらい

英語以外にも外国語の一つ位は知っておく必要があることは世界中の常識。

講義の内容・授業スケジュール

1年間の限られた時間枠の中でフランス語を読解する基礎知識を身につける。

履修上の留意点

教科書・辞典を持参し、可能なかぎり出席すること。

成績評価の方法

年2回の定期試験の他、授業時間内に行う平常試験の成績を重視します。

教科書

阿南婦美代『新アン・マルシュー フランス語初級 文法と会話』(駿河台出版社) 2,730円

科目名	担当者名
中国語 I A (選)	よし だ なていちろう 吉 田 建一郎

講義のねらい	中国語の基本的な発音、語彙、文法をしっかりと身につける。
講義の内容・授業スケジュール	前期は、中国式ローマ字表記（ピンイン）の読み方を集中的に練習した上で、基本的な会話を題材として、発音、語彙、文法について理解を深めていく。後期は、前期の復習を行いつつ、引き続き基本的な会話を題材として、発音、語彙、文法について練習を積んでいく。
履修上の留意点	しっかりと声を出して発音練習をするように心がけましょう。授業中は携帯電話の電源を切ってください。
成績評価の方法	出席、授業時の態度、宿題、小テスト、学期末テストをもとに総合的に判断する。
教科書	陳淑梅・蘇明著『中国を歩こう』（金星堂）2,730円

科目名	担当者名
中国語 I A (選)	みや もと あつ こ 宮 本 厚 子

講義のねらい	中国語の基礎を身につける。
講義の内容・授業スケジュール	発音を学んだ後、会話文を通して、基本的な文法を学び、語彙を増やしてゆく。
履修上の留意点	毎回暗誦あるいは聞き取り（小テスト）を行うので十分に復習をして授業に臨むことが求められる。また、練習問題を配布するので、自習し提出するのが望ましい。
成績評価の方法	年に4回の筆記試験（前後期末試験を含む）と平常点（暗誦・小テストを含む）で評価する。
教科書	プリント配布。
その他	詳細は開講時に説明する。

科目名	担当者名
中国語 I B (選)	らん めい 蘭 明

講義の内容・授業スケジュール	前期は最初の一カ月（4回に分け）において、ピンインを読めるように集中的練習をする。その後、簡単な会話の練習に進む。後期は、やさしい日常会話を中心におき、授業を展開する。
成績評価の方法	出席など授業姿勢に評価の重きを置く。前後期二回に分け試験を行う。
教科書	董燕・遠藤光暁『理香と王麗 話す中国語1』（朝日出版社）2,835円

科目名	担当者名
スペイン語 I A (選)	かめ やま こう いち 亀 山 晃 一

講義のねらい

初級文法から始め、発音・アクセント・イントネーションを練習する。比較的簡単な例文を確実に習得することで会話の基礎を作り、スペイン語圏で生活したり、旅行するに当って役立つ、コミュニケーション能力の開発と養成を行う。背景文化や歴史にも触れ、関心を育てることにより、学習継続の為の動機付けとしたい。

履修上の留意点

決して、遅刻・欠席をしない。自ら興味を持ち、学習を継続すること。

成績評価の方法

数回のテスト、日頃の出席状況、受講態度を総合して行う。

教科書

開講時、指示します。

科目名	担当者名
スペイン語 I B (選)	ナバロ, ホワン J.

講義のねらい

スペイン語の基本文法を学びながら、中級程度の会話能力の養成を目指します。動詞の過去形の練習に力をいれます。

講義の内容・授業スケジュール

はじめに文法についての説明があり、次に練習問題で理解を確実にします。各課の会話文や読み物は日本語に訳してもらいます。

履修上の留意点

出席はもちろん積極的な授業参加を期待します。各課の新出単語を調べておくなど予習はかせません。

成績評価の方法

出席と2回の期末試験の結果で評価します。

教科書

ホワン・J・ナバーロ『*Español dinámico*』(印刷中)

科目名

担当者名

ロシア語 I A (選)

クロチコフ, Y.

講義のねらい

- 1) 母音、子音の基本的発音、アクセント記号(力点)の法則、イントネーションの5つの型をみっちりやります。
- 2) かんたんな挨拶の表現、日常つかわれるロシア語の独特な表現(ボディー・ランゲージを含む)を身につけます。
- 3) 平易な内容をききとりによって理解できるようにします。
- 4) 基礎的な初等文法を学びます。
- 5) アルファベットを活字体、筆記体で書けるようにします。
- 6) 教科書を使用して、コミュニケーションに欠かせない基本的な日常会話を習得していきます。

はじめに絵やビデオをみながら、ロシア語のやさしい単語や短文を何回も繰り返しかえし練習します。教員が質問した事を何回もくりかえしてもらい、うけ答えをします。少し音に慣れてきたらCDを使い更に理解度を深め、語尾変化に抵抗感のなくなるように何回もゆっくり、くりかえしながら発話してもらうようにします。授業で各人が何回も発話をさせられますが、全く恐れる必要はありません。全教員がやさしく指導してくれますので恥ずかしがらないことが大切です。

講義の内容・授業スケジュール

前期は発音やアクセントに重点をおき、後期は短文の読みや文法をくり返し学びます。

成績評価の方法

テストは行わず、平常点で評価。

教科書

『21世紀のロシア語』(大学書林) 1,800円、プリント配布。  
ビデオ、オーディオ等を使用します。

参考書等

『露和辞典』

外国語科目

科目名

担当者名

ロシア語 I B (選)

木村英明

講義のねらい

ユーラシア大陸にまたがる広大なロシアは、100に及ぶ民族を抱えた歴史的、文化的に多様な国家です。ソ連崩壊後の長い混迷を経て、現在は再び経済や文化の領域で飛躍の道をたどり始めています。ロシアの人々とじかにコミュニケーションできる機会、必要性は、隣国である日本でも高まりつつあります。この授業では、言葉を通してロシアの現況、習慣や文化にも触れていきたいと思えます。

講義の内容・授業スケジュール

この授業では、簡単な日常会話表現をもとにして、初歩の文法を速習します。音声面を重視して、できるだけコミュニケーションに役立つロシア語を学習します。ビデオ等の映像資料も利用したいと思います。

成績評価の方法

試験は行わず、平常点で評価します。

教科書

桑野隆『エクスプレス・ロシア語』(白水社)をもとに、必要に応じて適宜プリントを配布します。

科目名	担当者名
朝鮮語 I A (選)	宋 美 玲

講義のねらい

同一の教員が同一の教科書をもって週2回の授業を行う。Aクラスは会話中心、Bクラスは文法中心という方針である。朝鮮語の文字と発音、語彙と文法の基礎を獲得し、朝鮮語を学び朝鮮語に触れることの楽しさを堪能することを目指す。同時に韓国を始めとする朝鮮語圏の文化との触れ合いも試みる。

講義の内容・授業スケジュール

文字と発音の基礎を学び、実用的な会話文を中心に基本的な文法および表現を学習する。基本的な学習の内容はA、Bクラス同様であるが、後期からはAクラスでは、口頭練習および聞き取りと書き取り、Bクラスでは、文法事項による作文や読解などに力を注いでいく。

履修上の留意点

最初の文字と発音に慣れていくまでがその後の進歩と楽しさを決定するので、4月、5月はとりわけ熱心に取り組んでほしい。

成績評価の方法

授業への参加度、学習態度、小テストや期末試験の成績により、総合的に評価する。

教科書

I A：長谷川由紀子著『コミュニケーション韓国語（会話編1）』（白帝社）1,800円＋税

参考書等

野間秀樹著『暮らしの単語集 韓国語』（ナツメ社）1,000円

科目名	担当者名
朝鮮語 I B (選)	宋 美 玲

講義のねらい

同一の教員が同一の教科書をもって週2回の授業を行う。Aクラスは会話中心、Bクラスは文法中心という方針である。朝鮮語の文字と発音、語彙と文法の基礎を獲得し、朝鮮語を学び朝鮮語に触れることの楽しさを堪能することを目指す。同時に韓国を始めとする朝鮮語圏の文化との触れ合いも試みる。

講義の内容・授業スケジュール

文字と発音の基礎を学び、実用的な会話文を中心に基本的な文法および表現を学習する。基本的な学習の内容はA、Bクラス同様であるが、後期からはAクラスでは、口頭練習および聞き取りと書き取り、Bクラスでは、文法事項による作文や読解などに力を注いでいく。

履修上の留意点

最初の文字と発音に慣れていくまでがその後の進歩と楽しさを決定するので、4月、5月はとりわけ熱心に取り組んでほしい。

成績評価の方法

授業への参加度、学習態度、小テストや期末試験の成績により、総合的に評価する。

教科書

I B：長谷川由紀子著『コミュニケーション韓国語（読んで書こう1）』（白帝社）2,400円＋税

参考書等

野間秀樹著『暮らしの単語集 韓国語』（ナツメ社）1,000円



科目名	担当者名
英文講読	はやし 明人 林 明人

講義の内容・  
授業スケジュール

現代アメリカ文学の短編をなるべくたくさん読みます。単に英語を読むことから鑑賞できるようにすれば幸いです。

成績評価の方法

試験、発表、レポート、出席の総合評価。

教科書

教員が作成したものを uses。

科目名	担当者名
英文講読	や じま なお 直子 矢 島 直子

講義のねらい

イギリス現代演劇を読んで、生きた英語に親しみ、作品を理解すること。

講義の内容・  
授業スケジュール

テキストの意味を取り、内容を把握してもらいたいです。くだけた英語に慣れて下さい。戯曲の場合は、想像力をたくましくして読む必要があります。1年間で1冊読み終えたいですが、進度は参加者次第になるでしょう。

履修上の留意点

どんどん当てますから、単語の意味だけでなく、内容も分ってから、授業にのぞんで下さい。

成績評価の方法

日常点と、前期末・後期末試験とを、総合的に評価します。原則として、全出席数の3分の1以上欠席すると、受験資格がなくなります。

教科書

Laura Wada『Breathing Corpses』(Oberon Books) 2,550円(税別)

科目名	担当者名
英文講読	まき の てる よし 牧 野 輝 良

講義のねらい

英語の長文の内容理解に努める。

講義の内容・  
授業スケジュール

英文の構造をしっかり学習し、毎時間3頁読み進めることを目安とする。

履修上の留意点

テキストの文章がかなり長いから、履修者は指名されたら内容の発表、和訳ができるようによく自習しておくこと。

成績評価の方法

授業中の発表、和訳、期末テストを総合的に評価するが、英語の理解力に力点をおく。

教科書

『西欧文明をどう理解するか』(南雲堂) 1,600円+税 ISBN4-523-03656-X

科目名	担当者名
時事英語研究	竹 村 恵都子

講義のねらい

今後の情報化時代に伴い、世界の動きに目を向け、国際社会の実状を的確に把握する必要があります。本授業では、基礎的な英語力を土台に、英文ニュースを学びます。新聞に使用される英語表現は、斬新な語句やイディオム、字句の省略など様々な特徴があります。日頃から内外の英字新聞を読むよう心掛けて下さい。十全な予習を望みます。

成績評価の方法

評価は前期・後期の試験を主とし、平常点（授業態度・発表も含む）、出席率及びレポートなどを総合的に判断し評価します。

教科書

後日確定しだいお知らせいたします。

科目名	担当者名
時事英語研究	林 明 人

講義のねらい

CNN, Herald Tribune 紙などから集めたニュース英語によく使用される語をキーとした短文をたくさん読むことにより、そのキーワードの意味、および使い方をおぼえることを目的とします。そのほかに実際に英字新聞を読みます。

尚、履修希望者が70名を越えた場合は、4月の第1回目の授業で抽選となります。

講義の内容・授業スケジュール

CNN, Herald Tribune 紙などから集めたニュース英語によく使用される語をキーとした短文をたくさん読むことにより、そのキーワードの意味、および使い方をおぼえることを目的とします。そのほかに実際に英字新聞を読んだりします。

成績評価の方法

試験、レポート、出席の総合評価です。

教科書

教員が作成したものを用います。

参考書等

『Sanseido's Dictionary of News English』（三省堂）

科目名	担当者名
時事英語研究	岸 本 茂 和

講義のねらい

1980年以降のアメリカ社会でどんなことが起こってきたか。それを解く鍵のことばが、“racism”（人種差別主義）・“sexism”（性差別主義）・“political correctness”（政治的妥当性）・“multiculturalism”（多文化主義）などだ。すこしむつかしいかもしれないが、読みごたえのあるいい文章だ。できるだけ読みすすみたい。

講義の内容・授業スケジュール

この授業はいわゆる講義ではなくふつうの英語のクラスだ。「時事英語研究」と銘うちながら新聞・雑誌をよまないのを不審におもうのもっともだが、時事関係の熟語等は随時プリントを配布する。

履修上の留意点

授業にはかならず英和辞書をもってくる。予習は必須。

成績評価の方法

試験は前期・後期の2回。欠席が授業日数の3分の1をこえたばあい「不可」とする。

教科書

『現代アメリカの＜美德＞』（朝日出版社）本体1359円＋税

その他

受講者は40人を上限とする。

科目名	担当者名
時事英語研究	田中保

講義のねらい

The International Herald Tribune, The New York Times, AP 通信社、AFP 通信社、BBC News, VOA News 等のニュースをベースにしたテキストを使用して、時事英語を理解するとともに、時事的な基本用語やニュース英語の語学的特質の理解を深めていくことを目的とします。

講義の内容・授業スケジュール

各章の本文読解と Vocabulary Buildup を中心に授業を進めていきますが、時間があるときは、ニュース頻出用語を用いて、実際に英文表現の演習も取り入れて行きます。毎授業1章は進みます。発表形式で授業を行ないますので、予習をしてください。

履修上の留意点

必ず下読みをして、不明な箇所を重点的に授業に臨むこと。

成績評価の方法

授業時の発表、前期・後期の試験、プレゼンテーション、出席状況等で総合的に検討して評価します。

教科書

『時事英語の総合演習 (English for Mass Communication, 2006 edition)』(朝日出版社)  
1,500円 ISBN4-255-15427-9 C1082

科目名	担当者名
時事英語研究	矢島直子

講義のねらい

Newsweek の英文を読んで、読解力をつけてもらいたいです。

講義の内容・授業スケジュール

テキストの意味を読み取ってもらい、世界情勢を知ること。教科書は前期くらいで読み終え、後半はプリントか別の教科書で、新聞記事を読んでもらいます。

履修上の留意点

どんどん当てますから、単語の意味だけでなく、内容も分かってから、授業にのぞんで下さい。

成績評価の方法

日常点と、前期末・後期末試験の結果とを、総合して評価します。

教科書

『「ニューズウィーク」で読む日本と世界』(南雲堂) 1,600円  
ISBN4-523-17499-7

**科目名****担当者名**

マルチ・メディア

おち	あ	か	あ
落	合	和	昭

**講義のねらい**

このクラスにタイトルを付けるとすると、「日常会話から映画の英語へ」とでもなるだろう。このクラスのレベルは英語の中級（二級、準一級）程度とする。自然な日常会話文や映画の台詞を通して、英語圏の日常生活で、頻繁に、使用される現代口語英語表現を学びながら、英語の運用能力を高めることを第一目標とする。また、各種の実用検定試験（英検、TOEIC、TOEFL、国連英語等）の受験準備にも役立つようにする。さらに、時間が許す限り、アメリカやカナダの作家、都市、国立公園等に関するビデオを鑑賞し、ヒヤリングの向上、文化や自然の多様性を学ぶ。

**講義の内容・授業スケジュール**

一回の講義は、主として、三段階からなる。第一段階として、日常会話文や映画を通して、英語の自然なスピードに慣れ、ヒヤリングを向上させる。第二段階は、その会話文や映画の中で、使用されている表現の意味や用法を、文字を通して、確認する。第三段階は、学生に登場人物になってもらって、会話文や台詞（せりふ）を再現しながら、会話練習をする（一人の場合と、対話形式の場合がある）。授業は徹底した演習形式を取り、学生の予習を前提にして、進める。

**履修上の留意点**

このクラスの受講生はすでに現代口語英語を一年以上学んでいることが望ましい。初めて口語英語を学ぶ学生には、かなりつらい授業になるかもしれない。課題、小テスト、授業中の発表等で、かなりのことを要求するので、そのつもりで受講してもらいたい。また、受講を希望する学生は、最初の授業の時に、必ず、担当者の許可を得なければならない。教場は46名しか入れない教場を使用するので、46名以上の履修希望者がいた場合は、最初の授業の時に、抽選をする。そのため、最初の授業に出席しない学生はこのクラスを受講できない可能性がある。

**成績評価の方法**

定期試験は全評価の40%とする。その内訳は前期試験が10%（現代口語英語の和訳）、後期試験は30%（ヒヤリングが10%、会話英作文が20%）である。課題、小テスト、授業中の発表等は60%とする。課題は、一回の量はそれほど多くはないが、年に20回程度、小テストは10分程度のものを20回程度、授業中の発表は、一回の授業に、全員が最低一回は当てるように努める。出席率が3分の2を超えなければ、成績は「不可」とする。

**教科書**

- 1) 『映画総合教材 トゥルーマン・ショー』（松柏社）2,100円  
ISBN4-88198-569-8 C3082
- 2) 『基本動詞で始める初級会話英作文』（マクミラン ランゲージハウス）1,800円  
ISBN4-7773-6037 C3082
- 3) 『決まり文句書取練習帳』（鶴見書店）800円

**科目名****担当者名**

マルチ・メディア

おおば なお き  
大庭直樹**講義のねらい**

このクラスは、マルチメディアを使って英語を学ぶクラスである。  
 第一の課題は、インターネットを使って、世界の最新のニュースがどのように報道されているかを比較しながら読んでいくことである。インターネットという広大な情報空間から、必要な情報を探索し、その内容を理解するという訓練を積む。  
 第二の課題は、研究、文献・資料整理等、カード型のデータベースの作り方を学び、またその有効的な使い方を身につける。具体的には、データベース・ソフト「ファイルメーカー」を使い、自分用の英語彙データベースをつくる。  
 第三の課題として、Wordと電子辞書を使いながら、英語による論文、公式文書、ビジネス文、手紙等の書き方を訓練する。  
 第四の課題は、英語の映画を一本観ながら、英語の表現の意味内容を徹底的に研究していく。

**履修上の留意点**

受講生は、一年間の課題をこなせば、コンピュータを活用した知的な活動において、相当なレベルに達するはずである。従って、このクラスを受講するには、年間を通じて毎週クラスに出席することが条件である。

**成績評価の方法**

試験、定期試験なるものは行わない。受講生には、サーバーの自分のフォルダに、一年間に20程度のファイルを提出してもらう。インターネットで各自が検索する情報もすべて、サーバーの自分のフォルダに入れてもらう。成績は、各学生が一年間にフォルダにセーブされたファイルの成果をもって評価する。

**その他**

受講者は、教室以外、各自の必要度にあわせて総合情報センターの自習室（朝9時より夜9時まで開館）で補修すること。

**科目名****担当者名**

マルチ・メディア

にしむら ゆう こ  
西村祐子**講義のねらい**

英語によるプレゼンテーション映像を制作しコンピュータ編集をするクラス。英語で演じ、それを映像で確認することによるプレゼンテーション能力の強化をめざす。映像企画・構成・脚本・絵コンテ、ビデオ撮影の実習、コンピュータ編集によるビデオ作品完成までの全工程を学ぶ。映像制作およびウェブによる映像配信の実態も学習できる。前期後期でそれぞれ2作品の制作を目指す。

**講義の内容・授業スケジュール**

以下の手順で前期後期それぞれ1作づつを共同制作する。  
 1. 日常生活を題材に英語会話スキットの脚本をつくる。脚本に必要な絵コンテを書く。(コンピュータ使用)。  
 2. 配役を決め、スキットを練習。カメラ撮影・音声収録指導あり。  
 3. ディレクター、アシスタントディレクター、音声係などを決める。  
 4. 撮影基礎学習、ドライ撮影  
 5. 撮影(学外撮影含む)  
 6. ビデオ編集、完成  
 7. 上映会

**履修上の留意点**

受講人数制限あり。

**成績評価の方法**

平常点(出席点、提出物など)で評価。定期試験は行わない。

**教科書**

教場にて指定。

**参考書等**

2005年度マルチメディアクラス制作の英語ビデオ「Feelings and Emotions」(ウェブにて鑑賞の予定)

**その他**

学外撮影あり。アドビ・プレミア(編集ソフト)を使用。カメラ・三脚マイクその他撮影機材および編集施設は総合情報センターより提供されるが、個人でミニDVカメラなどがあれば便利。

# 英 会 話 Ⅱ

## 〈英会話Ⅱの授業内容と履修上の留意点〉

英語を母語とする外国人教師が担当します。英会話Ⅰのレベルを修得しているか、またはそれに相当する力を持っていることを前提とします。関心のあるトピックを話したり、議論できることを目指した大学中級レベルの英語会話の授業です。達成目標の目安は英検準1級合格、TOEFL®のスコアー480点、TOEIC®のスコアー700点程度。各担当者の講義内容（syllabus）をよく読み、時間表で曜日・時限を確認してクラスを選んでください。

〔平成19年度より開講します〕

## 英 語 L L II

### 〈英語 LL II の授業内容と履修上の留意点〉

中級：LL I 程度の基礎訓練を修得していることを前提とします。テープ教材またはビデオ教材を用いて、ニュース等の時事問題、やや専門的なテーマの英語スピーチ等の聴解力を集中的に訓練します。また、英語で要約・説明できる表現力を修得します。英検準 1 級合格、TOEFL<sup>®</sup>のスコアー480点、TOEIC<sup>®</sup>のスコアー700点程度をめざします。各担当者の講義内容（syllabus）をよく読み、時間表で曜日・時限を確認してクラスを選んでください。

〔平成19年度より開講します〕

## 4. 保 健 体 育 科 目



保健体育科目

## 保健体育科目の目標

本学の『保健体育科目』は、総合的人間性の形成を目指し以下の点に留意して開設されています。

人間がひととして生きていくうえで、自己の身体について知り、理解を深めていくことは重要なことであり、健康の増進や、体力の向上のための基本的な知識や習慣を、生涯を通じて知的・身体的遺産として獲得することは、あらゆる人間活動を支える基盤であります。スポーツは、単に楽しみとしてではなく、健康や体力づくりの手段として、また、身体を認識する手段としても重要であると考えられます。本学の『保健体育科目』は、様々なスポーツ種目を通して展開し、その種目の特性に沿った活動や経験を通して、生涯を通じて健康の増進や体力の向上を図ると共に、スポーツを享受する能力を高め、ゆとりある人間社会の形成を実現する能力を学生自らが考え獲得することを目標としています。

さらに、人間疎外条件の多い現代社会において、運動実践の過程で習得される公正、協調、克己、決断、集中などのスポーツの本質的要素であるパーソナリティーを共通の体験を通して得ることで、学生時代でなければ得られない人間関係を構築し、社会性を養い、人間愛豊かな人間を形成することを目指しています。

保健体育科目

# 「健康・スポーツ実習」開講種目一覧

(於：玉川校舎)

	1・2 時 限	
金 曜 日	佐 藤	卓球
	田 中	テニス
	山 口	室内球技
	村 松	ハンドボール

保健体育科目

## 4. 保健体育科目

科目名	配当学科	開講区分	単位	担当者名	ページ
健康・スポーツ実習(卓球)	GM1必	通年	2	佐藤政之	127
健康・スポーツ実習(テニス)	GM1必	通年	2	田中佳孝	128
健康・スポーツ実習(室内球技)	GM1必	通年	2	山口良博	129
健康・スポーツ実習(ハンドボール)	GM1必	通年	2	村松誠	130

保健体育科目

**科目名****担当者名**

健康・スポーツ実習(卓球)

佐藤 政之  
き どう まさ ゆき**講義のねらい**

卓球の基礎技術を習得し、シングルス、さらにはダブルスのゲームを行うことにより、卓球の面白さを知る。また、スポーツの中で最も簡単だと言われるルールを理解し、生涯スポーツとしての基盤をつくる。

**講義の内容・  
授業スケジュール**

- 1 時限目：オリエンテーション、授業内容と服装等の説明
- 2 時限目：ラケットイング、ネットの張り方の学習、フォアハンドの基本形
- 3 時限目：フォアハンドドライブ、フォアハンドゲーム
- 4 時限目：フォアハンドドライブのショート、ロングの打ち方。シングルスゲーム
- 5 時限目：バックハンドショートの打ち方。バックハンドゲーム
- 6 時限目：カットの打ち方、返球の方法。カット&カット、シングルスゲーム
- 7 時限目：カット&ドライブリターン、シングルスゲーム
- 8 時限目：スマッシュ（3球目）、シングルスゲーム
- 9 時限目：シングルスゲーム
- 10時限目：ダブルスゲームの行い方。ダブルスゲームの練習
- 11時限目：ダブルスゲーム
- 12時限目：ダブルスゲーム
- 13時限目：ダブルスゲーム
- 14時限目：ダブルスゲーム
- 15時限目：まとめ

**履修上の留意点**

服装は、一般的な運動服装とするが、必ず体育館シューズを用意すること（土足厳禁）。土足の場合は授業を受けることはできない。

**成績評価の方法**

評価は出席点70点、実技点30点とする。実技点は平素のゲームの中で採点し、受講態度を加味して評価する。個人の実技テストは行なわない。

**その他**

30分以上の遅刻は認めない。



講義のねらい

テニスは、華やかなプロスポーツから、ファミリーテニスまで様々な技術レベルによって楽しむことができ、我が国の生涯スポーツとして完全に定着したスポーツの1つである。本実習においては、フォアハンド・バックハンドグラウンドストローク、ボレー、サーブ、スマッシュなど基本的なテニスの技術の習得と、ゲームに関するルール、マナーを学ぶことによって生涯を通じて楽しくテニスが行なえる能力と態度を養うことを目標にしている。

また、テニスを教材にスポーツを楽しむという活動や経験を通してスポーツのもつ価値を実感し、自分の能力や技術に合わせた楽しみ方を身に付け、自律的にスポーツを生活化する態度を養うことを目的とする。

さらに、テニスという共通の体験を通して大学時代でなければ得られない人間関係を作り、社会性を養い、総合的な人間形成を目指す。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 時限目：オリエンテーション、授業の目標の説明
- 2 時限目：ラケットイング、ボレー、ミニストローク
- 3 時限目：フォアハンドグラウンドストロークの基本技術
- 4 時限目：バックハンドグラウンドストロークの基本技術
- 5 時限目：フォアハンドボレー、バックハンドボレー
- 6 時限目：スマッシュ、サーブの基本技術
- 7 時限目：ストロークの応用とミニゲーム
- 8 時限目：半面でのシングルスゲーム（ゲームを楽しむ）
- 9 時限目：半面でのシングルスゲーム（戦術と応用）
- 10時限目：半面でのシングルスゲーム（戦術と応用）
- 11時限目：ダブルスのルールとポジショニング
- 12時限目：ダブルスゲームを楽しむ
- 13時限目：より高度なダブルスのゲームへ
- 14時限目：トーナメント形式の試合の進め方
- 15時限目：まとめ

履修上の留意点

- 1. 服装は一般的な運動服装とする。
- 2. テニスシューズを必ず用意すること。
- 3. ラケットは貸与する。

成績評価の方法

出席状況、授業参加態度から総合的に判断する。

その他

雨天の場合は、テニスの歴史、技術の科学的な解説、ビデオによる戦術の解説および分析などの講義を行なうか、または、テニスに必要なトレーニングを解説を交えながら行なう予定である。

**科目名****担当者名**

健康・スポーツ実習(室内球技)

やまぐちよしひろ  
山口良博**講義のねらい**

バスケットボール、バレーボール、バドミントンを教材とし、それぞれの競技を楽しむための基礎技術やルールを学びながら、健康・体力を維持し、自己の身体への認識を深め、ゲームを通じて、これらの競技を理解すると共に、豊かな人間関係づくりを目的とする。

**講義の内容・  
授業スケジュール**

- 1 時限目：オリエンテーション、授業内容の説明  
(バスケットボール)
- 2 時限目：ボールハンドリング、シュート、ゲーム
- 3 時限目：ハーフコート 2 対 1、ゲーム
- 4 時限目：ハーフコート 3 対 3、ゲーム
- 5 時限目：ゲーム (リーグ戦)
- 6 時限目：ゲーム (リーグ戦)  
(バレーボール)
- 7 時限目：オーバー・アンダーパス、ゲーム
- 8 時限目：レシーブ・スパイクの基本、ゲーム
- 9 時限目：サーブ・レシーブ・スパイクの応用、ゲーム
- 10 時限目：ゲーム (リーグ戦)
- 11 時限目：ゲーム (リーグ戦)  
(バドミントン)
- 12 時限目：ラケットティング、クリアー、スマッシュ、シングルのゲーム
- 13 時限目：ドライブ、ヘアピン、シングルのゲーム
- 14 時限目：サービス、ストロークの応用、ダブルスのゲーム
- 15 時限目：ダブルスのゲーム

**履修上の留意点**

服装は、一般的な運動服装とする。体育館シューズを用意すること。

**成績評価の方法**

出席点 (70点)、実技点 (20点)、態度点 (10点)、60点以上を合格とする。

**科目名****担当者名**

健康・スポーツ実習(ハンドボール)

むら まつ  
村 松 まこと  
誠**講義のねらい**

ハンドボール競技の面白さを体験するため、ゲームを中心とした展開を行なう。パスキャッチ、シュートなどの基礎技能の習得から、2対1、2対2などのグループ戦術まで高めていく。また、ルールと審判法を理解し、グループで協力してゲームが運営できることを目標とする。

**講義の内容・  
授業スケジュール**

- 1 時限目：オリエンテーション
- 2 時限目：コートの準備とパスキャッチ
- 3 時限目：ジャンプシュート
- 4 時限目：基本的なルールとリードアップゲーム
- 5 時限目：チーム分けとミニゲーム
- 6 時限目：ランニングパスとミニゲーム
- 7 時限目：速攻2対1とミニゲーム
- 8 時限目：リターンパスとミニゲーム
- 9 時限目：1対1の突破とミニゲーム
- 10時限目：速攻法とミニゲーム
- 11時限目：ゴールキーピングとミニゲーム
- 12時限目：審判法とミニゲーム
- 13時限目：リーグ戦
- 14時限目：リーグ戦
- 15時限目：実技テストとリーグ戦

**履修上の留意点**

服装は動きやすいものとし、運動靴を用意すること。必ず爪を短く切っておくこと。また、金具類、ネックレス、ピアスなどは、身につけないこと。

**成績評価の方法**

出席状況、受講態度、ゲームへの貢献、実技テストを加味して評価する。

**そ の 他**

雨天の場合は、室内でボールを使ったトレーニングを行なう。また、ハンドボールのビデオ鑑賞や詳細なルールにより、ハンドボール競技の理解を深める。

## II 專門教育科目

專門教育科目

## Ⅱ. 専門教育科目

科目名	配当学科	開講区分	単位	担当者名	ページ
Oral Communication I	GM1 必	半期	2	オーラ, B. トランブリー, J. ハードグレイブ, B. モエ, R. A.	135
Oral Communication II	GM1 必	半期	2	オーラ, B. トランブリー, J. ハードグレイブ, B. モエ, R. A.	136
Critical Reading	GM1 必	半期	2	アシュウェル, T. 内山浩道 キーズ, P. クボ, M. F. トランブリー, J. ブラック, A. ベルトコルビ, V. M. 町田尚子	137
Listening Skills & Strategies	GM1 必	半期	2	ギャリソン, J. G. サリバン, C. トランブリー, J. ブラック, A. ランドルフ, M. レオーネ, J. V.	138
Introduction to Writing	GM1 必	半期	2	アシュウェル, T. 内山浩道 キーズ, P. クボ, M. F. トランブリー, J. ブラック, A. ベルトコルビ, V. M. 町田尚子	139
グローバルメディアスタディーズ概論	GM1 必	半期	2	齋藤信男 他	140
グローバルメディア概論	GM1 必	半期	2	川崎賢一	141
メディアリテラシー	GM1 必	半期	2	金山智子	141
グローバル経営論 I	GM1 必	半期	2	各務洋子	142
情報リテラシー	GM1 必	半期	1	石橋直樹 齋藤信男 苗村憲司 廣瀬毅士 吉田尚史	143

情報リテラシー実習	GM1 必	半期	1	石橋直樹 齋藤信男 苗村憲司 南政樹 吉田尚史	144
クリエイティブビジネス論	GM1 選必	半期	2	クボタ, L.	145
コンテンツビジネス論	GM1 選必	半期	2	山口浩	146
コンテンツビジネス論	GM1 選必	半期	2	クボタ, L.	146
メディアと企業	GM1 選必	半期	2	山口浩	147
グローバル企業行動論	GM1 選必	半期	2	ベルトコルピ, V. M.	148
世界政治とメディア	GM1 選必	半期	2	山内康英	149
国際関係とメディア	GM1 選必	半期	2	芝崎厚士	150
インターネットとメディア	GM1 選必	半期	2	吉田尚史	151
メディアと情報	GM1 選必	半期	2	齋藤信男	152
メディア・コミュニケーション概論	GM1 選	半期	2	西岡洋子	153
メディア政策論	GM1 選	半期	2	西岡洋子	154
グローバル経営論Ⅱ	GM1 選	半期	2	各務洋子	155
コンピュータワークショップ	GM1 選	半期	2	石橋直樹	156
コンピュータワークショップ	GM1 選	半期	2	苗村憲司	157
コンピュータワークショップ	GM1 選	半期	2	吉田尚史	158

## Oral Communication I

オーラ, B.・トランブリー, J.  
ハードグレイブ, B.・モエ, R. A.

## 講義のねらい

This course is designed to teach students how to converse spontaneously in a natural manner.

## 講義の内容・授業スケジュール

Based on the TPP (Timed Paired Practice) method, students are randomly paired and required to converse freely until an uncorrected mistake occurs at which time the conversation is stopped. After two random pairings, students may then volunteer up to eight more times for timed conversations with the teacher. The TPP method is used in every class from start to finish.

## 履修上の留意点

Students may take notes and use reference materials during class when they are not being evaluated during a TPP conversation. Students should concentrate on correctly using the English they have already learned prior to entering university. Prompt attendance is a key factor, so students should be careful never to be late or absent as that will adversely affect their grades.

## 成績評価の方法

Evaluation is based on ability, effort, and attendance. Ability is based on the length of the conversations, effort is based on the number of conversations a student attempts, and attendance also affects grades in that unexcused tardiness and absence will lower a student's grade. This data is used in the following formulae to determine the **Current Grade** which will be the grade given at the end of the course:

$$(\text{Time Avg} * (\text{Tries Avg} / (5 - (\text{gEnrolled} * (\text{Lesson Period} / 90) * 1))) + (60 - (\text{Current TPP No.} * 3))) = \text{Score Avg}$$

Time Avg = the average length of all conversations

Tries Avg = the average number of conversations per class period

gEnrolled = the number of students enrolled in the class

Lesson Period = the length of a class period

Current TPP No. = the number of TPP exercises performed

$$((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3 = \text{Current Grade}$$

Late = number of unexcused times tardy

Absent = number of unexcused times absent

## 教科書

There are no assigned textbooks or other resources for this course. Students are encouraged to use the English they currently know.

## 参考書等

None

## その他

If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason for being late. In the case of tardiness caused by delayed trains, the student must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.



Oral Communication II

オーラ, B.・トランブリー, J.  
ハードグレーブ, B.・モエ, R. A.

講義のねらい

This course builds upon the basic skills acquired in Oral Communication I.

講義の内容・  
授業スケジュール

The TPP (Timed Paired Practice) method is employed in every other class, but at these times, from start to finish, students are only paired with each other and not the teacher. On alternate lesson days, students are allowed to divide themselves into pairs in order to practice conversation skills and at that time the teacher will circulate among them to provide advice and answer questions.

履修上の留意点

In this course students will be encouraged to use the conversational skills they acquired in Oral Communication I to develop conversations on specific topics. Accordingly, the topics on which students must speak will have to be related to media and technology subjects or the subject matter of any of the courses they are taking in GMS.

成績評価の方法

Evaluation is based on ability, effort, and attendance. Ability is based on the length of the conversations, effort is based on the number of conversations a student attempts, and attendance also affects grades in that unexcused tardiness and absence will lower a student's grade. This data is used in the following formulae to determine the **Current Grade** which will be the grade given at the end of the course:

$$(\text{Time Avg} * (\text{Tries Avg} / (5 - (\text{gEnrolled} * (\text{Lesson Period} / 90) * .1)))) = \text{ScoreAvg}$$

Time Avg = the average length of all conversations

Tries Avg = the average number of conversations per class period

gEnrolled = the number of students enrolled in the class

Lesson Period = the length of a class period

$$((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3 = \text{Current Grade}$$

Late = number of unexcused times tardy

Absent = number of unexcused times absent

教科書

There are no assigned textbooks or other resources for this course. Students are encouraged to use the English they currently know.

参考書等

None

その他

If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason for being late. In the case of tardiness caused by delayed trains, the student must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

## Critical Reading

アシュウェル, T.・内山 <sup>うちやま</sup> 浩道 <sup>ひろみち</sup>

キーズ, P.・クボ, M. F.

トランブリー, J.・ブラック, A.

ペルトコルピ, V. M.・町田 <sup>まちだ</sup> 尚子 <sup>なおこ</sup>

## 講義のねらい

This course centers on the development of the reading strategies and skills students will need to extract both literal and inferential information from selected short and mid-length English texts. The transformation of information contained in these texts into other forms summaries, presentations, discussions, and for students own report writing will be emphasized. Topics covered may include but are not limited to: media and the law, artificial intelligence and the law, international business practices, technological innovation and new products, media ethics, media and society, technology-related health issues, and technology and society. Sources will include extracts from books, magazine articles, academic papers, and Internet content.

In tandem with the development of the intensive reading strategies and skills outlined above, students will also be required to read graded material which is tailored to their reading proficiency level. This extensive reading component is intended to foster a habit for reading texts in English at the same time as developing reading fluency and contributing to vocabulary acquisition.

講義の内容・  
授業スケジュール

Students will be handed readings in advance and will be expected to prepare for the task which is assigned for the following class. Class time will be spent performing the assigned tasks and working on the specific skills and strategies which are necessary for the completion of subsequent tasks. Time will also be spent on monitoring progress with the extensive reading component.

## 履修上の留意点

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy. More than three unexcused absences in a term will be penalized by a 5-point reduction per absence above three in the final grade. If you are late by more than five minutes, this counts as half an absence.

## 成績評価の方法

For the intensive reading component of the course, performance on the in-class tasks and completion of the preparatory work needed to perform the tasks will be evaluated on a weekly basis. Students will hand in summaries, presentation notes, discussion notes, or other designated work each week and these will be graded on a five-point scale (5 = very good; 1 = weak). In order to pass the course, a student needs to get 60% of the available maximum points total. Extensive reading is evaluated on the basis of how many pages have been read in the term, on the quality of book reports, and on the improvement made between an initial and final extensive reading test.

The intensive reading component of the course is worth 80% of the final grade. The extensive reading component of the course is worth 20% of the final grade.

## 教科書

None. Materials will be provided by the teacher in advance or students will be informed where they can download materials for themselves.

## 参考書等

A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated.

## その他

The course may incorporate negotiated student/instructor-generated content depending on skill level and progress of class.

---

---

**科目名****担当者名****Listening Skills & Strategies**ギャリソン, J. G.・サリバン, C.  
トランブリー, J.・ブラック, A.  
ランドルフ, M.・レオーネ, J. V.**講義のねらい**

This course is designed to nurture the ability to understand English spoken at natural speed in formal and semi-formal situations when the listener is not a participant in the conversation. It is intended to integrate listening skills with accurate note-taking skills by developing the ability to identify important information presented orally.

**講義の内容・  
授業スケジュール**

Podcasts and other authentic audio materials with contemporary media, technology, business, or political content will be utilized to familiarize students with English speech patterns, cadence, and pronunciation with an eye toward developing their skill to identify and isolate significant information and organize it rapidly in a written form together with their own thoughts for further reference. Specifically, one or two short 3 to 10 minute podcasts will be assigned a week in advance. Students are expected to listen to the podcast enough to gain a broad understanding of the content before attending class. Background information, vocabulary lists, and usage notes will be provided by the instructor. Class activities include listening to and analysis of the podcast and discussion of issues raised therein. There will be a short test following the completion of each lesson.

**履修上の留意点**

Attendance is mandatory. Two tardies of more than 5 minutes will be considered 1 absence. More than 3 unexcused absences per semester will be penalized by a 5-point reduction per absence above 3 in the final grade.

**成績評価の方法**

The final grade will be computed by adding all test scores and any extra-credit points given in class and dividing the total by the number of tests administered. Points deducted for tardies and absences will be subtracted from the average.

**教科書**

None. Students will be informed of website URLs necessary to find material scheduled for use in class. In addition, when practical, MP 3 files taken from the Web together with related instructor-generated files will be posted on the Komazawa server for student access.

**参考書等**

Good, up-to-date English-Japanese dictionaries as well as a portable dictionary of the English language in either print or electronic format are recommended.

**その他**

Consult the instructor if you have any questions about the course or grading policy. Course may incorporate negotiated student/instructor-generated content depending on skill level and progress of class.

科目名

担当者名

Introduction to Writing

アシユウエル, T.・内山 <sup>うちやま ひろみち</sup> 浩道

キーズ, P.・クボ, M. F.

トランブリー, J.・ブラック, A.

ペルトコルピ, V. M.・町田 <sup>まちだ なおこ</sup> 尚子

講義のねらい

This course is an introduction to writing formally in English. It is designed to build proficiency in the skills required for basic academic and business communication by developing the ability to produce clear, correct sentences and well-organized paragraphs on specific subjects. Writing assignments will be short expository, critical, and persuasive essays, each of which will be drafted, edited, revised and proofread to produce three finished 500-word essays during the term.

講義の内容・  
授業スケジュール

Students will be taught how to construct short essays on media and technology related topics. Aspects of writing longer texts such as how to draw up an outline, how to write introductory, body and concluding paragraphs, how to achieve coherence and cohesion in a text, how to incorporate information gleaned from research and how to acknowledge the ideas of others will be taught. Students will be required to conduct research in the library and via the Internet on the assigned topics to collect information which will help them complete the essays. Peer review of completed drafts and peer editing before submission of each assignment will be important class activities.

履修上の留意点

A writing course like this one is a test of the students ability to manage time outside class so that they can meet the deadlines that are set for submission of drafts and finished essays. Writing, especially writing in a foreign language, to the standard required usually involves many hours of hard work for each assignment. Students should be aware that writing time needs to be sensibly scheduled for among their other commitments.

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy. More than three unexcused absences in a term will be penalized by a 5-point reduction per absence above three in the final grade. If you are late by more than five minutes, this counts as half an absence.

成績評価の方法

Grading is principally based on the quality of the assignments students are required to write. It is also based on how well they have kept to the drafting and submission deadlines set by the teacher. A points system operates corresponding to the five grades that can be awarded for each assignment:

Very good = 5 points

Good = 4 points

OK = 3 points

Poor = 2 points

Weak = 1 point

Students must accrue a minimum total of 11 **points** from the three assignments to pass the course. After the third draft of each assignment has been submitted to the teacher and been graded, students may re-submit revised versions of assignments as many times as they wish up until the end of the course in order to boost their points total or to meet the minimum requirement.

教科書

None.

参考書等

A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated.

その他

It is hoped that one of the assignments in this class can be set in consultation with the teacher of a media studies or IT course so that work in this writing class contributes to the completion of the requirements for another content course.

グローバルメディアスタディーズ概論

さいとう のぶ  
齋藤 信男・アシュウェル, T.  
うらやま ひろみち かがみ ようこ  
内山 浩道・各務 洋子  
かわさき けんいち  
川崎 賢一・ギャリソン, J. G.  
なえむら けんじ にしおか ようこ  
苗村 憲司・西岡 洋子  
やまぐち まちだ なおこ  
ペルトコルピ, V. M.・町田 尚子  
やまぐち ひろし  
モエ, R. A.・山口 浩  
よしだ なおみ  
吉田 尚史

講義のねらい

本学部の名称を体現し、学部のイントロダクションとして設置されている科目です。専任教員全員が個々の専門の立場から、「グローバル」と「メディア」と「コンテンツ」に関わるテーマに照準を合わせてオムニバス方式で講義します。新しく発足した本学部の目指している教育目標、新しい学問体系構築への展望、そこにおける基本概念、基本的な哲学、基本的な方法論や手法などについて、多元的、複合的な視座と、幅広い自由な発想で、メディアやコンテンツの本質について、学術的に研究することの意義が理解できるように構成されています。

講義の内容・授業スケジュール

本学部は、人間の内面を重視する禅や仏教、最先端の科学技術に支えられ新しい発想を生み出すメディアや情報、地球規模のコミュニケーションの実践と人間の協調を実現していくグローバルイズムとその手段としての外国語、新しい産業やビジネスをインキュベートしていく経済学や経営学、社会の安定と新たな発展を支える法学や社会学など、従来の学問体系を踏まえた上で新たなイノベーションを様々な分野で試行し推進していく。その専門分野は多様であり、その概要を入学当初によく理解し、また分野間の相互関連や相互作用を体験的に修得していく。以下の項目は、上記の内容を具体化した講義の主なテーマである。

1. グローバル・コミュニケーションを実現するための日本語の論理を踏まえた訳出法
2. メディア産業、コンテンツ産業を含めた文化産業が成立した経緯とその後のグローバルな展開
3. 多様なメディアに適応したコンテンツ創造を可能とするコミュニケーションの相互作用の論理
4. メディアの利用をより効率的、効果的に行う事を支援する知的な処理の基本的考え方
5. コンピュータネットワークの安全性とメディアの進展、情報の保護
6. 世界共通言語としての英語の多様性や、電子メディアの英語情報に見られる地域差・文体差の考察
7. 自国の文化と異文化間のコミュニケーションにおける事例研究を基にした比較分析
8. グローバルメディアスタディーズに関する応用言語学の考え方
9. グローバルビジネスとしてのメディアやコンテンツ関連企業におけるビジネスの本質
10. グローバルなメディアに関する政策・ガバナンス制度比較
11. メディアやコンテンツ産業におけるコンテンツファイナンス
12. 知的資産であるコンテンツ経営における人材マネジメント
13. ビジネスからみたマルチメディア、システムソフトウェア、インターネット、データベース

履修上の留意点

毎回担当教員が変わり、前期終了時には学部には所属する全員の教員の主な専門領域がわかるしくみになっている。

成績評価の方法

期末にレポート提出。

教科書

使用しない。

参考書等

必要に応じて随時紹介。

科目名	担当者名
グローバルメディア概論	川崎賢一

講義のねらい

グローバル化が進行する中で、グローバルなメディア産業・企業、それらの文化などについて、ローカル・ナショナル・インターナショナル・トランスナショナル・グローバルなレベルについて、概略を学習する。

講義の内容・授業スケジュール

講義の内容は、大きく分けて、グローバルなメディアが成立するまでの、起源、発展のプロセス、文化産業論の展開、第二次大戦後以降の発展の概略、マスコミ産業からグローバルメディアへ、IT産業とグローバルメディア、グローバルメディア体制：その問題点と可能性、などについて具体的事例を挙げながら、学習する。

履修上の留意点

授業な内容からして、前回の授業を受けて、蓄積的に内容が展開するので、毎回必ず出席すること。

成績評価の方法

学期末のテスト、あるいは、学期末のレポート、プラス、平常点・出席点等を加算する。

教科書

授業の中で指示する。

参考書等

授業の中で指示する。

科目名	担当者名
メディアリテラシー	金山智子

講義のねらい

今日、メディアの存在が私達の生活にとってますます不可欠なものになっています。マスコミ分野だけではなく、一般企業、行政、そしてNPOやNGOにおいてもメディアと関係する仕事が必要になってきています。国際社会の中で、異国間の交流や異文化の相互理解にメディアが大きな影響を与えていることにも目配りをする必要があります。「メディアとは一体どういうものなのか」をきちんと理解することが、日常生活、社会活動、そして国際関係の場面などで求められていると言えるでしょう。本講義ではメディアについての基礎的な理解について言及し、メディアが個人や社会に及ぼす影響や関係を、さまざまな観点から考えます。講義全体を通じて、クリティカルにメディア・メッセージを読み、メディア機関の社会的機能を洞察する、いわゆるメディアリテラシーの力を身につけてもらうことを目指します。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 回 コース概要の説明
- 2 回 メディア、そしてメディア・メッセージとは
- 3-4 回 マスメディアによるメッセージ（大衆）
- 5-6 回 マスメディアによるメッセージ（特定の人々）
- 7-8 回 マスメディアによるメッセージ（個人）
- 9 回 メディア批評
- 10 回 メディアは誰のものか
- 11-12 回 インターネットによるメッセージ
- 13-14 回 小さなメディアによるメッセージ
- 15 回 まとめ

履修上の留意点

授業では、視聴覚教材を多く使用しますので欠席はしないように。また、日頃から時事問題やマス・メディアの動向について興味を持ち、それらに対する自分の考えを自分の言葉で表現する習慣を身につけるよう心がけて下さい。

成績評価の方法

出席20ポイント、メディア批評エッセイ30ポイント、学期末試験50ポイント。

教科書

金山勉、金山智子著『やさしいマスコミ入門—発信する市民への手引き』（勁草書房）  
2,520円、ISBN：4326653035

参考書等

適宜関連文献やウェブサイトを指示します。

## 講義のねらい

グローバル経営を追求する企業が、世界規模で付加価値活動を展開し、競争優位を築いていくための論理と、現実の企業行動を提示し、毎回事例研究を用いて理解しやすい講義を目指します。

講義の内容・  
授業スケジュール

グローバル社会における企業の役割や経営学の基礎知識を体系的に理解できるように、1～3回はイントロダクションとしてわかりやすい事例を用いて総論的な内容から始めます。

- I. イントロダクション
  1. グローバル社会における企業とメディアの役割
  2. 経営学の意義と目的
  3. グローバル経営の論理
- II. グローバルな企業経営
  4. グローバル経営の組織
  5. グローバル経営のマネジメント
  6. グローバル経営の戦略
  7. グローバル・マーケティング
- III. グローバル経営の革新
  8. グローバル・イノベーションとナレッジ・マネジメント
  9. グローバル企業の組織間関係
  10. グローバルな人的資源戦略
  11. グローバル経営における文化
  12. グローバル企業のコーポレートガバナンス
- IV. 13～15 まとめ

## 履修上の留意点

学習素材として新聞、雑誌、インターネットを始めとした幅広い情報源を駆使して、企業関連のニュースを理解するように心がけて下さい。

## 成績評価の方法

各期定期試験と、講義中に実施する理解度テストにより総合的に評価します。

## 教科書

開講時に指示。

## 参考書等

必要に応じて随時紹介。

# 科目名

# 担当者名

情報リテラシー

いしはし 石橋 直樹・齋藤 信男  
 なえむら 苗村 憲司・廣瀬 毅士  
 よしだ 吉田 尚史

## 講義のねらい

情報扱いの手段としてのコンピュータおよびネットワークの基本機能と構造について、利用者の観点から理解し、今後学習する講義および実習の支えとなる基礎知識を習得する。また、メディアと情報の関係を様々な視点から展開し、その意味付けをよく理解する。更に、情報と社会の接点、そこに生ずる種々の課題を理解し、情報やメディアの利用者、推進者としての基本的な心構えを体得する。

## 講義の内容・授業スケジュール

- 本講義において取り上げるテーマは、次のとおりである。
- メディアとコンピュータ・ネットワーク  
 近年、情報やメディアを語る上でコンピュータ・ネットワークの理解が不可欠である。ここでは、メディアの基礎、および、コンピュータネットワークの基礎を学び、それらの関係について体得する。
  - ファイルシステムとメディア  
 メディアの格納媒体としてのファイルシステムの基礎を学ぶ。また、その応用例として文書処理のアプリケーションを用いて、ファイルシステムとメディアの関係を体得する。
  - メディア・データベースの基礎  
 多量のメディアを対象とした処理のリテラシーとして、スプレッドシートのアプリケーションやデータベースの基礎を学習する。
  - WWW と HTML  
 WWW 環境における情報やメディアのリテラシーとして、HTML、CSS などについて体得する。
  - メディア・プログラミング  
 メディアと情報のリテラシーを深めるためには、プログラミングに関する原理の理解が効果的である。メディアを対象としたコンピュータ・プログラミングの基礎を学習する。
  - メディアとセキュリティ  
 ここでは、セキュリティ、暗号、著作権、知的財産権などについて学び、メディアと情報のリテラシーを深める。

## 履修上の留意点

本講義の内容は、「情報リテラシー実習」と対応している。

## 成績評価の方法

毎回の講義における出席、期末試験を総合的に評価する。

## 教科書

WWW 上に教材を設定し、教科書とする。

## 参考書等

講義中あるいは教材中に適宜指示する。



科目名	担当者名
情報リテラシー実習	<small>いしばし</small> 石橋 <small>な お き</small> 直樹・ <small>さいとう</small> 齋藤 <small>のぶ</small> 信男 <small>な え む ら</small> 苗村 <small>けんじ</small> 憲司・ <small>みなみ</small> 南 <small>まさ</small> 政樹 <small>よしだ</small> 吉田 <small>な お ふ み</small> 尚史

**講義のねらい** 情報扱いの手段としてのコンピュータおよびネットワークに関する基礎知識を具体化し深く体得するために、情報環境において種々の機能を利用し、その実態、問題点、将来性などを経験し考える機会を持つ。その中で、情報環境への対応の仕方だけでなく、その本質をよく理解し、新しい情報社会の支え手としての基礎知識、経験、見識、判断力を養っていく。

**講義の内容・授業スケジュール** この講義では、次の各項目について、講義「情報リテラシー」と対応して実習を行う。  
 -メディアとコンピュータ・ネットワーク  
 -ファイルシステムとメディア  
 -メディア・データベースの基礎  
 -WWWとHTML  
 -メディア・プログラミング  
 -メディアとセキュリティ

**履修上の留意点** 本講義の内容は、「情報リテラシー」と対応している。

**成績評価の方法** 毎回の講義における出席、期末試験を総合的に評価する。

**教科書** WWW上に教材を設定し、教科書とする。

**参考書等** 講義中あるいは教材中に適宜指示する。

## 講義のねらい

The major objectives for participants in this course are :

1. Understanding the significant theoretical constructs and relevant empirical evidence dealing with organizational-environmental boundary relationships, particularly as these impact creative organizations and the development of "great" or "hot groups" (groups that are able to achieve extraordinary results) ;
2. Working knowledge of the structures and processes of great groups and their activities, particularly those properties that effect management performance ; and,
3. Increased awareness of classical and emerging perspectives on the internal and external factors that give rise to new creative organizational forms.

講義の内容・  
授業スケジュール

As the Industrial Economy gives way to the Creative Economy, this course will concentrate on creative businesses where ideas and talent are more important than physical capital. Various types of creative organizations will be examined: how they operate and how leadership and management are utilized.

The course will be initially organized in the form of a seminar or colloquium utilizing multimedia and the Internet. The instructor as well as guest lecturers will make presentations. The selection of case studies will determine the specific topical areas of focus.

## 履修上の留意点

Cases will be presented orally in class by teams of students, as well as written up by each student team. Class participation is central to the case method of learning. Class participation is defined as in-class comments that are relevant to the focal topic and that illuminate the issue via use of (1) pertinent conceptual/theoretical framework ; (2) logical or intellectual processes ; and/or (3) illustrations drawn from the speaker's work experiences that are directly pertinent to focal topic.

## 成績評価の方法

Evaluation will be based 30% on class discussions, 30% on written case analysis, and 40 % on team presentations (and written team reports) of a planning exercise for a product or service of the team's choosing. Final papers due at or before scheduled exam time.

## 参考書等

There are no required textbooks, only suggested readings. Professor will provide materials from the following :

Warren Bennis and Patricia Ward, *Organizing Genius : The Secrets of Creative Collaboration*, Addison-Wesley Publishing Co., Inc., Reading Mass. , 1997.

Ikujiro Nonaka and Hirotaka Takeuchi, *The Knowledge Creating Company*, New York, Oxford University Press, 1995,

Peter Drucker, *Managing for the Future*, Truman Talley Books, 1992

David B. Yoffie, *Competing in the Age of Digital Convergence*, Boston, MA, Harvard Business School Press, 1997.

Jean Lipman-Blumen and Harold J. Leavitt, *Hot Groups*, New York, Oxford University Press, 1999.

Shona L. Brown and Kathleen M. Eisenhardt, *Competing on the Edge*, Boston, MA Harvard Business School Press, 1998

Geoffrey A. Moore, *Crossing The Chasm*, New York, HarperBusiness, 1995.

Mihaly Csikszentmihalyi, *Creativity*, New York, HarperCollines Publishers, 1996

Harold L. Vogel, *Entertainment Industry Economics*, Cambridge, United Kingdom, 1998.

Peter F. Drucker, *Innovation And Entrepreneurship : Practices and Principals*, New York, Harper & Row Publishers, 1985.

Michael Sorkin, *Variations On A Theme Park*, New York, Hill and Wang, 1992.

Richard Saul Wurman, *Information Architects*, New York, Palace Press International, 1996

William J. Mitchell, *City of Bits*, Cambridge, MA, MIT Press, 1995.

## その他

The Term Project is an opportunity to focus on an area of particular interest to the student. Term Projects will be done in teams of three and should represent about 15 hours of effort per student. Final reports will be presented in class for about 30 minutes each, including discussions. The focus of these projects should involve a creative media business.

科目名	担当者名
コンテンツビジネス論	山口 浩

講義のねらい

アニメ、映画、ゲーム、音楽その他のコンテンツビジネスは、日本の新たな「基幹産業」として国内外から注目を集めています。本科目では、コンテンツビジネスと関係業界の歴史と現状、コンテンツの製作・流通の過程とその管理手法、知的財産権をはじめとするコンテンツビジネスに関わる法制度や政策、デジタル化などの技術進歩とコンテンツビジネスの変遷、コンテンツが社会や文化に与える影響など、影響力の裾野がきわめて広いこの産業の姿を概括的に理解することを目的とします。

講義の内容・授業スケジュール

コンテンツビジネスの歴史と現状、さまざまなコンテンツとその担い手たち、問題点と将来の展望、情報技術の発達とコンテンツビジネス、他。

履修上の留意点

授業中の質問、発言等、積極的な参加を求めます。こちらから指名することもあります。失敗をおそれず、自分の意見を伝える練習の場としてトライしてみてください。

成績評価の方法

配点は以下の通り。  
出席50%、小テスト20%、レポート20%、授業への参加10%

教科書

コンテンツビジネス研究会著『図解でわかるコンテンツビジネス<最新2版>』（日本能率協会マネジメントセンター）2,100円 ISBN4-820-74295-7

参考書等

浜野保樹著『表現のビジネス：コンテンツ制作論』（東京大学出版会）3,200円  
ISBN4-130-63451-8  
デジタルコンテンツ協会編『デジタルコンテンツ白書2005』（デジタルコンテンツ協会）  
4,500円 ISBN4-944-06514-0  
総務省情報通信政策研究所編『メディア・ソフト市場のこれから：変貌するコンテンツ・ビジネス』（東洋経済新報社）2,500円 ISBN4-492-50139-8  
電通総研編『情報メディア白書2006』（ダイヤモンド社）15,750円  
ISBN4-478-02312-3

その他

講義形式、必要に応じて適宜資料配布

科目名	担当者名
コンテンツビジネス論	クボタ, L.

専門教育科目

講義の内容・授業スケジュール

Students who are interested in the emerging digital content business sector and how it is being created will benefit from this course. The movie industry will provide a model for how digital content is being utilized in various forms. People and companies must learn to form new content possibilities in a rapidly changing environment.

成績評価の方法

Evaluation will be based 30% on class discussions, 30% on written case analysis, and 40% on team presentations.

参考書等

There are no required textbooks, only suggested readings. Professor will provide materials from the following:  
Forfas report, *A Strategy for the Digital Content Industry in Ireland*, February 2005  
Digital Content Industry Action Agenda, Austrian Government, Dept of Communications, Information, Technology and the Arts, November 2005  
Japan's Digital Content Industry is Commanding Global Attention, Invest Japan, #9, Summer 2005.  
Report on Japan's Movie Industry  
Harold L. Vogel, *Entertainment Industry Economics*, New York, Cambridge University Press, 2001  
Jason E. Squire, *The Movie Industry Book, 3rd Edition*, Simon and Schuster, 2004

**科目名****担当者名**

メディアと企業

やまぐち  
山口 浩**講義のねらい**

テレビ、新聞、インターネット等の「メディア」と企業のかかわりを概観することを目的とします。企業はその事業目的を達成するため、メディアを通して情報やコンテンツを取り入れたり、メディアに対して情報やコンテンツを発信したり、また自らがメディアとなって情報やコンテンツの流通を媒介したりします。本科目では、こうしたメディアをめぐる企業の活動の概要やその意義、社会の変化や新技術の開発などに伴う新たな動き等を概括的に把握することにより、企業という視点からメディアを理解し、また逆にメディアという視点から企業を理解することを目標とします。

**講義の内容・  
授業スケジュール**

メディアとは、メディアとコンテンツ、さまざまなメディアとその概要、インターネットの発達とメディアや企業の変化

**履修上の留意点**

授業中の質問、発言等、積極的な参加を求めます。こちらから指名することもあります。失敗をおそれず、自分の意見を伝える練習の場としてトライしてみてください。

**成績評価の方法**

配点は以下の通り。  
出席50%、期末テスト30%、小テスト10%、授業への参加10%

**参考書等**

電通総研編『情報メディア白書2005』（ダイヤモンド社） 15,750円  
ISBN4-78-02311-5  
渡部正裕著『これが本当のマスコミだ—社員が教える企業ミシュラン』（東邦出版）1,575円  
ISBN4-80-940425-0  
ダン・ギルモア著、平和博訳『ブログ：世界を変える個人メディア』（朝日新聞社）2,205円  
ISBN4-02-250017-4  
その他、適宜資料等を配布します。

## 講義のねらい

This course provides students an overview to the subject of global business collaboration, ranging from individual networking to nation-wide economic collaboration. Students will be introduced to several issues, such as individual networking and modes of intra-and interfirm collaboration (e.g. joint ventures and research collaboration), drawing on recent practical examples and the theoretical perspectives from economics, cross-cultural management, sociology, and organization and management theory.

講義の内容・  
授業スケジュール

The content of the course is introduced in a series of lectures and from selected readings. These areas are explored further through the use of short case studies and exercises. Cases will be presented orally in class by a team of students, as well as written up by each student team. Class participation is central to the case method of learning. Class participation is defined as in-class comments that are relevant to the focal topic and that illuminate the issue via use of pertinent conceptual and theoretical framework, logical or intellectual processes, and illustrations drawn from the speaker's work experiences that are directly pertinent to focal topic.

## 成績評価の方法

Students are evaluated by several short case papers, class participation, and final exam. Evaluation will be based 40% on written cases, 30% on class participation, and 30% on final exam.

## 参考書等

The required readings will be selected from the following publications:  
 Burt, RS1992. *Structural holes: the social structure of competition*. Cambridge, MA: Harvard University Press.  
 Granovetter M. 1973. The strength of weak ties. *American Journal of Sociology*78 (6) : 1360-1380  
 Ibarra H, Andrews SB. (1993). Power, social influence, and sense making: Effects of network centrality and proximity on employee perceptions. *Administrative Science Quarterly*, 38, 277-303.  
 Meyer GW. (1994). Social information processing and social networks: A test of social influence mechanisms. *Human Relations*, 47, 1013-1048.  
 Monge PR, Contractor NS. (2003). *Theories of communication networks*. New York: Oxford University Press.  
 Nahapiet J, Ghoshal S. 1998. Social capital, intellectual capital, and the organizational Advantage. *Academy of Management Review*23 (2) : 242-266.  
 Other literature (articles, book chapters) as specified later by the instructor.

科目名

担当者名

世界政治とメディア

やまの うち やす ひで  
山 内 康 英

講義のねらい

世界政治とメディアについて受講生の理解を深めるために、(1) 現在の世界政治(国際政治、国際関係)を形作っている要素やその変化の推移、国際社会の見方や国際関係の基礎的な理論、最近の国際政治のトピックなど、(2) マスメディアやインターネットなど各種のメディアの動向など、の2点を取り上げて、両者の相互作用について解説します。GM1年生の選択必修課題目なので、講義は国際社会の具体例を示しながら平易な内容とします。

講義の内容・授業スケジュール

1～4回 国際関係とメディア  
5～9回 グローバリゼーションと近代化/安全保障と経済的相互依存の現状と問題点  
10～14回 情報化と国際社会  
15回 期末試験

履修上の留意点

板書とプロジェクターを使った講義形式とします。

成績評価の方法

出席点、中間レポートおよび期末試験の評点を勘案して成績を評価します。

教科書

石井貫太郎『国際関係論へのアプローチ—理論と実証』(ミネルヴァ書房)1999年  
ISBN:4623030881  
伊藤陽一『ニュースの国際流通と市民意識』(慶應義塾大学出版会)2005年  
ISBN:476641148  
吉見俊哉『メディア文化論—メディアを学ぶ人のための15話』(有斐閣)2004年  
ISBN:4641121907  
公文俊平『情報社会学序説—ラストモダンの時代を生きる』(NTT出版)2004年  
ISBN:475710135

参考書等

岩田一政『国際関係研究入門』(東京大学出版会)2003年 ISBN:4130320378  
ジョセフ・S. ナイ『国際紛争—理論と歴史』(有斐閣)2005年 ISBN:4641173001  
進藤栄一『現代国際関係学—歴史・思想・理論』(有斐閣)2001年 ISBN:4641059942  
ベネディクト・アンダーソン『想像の共同体—ナショナリズムの起源と流行』(NTT出版)1997年 ISBN:487188516  
青木保『「日本文化論」の変容—戦後日本の文化とアイデンティティー』(中央公論新社)1999年 ISBN:4122033993  
エドワード・W. サイード『オリエンタリズム』(上)(下)(平凡社)1993年  
ISBN:4582760112  
吉野耕作『文化ナショナリズムの社会学—現代日本のアイデンティティーの行方』(名古屋大学出版会)1997年 ISBN:4815803153  
グレアム・ターナー『カルチュラル・スタディーズ入門—理論と英国での発展』(作品社)1999年 ISBN:4878933135  
東 浩紀『動物化するポストモダン—オタクから見た日本社会』(講談社現代新書)2001年  
ISBN:4061495755  
津金沢聡広『広報・広告・プロパガンダ』(ミネルヴァ書房)2003年 ISBN:4623039366  
アンソニー・プラトカニス『プロパガンダ—広告・政治宣伝のからくりを見抜く』(誠信書房)1998年 ISBN:4414302854  
アンヌ・モレリ『戦争プロパガンダ10の法則』(草思社)2002年 ISBN:4794211295  
原田 泉、山内康英『ネット社会の自由と安全保障』(NTT出版)2005年  
ISBN:4757101570  
公文俊平(編集)『リーディングズ 情報社会』(NTT出版)2003年 ISBN:4757101015  
アルバート・ラズロ・バラバシ『新ネットワーク思考—世界のしくみを読み解く』(NHK出版)2002年 ISBN:4140807431

科目名

担当者名

国際関係とメディア

しば さき あつ し  
芝 崎 厚 士

講義のねらい

本授業は、(1) 様々なメディアを利用した国際関係の基礎知識の習得、および(2) 様々な分野における国際関係とメディアの関係に関する基礎知識の習得、を目的としている。2年時以降、国際関係を中心としたカリキュラム編成を考えている学生は、できる限り履修すること。

講義の内容・授業スケジュール

内容

授業は、(1) 新聞・雑誌記事を使った近年の国際関係に関する考察 (Newswatch) (2) その日の主要なテーマに関する講義 (3) 音楽・映像・画像などのメディアを鑑賞し、知識を広げメディア・リテラシーを身につける (Mediawatch)、または国際関係における重要な概念や用語を英語で理解する (Wordwatch) の3部構成で行われる。原則として、MediawatchとWordwatchは隔週で行う。それ以外に3回ほど、長めに時間を取って、インターネット上の情報、各種ドキュメンタリーや映画などを中心とした、国際関係とメディアに関する集中的な検討 (MediaExperience) を行う。単なる一方的な講義ではなく、さまざまなテーマについて、読み・書き・見聞きすることで、読解力、表現力を身につけていく。

スケジュール (予定)

- 第1回 ガイダンス / Media Experience 1 (New Style of Documentary)
- 第2回 Chapter 1 (Understanding IR) : 国際関係論入門
- 第3回 Chapter 2 (Power Politics) : パワー・ポリティクスとリアリズム
- 第4回 Chapter 3 (Alternatives to Power Politics) : 国際関係の多様な理論
- 第5回 Chapter 4 (Foreign Policy) : 外交と対外政策
- 第6回 Chapter 5 (International Conflict) & Chapter 6 (Military Force) : 国際紛争と軍事力
- 第7回 Media Experience 2 (Movie type 1)
- 第8回 Chapter 7 (International Organization and Law) : 国際機関と国際法
- 第9回 Chapter 8 (Trade) : 国際経済1 貿易
- 第10回 Chapter 9 (Money and Business) : 国際経済2 金融・ビジネス
- 第11回 Chapter 10 (Integration) : 国際統合と地域主義
- 第12回 Chapter 11 (Environment and Population) : 環境問題
- 第13回 Media Experience 3 (Movie type 2)
- 第14回 Chapter 12 (The North-South Gap) : 南北問題と貧困
- 第15回 Chapter 13 (International Development) : 開発援助と市民社会

成績評価の方法

成績は、(1) 出席点、平常点 (毎週課される提出物を基礎に判断する) (2) 期末試験、で判定する。詳細については授業時に説明する。

教科書

本年度は、英語圏で最も使われている教科書の1つである、Joshua Goldstein, *International Relations*, (最新版は 7th edition, 2005) を使用する。テキストだけでなく、収録されている写真や図表の読解も、重要な目的である。なお、同書と密接にリンクしたウェブサイト (<http://www.internationalrelations.net/>) も、授業中に積極的に活用する。予習・復習にも役立てること。

参考書等

Goldstein 本を購入する必要は必ずしもないが、理解を補助するために、わかりやすい日本語の教科書を各自購入に座右し置くことを推奨する。参考書の例は下記の通り (下記以外でもかまわない)。文献については、授業内でも適宜指示する。

- 山影進・小和田恆『国際関係論』(放送大学教育振興会) 2002年
- 田中明彦ほか編『新国際政治経済の基礎知識』(有斐閣) 2003年
- ジョセフ・S・ナイ・ジュニア、田中明彦ほか訳『国際紛争 理論と歴史(原書第4版)』(有斐閣) 2003年

その他

毎週、その回に行うテーマに関する簡単な英文の要約を自力で日本語に訳すこと、を宿題とする。授業時は、プリント・レジュメを配布する。

## 科目名

インターネットとメディア

担当者名

よし だ なお ふみ  
吉 田 尚 史

### 講義のねらい

インターネットはデジタルコンテンツの配布、共通、閲覧などのサービスを提供する主要な通信メディアの一つとなり、グローバルな研究・ビジネス活動に欠かせないものとなってきた。インターネット上でデジタルコンテンツを用いた様々なサービスを有効かつ効率よく実現するためには、インターネットおよびメディアが持つ特性、構成を理解することが必要不可欠である。この講義では、インターネットの原理、インターネット上に構成された様々なメディアを用いた応用サービスの構成について学ぶ。

### 講義の内容・ 授業スケジュール

本講義において取り上げるテーマは、次のとおりである。本講義では、講義形式と実習形式の組み合わせにより、インターネットの原理、インターネット上のメディアを用いた応用サービスについて体得することを目的とする。

- インターネットの原理
- インターネットのアーキテクチャ・通信方式
- インターネット上のメディアの基礎
- インターネット上のメディア応用サービス
- インターネット上のメディア応用サービスの実現

### 履修上の留意点

情報リテラシー実習を履修済みであること。

### 成績評価の方法

毎回の講義におけるミニレポート、および、期末試験を総合的に評価する。

### 教科書

WWW上に教材を設定し、教科書とする。

### 参考書等

講義中あるいは教材中に適宜指示する。

### その他

本講義は、講義と実習を併せた形式で行う。



講義のねらい

情報はメディア（媒体）によって送付され、処理される。今日のコンピュータ時代には、あらゆる情報はすべてデジタル化され、メディアによって処理される。眼、耳、鼻、口、手、足などの人間の五感を司る要素がデジタル化されたメディアから様々な刺激を受け取るマルチメディアの世界が広がり、デジタルコンテンツという新しい領域の基盤として機能している。このメディアのデジタル化は、従来の社会で常識とされた慣習を新しいものに変革していく原動力ともなっている。放送、新聞、映画、広告、出版など、その将来の姿は、誰も正確に描くことは出来ない。また、著作権、肖像権、個人情報保護など、メディアのデジタル化によって生ずる新しい課題も存在する。

この講義では、デジタルメディアの基礎として、コード化を理解し、またその処理方式について具体的に体験しながら理解する。更に、将来の経済、産業、社会、などに与える影響について、その本質を理解する。

講義の内容・授業スケジュール

(ア) メディアのデジタル化の基礎

文字、音、画像、映像など人間の扱う情報は、コンピュータにより処理されるためにデジタル化（デジタルメディア）して扱う。そのために、各種メディアに対して、そのコード化を行い、情報システムに取り込んで扱う。その基本的機能を理解し習得する。

(イ) デジタルメディアの処理

デジタルメディアは、デジタルネットワークによる送受信、コンピュータによる柔軟な変換、メディア機器によるユーザへの表示など、様々な処理が行われる。また、デジタルメディアは、情報システム内で混在でき、マルチメディアとして扱える。その基本機能について理解し、体験的に習得する。

(ウ) デジタルメディアの応用

デジタルメディアは、情報システム内ではまったく同等に扱うことが出来るので、その融合、相互変換、などが容易に出来る。その結果、人間の感性に訴える新しいコンテンツを創造することが可能となる。それは、新しいデジタルコンテンツという領域を開いていき、アニメーション、デジタルムービー、電子音楽、ネットワークゲーム、電子ブック、仮想現実感などが生まれてきた。その概要を理解し、新たな世界の存在を実感する。

(エ) デジタルコンテンツの抱える課題

デジタルメディアは、ネットワーク上で簡単に送受信できるので、地球上に広がるインターネットに存在するデジタルコンテンツに簡単にアクセスできる。ここでは、著作権保護、個人情報保護など、新たな課題とその解決法を探求する必要がある。ここでは、その課題の本質と重要性を理解する。

(オ) デジタルメディアの社会に与えるインパクト

デジタルメディアの利用により、従来の慣習や常識を超えた新しい文化、ビジネス、産業が生まれてくる。ネットビジネス、放送とネットワークの融合、ネットワーク広告、電子投票、電子図書館、デジタルミュージアム等々、その可能性は大きい。ここでは、将来方向とその本質を理解する。

履修上の留意点

コンピュータによるデジタルメディアの処理について、課題として出すことがある。

成績評価の方法

試験、課題レポート、出席の総合評価により判定する。

教科書

特に指定しない。

参考書等

講義の内容に応じて、その都度紹介する。

科 目 名	担 当 者 名
メディア・コミュニケーション概論	にしおかようこ 西岡洋子

講義のねらい

本講義では、コミュニケーションの基本機能およびコミュニケーションにおいて活用されるメディアの基本的特性を理解することを目的とする。まずは、コミュニケーションの基本的構造モデルを紹介したのちに、コミュニケーション主体の違いによって展開される異なるレベルのコミュニケーション（個人、グループ、マスのレベル）があることを理解する。さらには、それぞれのコミュニケーションにおいてどのようなメディアが活用されているか、さらには、それがどのように使い分けられ、また、変化しようとしている大きな傾向を理解する。

講義の内容・授業スケジュール

- ① イントロダクション：コミュニケーションとメディア
  - (ア) メディアの多様化
  - (イ) コミュニケーション・モデルとコミュニケーションの種別
- ② 個人レベルのコミュニケーションとメディア
  - (ア) 人と人とのコミュニケーション
  - (イ) 生活におけるメディア
  - (ウ) 電話コミュニケーション
- ③ グループのコミュニケーションとメディア
  - (ア) 企業内
  - (イ) コミュニティ内
  - (ウ) 集団行動・社会運動
- ④ マス・コミュニケーションとメディア
  - (ア) マス・コミュニケーションとメディア
- ⑤ グローバル時代のコミュニケーションとメディア
  - (ア) 国際コミュニケーションとメディア
  - (イ) 情報化社会のコミュニケーションとメディア
  - (ウ) インターネットのコミュニケーション
- ⑥ まとめ

履修上の留意点

とくになし。

成績評価の方法

期末試験、講義中の小テスト、出席による。

教科書

適宜指定。

参考書等

『情報通信白書』 <http://www.johotsusintokei.soumu.go.jp/whitepaper/index.html>  
 船津衛（著）『コミュニケーション入門』（有斐閣アルマ）  
 池田謙一（著）『コミュニケーション：社会科学の理論とモデル』（東京大学出版）

## 講義のねらい

通信および放送は、従来、公共財として様々な規制のもとに事業を展開してきた。また、近年、その重要性を増しているインターネットは、従来の規制枠組みに入りきれない。本講義では、これら通信および放送に対する規制の基本的内容およびその論拠を理解したうえで、インターネットも含めたメディア政策の概要を把握する。また、学期の後半においては、日本、米国、欧州のメディア政策を比較し、その差および特徴とそれを生み出した背景を理解する。

講義の内容・  
授業スケジュール

- ① イントロダクション
  - (ア) メディア政策の範囲
  - (イ) メディア産業の動向
- ② 放送政策
  - (ア) 放送の特質と基本的政策
  - (イ) 公共放送
  - (ウ) 放送産業
  - (エ) 放送のデジタル化
- ③ 通信政策
  - (ア) NTTの再編と競争政策
  - (イ) ブロードバンド
  - (ウ) 携帯電話
- ④ インターネット時代のメディア政策
  - (ア) 通信と放送の融合
  - (イ) 情報利用者保護
  - (ウ) コンテンツ政策
- ⑤ 欧米のメディア政策
  - (ア) 米国
  - (イ) 欧州
- ⑥ まとめ

## 履修上の留意点

とくになし。

## 成績評価の方法

期末試験、講義中の小テスト、出席による。

## 教科書

適宜指定。

## 参考書等

『情報通信白書』<http://www.johotsusintokei.soumu.go.jp/whitepaper/index.html>

講義のねらい

グローバル経営論Ⅰの講義をさらに深めることを目的とします。グローバル経営を追求する企業が、世界規模で付加価値活動を展開し、競争優位を築いていくための論理と、現実の企業行動を、事例研究を用いて理解することを目指します。グローバル経営はドメスティックな経営全般とは本質的に異なる属性をもち、単なる経営上のファンクション分野における国際化を越えたフレームワークを理解しなければなりません。世界に通じるグローバル経営の理論武装となるように、先行研究の成果を踏まえて、最新の理論動向まで修得します。

講義の内容・授業スケジュール

グローバル経営は、政治、社会、文化など各国の様々な条件が考慮されているため、非常に複雑に見えますが、(1) どのような論理で組織が構築され、(2) どのような戦略が実行されているのかという2つの視点を念頭において理解してみると、わかりやすくなります。したがって、本講義は、組織論・戦略論をベースに体系的に解説します。

- I. グローバル経営の論理
  - 1. 企業活動の国際展開の論理
  - 2. グローバル経営の戦略論
  - 3. グローバル経営の組織論
  - 4. 海外子会社関係のマネジメント
  - 5. グローバル統合とローカル適応の論理
  - 6. トランスナショナル経営論
- II. グローバル経営の革新
  - 7. グローバル企業のイノベーション
  - 8. グローバル企業におけるナレッジ・マネジメント
  - 9. グローバル R&D マネジメント
  - 10. グローバル戦略提携のマネジメント
- III. グローバル経営環境とマネジメント
  - 11. グローバルな人的資源戦略
  - 12. リージョナル・マネジメント
  - 13. グローバル経営における文化
  - 14. まとめ

履修上の留意点

グローバル経営論Ⅰをすでに履修した学生に限ります。Ⅰと同様、学習素材として新聞、雑誌、インターネットを始めとした幅広い情報源を駆使して、企業関連のニュースを理解することを心がけて下さい。

成績評価の方法

各期定期試験と、講義中に実施する理解度テストにより総合的に評価します。

教科書

開講時に指示。

参考書等

必要に応じて随時紹介。

**科 目 名****担 当 者 名**

コンピュータワークショップ

石橋直樹  
いし ぼし なお き**講義のねらい**

社会のさまざまな分野に存在する多様な問題をデジタル情報で表現し、コンピュータ上のソフトウェアによって解決するためにはどうブレークダウンするかというプロセスの体得を目指す。このためには、解決方法をコンピュータが理解できるプログラミング言語で記述する手法の習得が不可欠である。この講義では、特定の分野に偏らず、プログラミングの概念、その構成を学び、さらに、実習を通じて実際のソフトウェア開発を体験する。

**講義の内容・  
授業スケジュール**

本講義は、プログラミング言語 Perl の演習を通じ、WWW 環境を対象としたソフトウェア開発の過程を学ぶことを目的として、次のスケジュール（予定）で行う。

1. 導入—Perl を用いたプログラミング
2. WWW におけるサーバ・サイド・プログラミング—CGI
3. Perl の基本構造
4. CGI 入門—Hello, World
5. 変数を用いた Programming
6. HTML との連携—GET と POST
7. Perl における if 構文—分岐
8. Perl における while 構文、for 構文—繰り返し
9. Perl における文字列処理—正規表現
10. ファイルの読み書き
11. Perl におけるサブルーチン—部品化
12. 応用—チャット・システムの構築
13. まとめ

**履修上の留意点**

情報リテラシー実習を履修済みであること。

**成績評価の方法**

毎回の講義におけるミニレポート、学期末に作成するプログラムに関するレポート、ならびに、毎回の講義における出席状況を総合的に評価する。

**教 科 書**

Web において電子教材を提供する。

**参 考 書 等**

講義中において教材を指定する。

**そ の 他**

本講義は、講義と実習をあわせた形式で行う。

**科目名**

コンピュータワークショップ

**担当者名**

苗村憲司

**講義のねらい**

社会のさまざまな分野に存在する多様な問題をデジタル情報で表現し、コンピュータ上のソフトウェアによって解決するためにはどうブレークダウンするかというプロセスの体得を目指す。このためには、解決方法をコンピュータが理解できるプログラミング言語で記述する手法の習得が不可欠である。この講義では、特定の分野に偏らず、プログラミングの概念、その構成を学び、さらに、実習を通じて実際のソフトウェア開発を体験する。

**講義の内容・  
授業スケジュール**

授業は次のスケジュール（予定）で行い、Java 言語によるプログラムの読み書き能力を身に付けることを目標とする。

- ①問題解決の手段としてのプログラム
- ②アルゴリズムの構造（1）場合分けと繰り返し
- ③アルゴリズムの構造（2）部品化と再帰
- ④データの種類
- ⑤データの構造
- ⑥オブジェクト指向
- ⑦配列の処理と探索
- ⑧ソート（1）選択／バブル／挿入・ソート
- ⑨ソート（2）併合／クイック・ソート
- ⑩入力と出力
- ⑪アプレットとアプリケーション
- ⑫ファイルの取り扱い
- ⑬作成プログラムの発表

**履修上の留意点**

情報リテラシー実習を履修済みであること。また、この科目では、Java の環境を設定したパソコンを使用する。

**成績評価の方法**

出席、ミニテストおよびグループで作成するプログラムの完成度によって評価する。

**教科書**

Web 上に電子教材を提供する。

**参考書等**

電子教材の中で参考書を紹介する。

**その他**

講義と実習を併せた形式で行う。

## 講義のねらい

社会のさまざまな分野に存在する多様な問題をデジタル情報で表現し、コンピュータ上のソフトウェアによって解決するためにはどうブレークダウンするかというプロセスの体得を目指す。このためには、解決方法をコンピュータが理解できるプログラミング言語で記述する手法の習得が不可欠である。この講義では、特定の分野に偏らず、プログラミングの概念、その構成を学び、さらに、実習を通じて実際のソフトウェア開発を体験する。

講義の内容・  
授業スケジュール

本講義において取り上げる予定のテーマは、次のとおりである。分野やプログラミング言語に偏らず、プログラミングの概念・構成を学び、さらに、与えられたサンプルプログラムを編集・実行する実習を通じて、様々な社会上の問題をプログラミング言語により表現する方法を習得することを目標とする。

1. Perl 言語 (1) プログラミング言語の導入
2. Perl 言語 (2) 制御構造
3. Perl 言語 (3) 変数、型、配列
4. Perl 言語 (4) データ構造とアルゴリズム
5. JavaScript (1) プログラミング言語の種類と JavaScript 言語
6. JavaScript (2) WWW 環境におけるプログラミング
7. JavaScript (3) ユーザインタフェース・プログラミング
8. JavaScript (4) 複数プログラムの連携
9. Java (1) プログラミング言語の種類と Java 言語
10. Java (2) オブジェクト指向
11. Java (3) メディア処理
12. Java (4) アプレット環境
13. Java (5) まとめ
14. まとめ

## 履修上の留意点

情報リテラシー実習を履修済みであること。

## 成績評価の方法

毎回の講義におけるミニレポート、および、期末試験を総合的に評価する。

## 教科書

WWW 上に教材を設定し、教科書とする。

## 参考書等

講義中あるいは教材中に適宜指示する。

## その他

本講義は、講義と実習を併せた形式で行う。





